宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書　第167集

中ノ迫第２遺跡

なか　の　さこ

Nakanosako2 Site

東九州自動車道（都農～西都間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書56

2008

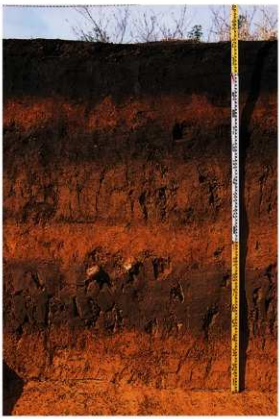
宮崎県埋蔵文化財センター

南方向から臨む中ノ迫第２遺跡周辺

南西方向から臨む中ノ迫第２遺跡

中ノ迫第２遺跡全景（上が北）

後期旧石器時代Ⅱ期石器接合資料



中ノ道第２遺跡Ａ区土層

旧石器時代Ⅱ期石器ブロック検出状況

縄文時代早期S112・38周辺散礫

縄文時代早期出土土器

弥生時代出土遺物①

弥生時代出土遺物②

序

宮崎県教育委員会では、東九州自動車道（都農～西都間）建設予定地にかかる埋蔵文化財の発掘調査を平成11年度から実施しております。本書はその発掘調査報告書であります。

本書に掲載した中ノ迫第２遺跡は、平成17年６月から平成18年３月まで発掘調査を行い、縄文時代早期の集石遺構を中心として、後期旧石器時代や弥生時代の遺構・遺物が見つかりました。

ここに報告する内容は、今後、当地域の歴史を解明する上で貴重な資料になるものと考えられます。

本書が学術資料となるだけでなく、学校教育や生涯学習の場などで活用され、また、埋蔵文化財保護に対する理解の一助になれば幸いです。

最後に、調査にあたって御協力いただいた関係諸機関・地元の方々、並びに御指導・御助言を賜った先生方に対して、厚くお礼申し上げます。

平成20年２月

宮崎県埋蔵文化財センター
所　長　　清　野　　勉

例言

1　本書は、東九州自動車道（都農～西都間）建設に伴い、宮崎県教育委員会が実施した中ノ迫第２遺跡の発掘調査報告書である。

2　発掘調査は、日本道路公団九州支社から委託を受けて宮崎県教育委員会が調査主体となり、宮崎県埋蔵文化財センターが実施した。なお、日本道路公団は平成17年10月１日より分割民営化され、西日本高速道路株式会社九州支社となったが、本報告書では日本道路公団として記載する。

3　現地での実測・写真撮影等の記録は、佐竹智光、長友久昭、島木良浩、大山博志、白地浩、松元一浩、森本征明、堀口悟史、小船井順、児玉幹、河野雅人が行い、一部について発掘作業員の協力を得た。また、本書で使用した遺物写真は、佐竹が撮影した。

4　測量・空中写真・自然科学分析等は、次の機関に委託した。

地形測量・グリッド杭設定　：（有）川南技術コンサルタント

空中写真　：（株）九州航空

自然科学分析　：（株）パリノ・サーヴェイ

5　土層断面及び一部の石器、土器の色調については、農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版標準土色帖』に拠った。

6　石器実測は、一部の実測及びトレースを大成エンジニアリング株式会社に委託し、他は本センターの整理作業員の補助を得て佐竹智光が行った。

7　整理作業は、遺物については中ノ迫第２遺跡現場事務所及び宮崎県埋蔵文化財センターで行い、礫の一部については川南整理作業棟において行った。

8　本書に使用した遺跡分布図は、国土地理院発行の1/50,000図をもとに、遺跡周辺地形図は、日本道路公団宮崎工事事務所から提供の1/1,000図をもとに作成した。

9　本書で使用している国土座標は、旧平面直角座標系Ⅱ（日本測地系）による。レベルは海抜絶対高である。

10　本報告書で使用する遺構の略号は以下の通りである。

竪穴状住居跡・・・ＳＡ　礫群、集石遺構・・・ＳＩ　炉穴・・・ＳＰ

土坑・・・ＳＣ　不明遺構・・・ＳＺ

11　挿図の縮尺は次の通りである。

遺構・遺物分布図・・・１／1,000、１／1,500

遺構実測図・・・１／30、１／40、１／60

遺物実測図・・・１／２、１／３、２／３　※以上を基本とするが、これ以外のものもある。

12　本書の執筆並びに編集は、佐竹智光が担当した。

13　本書に使用した方位は、主に磁北（M.N.）であり、位置図などの一部は、座標北（G.N.）である。

14　本遺跡の出土遺物並びにその他の諸記録類は、宮崎県埋蔵文化財センターで保管している。

本文目次

第Ⅰ章　はじめに
第１節　調査に至る経緯・・１
第２節　調査の組織・・１

第Ⅱ章　遺跡の環境
第１節　地理的環境・・・３
第２節　歴史的環境・・・３

第Ⅲ章　調査の経過と方針
第１節　確認調査の概要・・４
第２節　発掘調査の方法・概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５
第３節　整理作業及び報告書作成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６
第４節　遺構・石材に対する基本的な考え方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７

第Ⅳ章　発掘調査の記録
第１節　基本層序・・８
第２節　遺構と遺物
（1）後期旧石器時代Ⅰ期の遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１３
（2）後期旧石器時代Ⅱ期の遺構・遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１４
（3）縄文時代早期の遺構・遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３２
（4）弥生時代の遺構・遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７０
（5）その他の時代の遺構・遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７９

第Ⅴ章　自然科学分析
第１節　分析の経緯・・・８０
第２節　放射性炭素年代測定・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８０
第３節　樹種同定・・８１
第４節　考察・・８３

第Ⅵ章　まとめ
第１節　中ノ迫第２遺跡の様相・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８６
第２節　周辺遺跡との比較・検討・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８７
第３節　おわりに・・・９１

挿図目次

第１図　周辺遺跡位置図・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
第２図　周辺地形及び確認調査トレンチ位置図・・・・・・4
第３図　確認調査出土遺物実測図・・・・・・・・・・・・5
第４図　K-Ah 残存範囲図・・・・・・・・・・・・・・・・8
第５図　グリッド配置及び土層実測位置図・・・・・・・・9
第６図　調査区土層実測図(1)・・・・・・・・・・・・・9
第７図　調査区土層実測図(2)・・・・・・・・・・・・・10
第８図　全遺構分布図・・・・・・・・・・・・・11・12
第９図　後期旧石器時代Ⅰ期石器実測図・・・・・・・・13
第10図　石器ブロック出土遺物分布図・・・・・・・・・14
第11図　後期旧石器時代Ⅱ期礫群実測図(1)・・・・・・15
第12図　後期旧石器時代Ⅱ期礫群実測図(2)・・・・・・16
第13図　後期旧石器時代Ⅱ期石器実測図(1)・・・・・・18
第14図　後期旧石器時代Ⅱ期石器実測図(2)・・・・・・19
第15図　後期旧石器時代Ⅱ期石器実測図(3)・・・・・・20
第16図　後期旧石器時代Ⅱ期石器実測図(4)・・・・・・21
第17図　後期旧石器時代Ⅱ期石器実測図(5)・・・・・・22
第18図　後期旧石器時代Ⅱ期石器実測図(6)・・・・・・23
第19図　後期旧石器時代Ⅱ期石器実測図(7)・・・・・・24
第20図　後期旧石器時代Ⅱ期石器実測図(8)・・・・・・25
第21図　後期旧石器時代Ⅱ期石器実測図(9)・・・・・・26
第22図　後期旧石器時代Ⅱ期石器実測図(10)・・・・・・27
第23図　後期旧石器時代Ⅱ期石器実測図(11)・・・・・・28
第24図　後期旧石器時代Ⅱ期石器実測図(12)・・・・・・29
第25図　後期旧石器時代Ⅱ期石器実測図(13)・・・・・・30
第26図　後期旧石器時代Ⅱ期石器実測図(14)・・・・・・31
第27図　SI12・38周辺散礫分布図・・・・・・・・・・・32
第28図　縄文時代早期集石遺構実測図(1)・・・・・・・33
第29図　縄文時代早期集石遺構実測図(2)・・・・・・・34
第30図　縄文時代早期集石遺構実測図(3)・・・・・・・36
第31図　縄文時代早期集石遺構実測図(4)・・・・・・・37
第32図　縄文時代早期集石遺構実測図(5)・・・・・・・38
第33図　縄文時代早期集石遺構実測図(6)・・・・・・・40
第34図　縄文時代早期集石遺構実測図(7)・・・・・・・41
第35図　縄文時代早期炉穴・土坑実測図・・・・・・・・43
第36図　縄文時代早期土器実測図(1)・・・・・・・・・45
第37図　縄文時代早期土器実測図(2)・・・・・・・・・46
第38図　押型文土器分布図・・・・・・・・・・・・・・47
第39図　縄文時代早期土器実測図(3)・・・・・・・・・49
第40図　縄文時代早期土器実測図(4)・・・・・・・・・50
第41図　条痕文土器分布図・・・・・・・・・・・・・・51
第42図　縄文時代早期土器実測図(5)・・・・・・・・・52
第43図　縄文時代早期土器実測図(6)・・・・・・・・・53
第44図　刺突文土器分布図・・・・・・・・・・・・・・54
第45図　縄文時代早期土器実測図(7)・・・・・・・・・55
第46図　撚糸文土器分布図・・・・・・・・・・・・・・56
第47図　縄文時代早期石器実測図(1)・・・・・・・・・58
第48図　縄文時代早期石器実測図(2)・・・・・・・・・59
第49図　石鏃・チップ分布図・・・・・・・・・・・・・60
第50図　縄文時代早期石器実測図(3)・・・・・・・・・61
第51図　縄文時代早期石器実測図(4)・・・・・・・・・62
第52図　縄文時代早期石器実測図(5)・・・・・・・・・63
第53図　縄文時代早期石器実測図(6)・・・・・・・・・64
第54図　縄文時代早期石器実測図(7)・・・・・・・・・65
第55図　縄文時代早期石器実測図(8)・・・・・・・・・66
第56図　縄文時代早期石器実測図(9)・・・・・・・・・67
第57図　縄文時代早期石器実測図(10)・・・・・・・・・68
第58図　縄文時代早期石器実測図(11)・・・・・・・・・69
第59図　弥生時代SA1実測図・・・・・・・・・・・・・70
第60図　SA1出土土器実測図・石器実測図(1)・・・・・71
第61図　SA1出土石器実測図(2)・・・・・・・・・・・72
第62図　弥生時代SA2実測図・・・・・・・・・・・・・73
第63図　SA2出土土器実測図(1)・・・・・・・・・・・74
第64図　SA2出土土器実測図(2)・・・・・・・・・・・75
第65図　SA2出土土器実測図(3)・・・・・・・・・・・76
第66図　SA2出土土器実測図(4)・石器実測図・・・・・77
第67図　包含層等出土弥生土器実測図・・・・・・・・・78
第68図　時期不明遺構実測図・時期不明土坑出土土器実測図
・・・・・・79
第69図　層年較正曲線図・・・・・・・・・・・・・・・85
第70図　中ノ迫遺跡位置図・・・・・・・・・・・・・・87
第71図　中ノ迫遺跡基本土層・文化層比較図・・・・・88

表 目 次

第１表　集石遺構観察表・・・・・・・・・・・・・・・・42
第２表　放射性炭素年代測定結果表・・・・・・・・・・82
第３表　暦年較正結果表・・・・・・・・・・・・・・・82
第４表　樹種同定結果表・・・・・・・・・・・・・・・82
第５表　中ノ迫遺跡検出遺構数比較表・・・・・・・・・89
第６表　中ノ迫遺跡後期旧石器時代Ⅱ期遺物数比較表・・89
第７表　中ノ迫遺跡出土黒曜石産地一覧表・・・・・・・90
第８表　中ノ迫第２遺跡石器観察表(1)・・・・・・・・92
第９表　中ノ迫第２遺跡石器観察表(2)・・・・・・・・93
第10表　中ノ迫第２遺跡石器観察表(3)・・・・・・・・94
第11表　中ノ迫第２遺跡石器観察表(4)・・・・・・・・95
第12表　中ノ迫第２遺跡石器観察表(5)・・・・・・・・96
第13表　中ノ迫第２遺跡石器観察表(6)・・・・・・・・97
第14表　中ノ迫第２遺跡石器観察表(7)・・・・・・・・98
第15表　中ノ迫第２遺跡石器観察表(8)・・・・・・・・99
第16表　中ノ迫第２遺跡土器観察表(1)・・・・・・・・99
第17表　中ノ迫第２遺跡土器観察表(2)・・・・・・・100
第18表　中ノ迫第２遺跡土器観察表(3)・・・・・・・101
第19表　中ノ迫第２遺跡土器観察表(4)・・・・・・・102

図版目次

図版１　樹種同定炭化材・・・・・・・・・・・・・・・103
図版２　後期旧石器時代Ⅱ期礫群　SI １～８・・・・・104
図版３　縄文時代早期集石遺構Ⅰ類
　SI 7･12･32･38・・・・・・・・・・・・・105
図版４　縄文時代早期集石遺構Ⅱ類
　SI 2･3･5･8～10･13･14・・・・・・・・106
図版５　縄文時代早期集石遺構Ⅱ・Ⅲ類
　SI 18･23～27･29･31･33・・・・・・・・107
図版６　縄文時代早期集石遺構Ⅱ・Ⅲ類
　SI 37･1･4･15～17･19・・・・・・・・・108
図版７　縄文時代早期集石遺構Ⅲ類
　SI 20～22･28･30･34～35・・・・・・・・109
図版８　縄文時代早期集石遺構Ⅲ類　SI36
　縄文時代早期炉穴　SP1
　縄文時代早期土坑　SC1
　縄文時代早期SI12・38周辺散礫
　G11グリッド（Ⅲ層）遺物検出
　A区（Ⅲ層）作業風景
　弥生時代竪穴住居跡　SA1・・・・・・・・・110
図版９　弥生時代竪穴住居跡　SA1･2
　時期不明土坑　SC1
　時期不明遺構　SZ1・・・・・・・・・・・・・111
図版10　確認調査出土遺物　１～６
　後期旧石器時代Ⅰ期石器　７～10・・・・・・112
図版11　後期旧石器時代Ⅱ期石器
　接合資料1(11～23)･2(24～33)・・・・・113
図版12　後期旧石器時代Ⅱ期石器
　接合資料3(34～45)･4(46～52)・・・・・114
図版13　後期旧石器時代Ⅱ期石器
　接合資料5(53～57)･6(58･59)
　60～71・・・・・・・・・・・・・・・・・115
図版14　後期旧石器時代Ⅱ期石器
　72～88・89～97・・・・・・・・・・・・116
図版15　後期旧石器時代Ⅱ期石器
　98～123・124～131・・・・・・・・・・117
図版16　後期旧石器時代Ⅱ期石器　132～134
　縄文時代早期土器　135～153・・・・・・・118
図版17　縄文時代早期土器
　154～173・174～186・・・・・・・・・119
図版18　縄文時代早期土器
　187～197・198～200・・・・・・・・・120
図版19　縄文時代早期土器
　201・202・203～216・・・・・・・・・121
図版20　縄文時代早期石器
　217～264・265～307・・・・・・・・・122
図版21　縄文時代早期石器
　308～311・312～315・・・・・・・・・123
図版22　縄文時代早期石器
　316～325・326～333・・・・・・・・・124
図版23　縄文時代早期石器
　334～338・339～342・・・・・・・・・125
図版24　縄文時代早期石器　343～345
　弥生時代SA1出土遺物　346～352・・・・・126
図版25　弥生時代SA1出土遺物　353～358
　弥生時代SA2出土遺物　359～363・・・・・127
図版26　弥生時代SA2出土遺物
　364～375・376～380・・・・・・・・・128
図版27　弥生時代SA2出土遺物 381～384
　弥生時代包含層等出土土器　385～388
　時期不明SC1出土土器　389・・・・・・・129

第Ⅰ章　はじめに

第１節　調査に至る経緯

東九州自動車道（都農～西都間）は、平成元年２月に基本計画がなされ、平成９年３月には整備計画路線となっている。さらに、平成９年12月に建設大臣（現国土交通大臣）から日本道路公団へ施行命令が出され、公団では翌年の２月から事業に着工している。その間、県教育委員会では、平成６年度に延岡～西都間の遺跡詳細分布調査を行い、それに基づき埋蔵文化財の保護について関係機関と協議を重ねた結果、工事施工によって影響が出る部分については、工事着手前に発掘調査を実施することとなった。調査は、平成11年度から県教育委員会が日本道路公団の委託を受け、宮崎県埋蔵文化財センターで行っている。

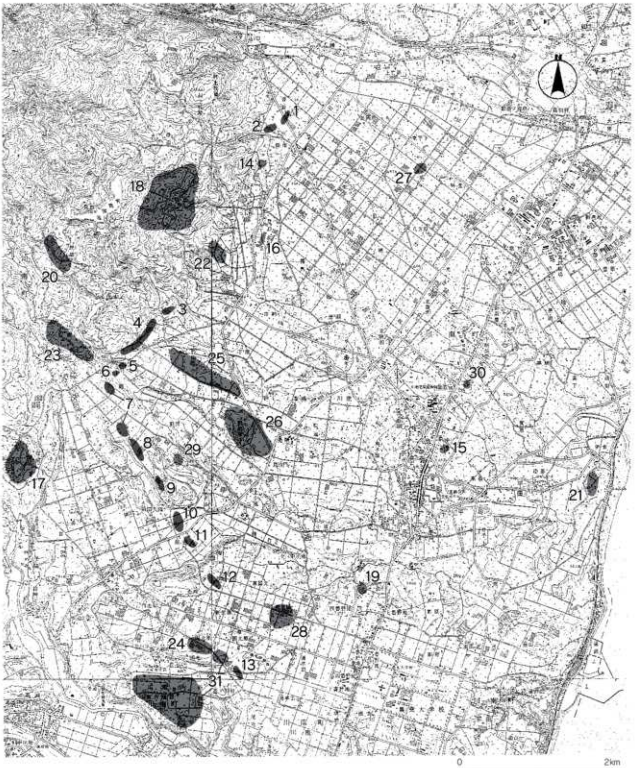
本遺跡の確認調査は２回に分けて行われた。一次が平成13年10月15日～11月30日、二次が平成17年２月16日～３月18日に実施された。その結果、縄文時代のものと思われる集石遺構が検出され、後期旧石器時代、縄文時代早期の遺物が出土した。これらの確認調査の結果をもとに、全調査対象面積を19,130㎡として、平成17年６月９日～平成18年３月30日まで本調査を実施した。整理作業は平成17年11月から実施し、平成19年度に終了した。

調査終了後、平成19年２月３日に、同じ川南町内の中ノ迫第３遺跡、登り口第１遺跡、登り口第２遺跡、市納上第２遺跡と合同で調査報告会を行い、117名の参加を得た。

第２節　調査の組織

調査主体　宮崎県教育委員会
　　宮崎県埋蔵文化財センター
所　長　宮園　淳一（平成17年度）
　　清野　　勉（平成18・19年度）
副所長　加藤　悟郎（平成18・19年度）
副所長兼調査第二課長
　　岩永　哲夫（平成17・18年度）
総務課長　宮越　　尊（平成17～19年度）
調査第一課長
　　髙山　富雄（平成17・18年度）
　　長津　宗重（平成19年度）
主幹兼総務係長
　　石川　恵史（平成17年度）
主幹兼総務担当リーダー
　　髙山　正信（平成18・19年度）
調査第一課
主幹兼調査第一係長
　　長津　宗重（平成17年度）
主幹兼調査第一担当リーダー
　　長津　宗重（平成18年度）
副主幹兼調査第一担当リーダー
　　南中道　隆（平成19年度）
主幹兼調査第二係長
　　菅付　和樹（平成17年度）
主幹兼調査第二担当リーダー
　　菅付　和樹（平成18・19年度）
（調査・報告書担当）
主事　佐竹　智光（平成17～19年度）
（調査担当）
調査第一課調査第一担当
主査　大山　博志（平成17年度）
調査第一課調査第二担当
主査　長友　久昭（平成17年度）
主査　島木　良浩（平成17年度）

調査指導委員（敬称略）
泉　拓良（京都大学）
小畑　弘己（熊本大学）
田崎　博之（愛媛大学）
広瀬　和雄（国立歴史民俗博物館）
本田　道輝（鹿児島大学）
柳沢　一男（宮崎大学）



1　銀座第１遺跡　2　銀座第２遺跡　3　虚空蔵免遺跡　4　赤石・天神本遺跡　5　天神本第２遺跡
6　大内原遺跡　7　中ノ迫第１遺跡　8　中ノ迫第２遺跡　9　中ノ迫第３遺跡　10　前ノ田村上第１遺跡
11　前ノ田村上第２遺跡　12　赤坂遺跡　13　湯牟田遺跡　14　蔵座村遺跡　15　後牟田遺跡　16　霧島遺跡
17　白鷺遺跡　18　旭ヶ丘遺跡　19　番野地Ｃ遺跡　20　椎原遺跡　21　大久保遺跡　22　谷ノ口遺跡
23　住吉Ｂ遺跡　24　上ノ原遺跡　25　丸山西原遺跡　26　松ヶ迫遺跡　27　東平下遺跡　28　把言田遺跡
29　中ノ迫Ａ遺跡　30　野稲尾遺跡　31　川南古墳群

※１～12は東九州自動車道（都農～西都間）建設に伴う発掘調査遺跡

第１図　周辺遺跡位置図（1/50,000）

第Ⅱ章　遺跡の環境

第１節　地理的環境

川南町は、日向灘を望む宮崎県北東部に位置し、北は都農町、西は木城町、南は高鍋町に接している。町北西部には、上面木山（1,040m）を中心とする尾鈴山系が連なり、その東麓から小丸川や平田川、中須川、名貫川によって形成された平坦な14面の段丘が広がる。町内では北から大きく唐瀬原・国光原・川南・高城の４面に分かれている。

中ノ迫第２遺跡は、大内・大内原・須田久保に広がる舌状台地（唐瀬原段丘面）の縁辺部標高100m前後に立地し、南方には小丸川支流の切原川が流れ、十文字扇状地Ⅱ面が広がる。遺跡周辺には同台地上に、北に中ノ迫第１遺跡、南に中ノ迫第３遺跡、南東側に中ノ迫Ａ遺跡、南の扇状地に前ノ田村上第１・第２遺跡が分布する。

第２節　歴史的環境

本遺跡の調査では、後期旧石器時代、縄文時代早期、弥生時代の遺構・遺物を確認した。そこで、同時代の中ノ迫第２遺跡周辺遺跡について概観する。

川南町は、山地とその東麓から海岸に広がる平坦な段丘面からなっており、各時代の遺跡の多くは段丘上に位置している。

（後期旧石器時代）

この時代の代表として、川南段丘面に位置し、姶良Tn火山灰層（AT）下位～霧島イワオコシ上位の石器群が出土した後牟田遺跡が挙げられる。また、最近の調査では、中ノ迫第１・第３遺跡、前ノ田村上第２遺跡等でナイフ形石器や角錐状石器と共に礫群が検出されている。

（縄文時代）

当初、川南町における縄文時代は、後の時代に比べ非常に少なかったが、後牟田遺跡、霧島遺跡、上ノ原遺跡等において早期の遺構・遺物が確認されると共に、近年の東九州自動車道建設による調査により、次第にその数を増加させている。赤石・天神本遺跡や前ノ田村上第２遺跡、国光原遺跡で草創期の隆帯文土器が、市納上第２遺跡や尾花坂上遺跡、中ノ迫第３遺跡、国光原遺跡では数多くの集石遺構と共に、早期の押型文土器等が出土している。また、赤石・天神本遺跡では、後・晩期の竪穴住居跡が検出されている。

（弥生時代）

弥生時代の遺跡は、旧石器時代や縄文時代の遺跡と比べて数多く調査されている。それは東九州自動車道関連の遺跡においても同様で、赤坂遺跡では円形周溝墓や周溝状遺構が、尾花Ａ遺跡では古墳時代前期までを含めた300軒以上の竪穴住居跡が検出されるなど大規模集落の様相を見せるものを中心に、発掘調査を行った遺跡のほとんどで弥生時代の遺構・遺物が検出されている。

【引用参考文献】

「川南町史」1983　川南町教育委員会

「川南町の埋蔵文化財」遺跡詳細分布調査報告書　1983　川南町教育委員会

「後牟田遺跡」宮崎県川南町後牟田遺跡における旧石器時代の研究　2002　川南町教育委員会　後牟田遺跡調査団

「東九州自動車道（都農～西都間）関連埋蔵文化財発掘調査概要報告書Ⅵ」「宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書」第131集　2006　宮崎県埋蔵文化財センター

第Ⅲ章　調査の経過と方針

第１節　確認調査の概要

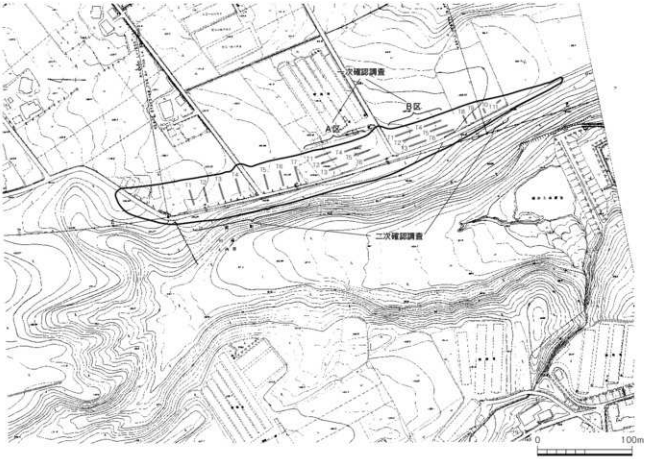
中ノ迫第２遺跡は、20,300㎡を測る。調査面積を確定するため、平成13年から二度に渡って確認調査を行った。

一次確認調査は、平成13年10月15日～11月30日、面積5,800㎡を対象に、12本のトレンチ（720㎡）を設定して行った。調査区が町道により２箇所に分かれているため、北側をA区（本調査時B区南側）、南側をB区（本調査時C区北側）とした。トレンチは、各区に６本ずつ設定した。

A区では、T1、T2のMB0から貝殻条痕文を含む土器片、Kr-Kbから黒曜石が出土した。T3ではKr-Kbから剥片が出土した。T4ではMB0から黒曜石やチャート、土器片が出土すると共に、焼礫の集まりが検出されている。T5ではMB0から山形押型文を含む土器片や剥片が出土した。T6ではMB0から土器片やチャート、黒曜石、Kr-KbとMB2から剥片が出土した。

B区では、T1でKr-Kbから黒曜石、MB2からチャート剥片が出土した。T2、T3では、MB0から剥片や土器片が、Kr-Kbから石核や剥片が出土している。T4ではMB0からチャート剥片や貝殻条痕文を含む土器片が出土すると共に、集石遺構と思われる礫の集まりが検出されている。T5ではMB0から剥片や土器片が、Kr-Kbから剥片が出土した。T6ではMB0からチャートや黒曜石、土器片が、Kr-Kbからスクレイパー（第３図１）や剥片が出土した。

二次確認調査は、平成17年２月16日～３月18日、面積14,500㎡を対象に、11本のトレンチ（340㎡）を設定して行った。調査区は３つに分かれており、トレンチはそれぞれに３～４本ずつ設定された。最も北の区（本調査時A区）にはT1～T4があり、T1ではMB0で石鏃の一部（第３図６）、ML1で剥片が出土した。T2ではMB0・ML1で石鏃（第３



第２図　周辺地形及び確認調査トレンチ位置図（1/4,000）

図２・３・５）が出土した。またT3ではML1で剥片が、T4ではMB0で剥片と共に集石遺構が検出されている。

その南側の区（本調査時B区北側）にはT5～T7があり、T5では何もみつからなかったが、MB0からML3までの土層を確認している。T6ではMB0～ML1で、剥片と共に集石遺構が検出されている。T7ではML1で姫島産黒曜石製の石鏃（第３図４）が出土している。

最も南の区（本調査時C区南側）にはT8～T11があり、T8の一部でKr-Kbを含む層より上が、T9の一部でML1より上が削平されていた。T8では何もみつからなかった。T9、T10ではKr-Kbを含む層で剥片が出土すると共に、T10ではMB0で集石遺構を検出。T11ではML1から剥片が出土したのみであった。

一連の確認調査の結果、遺跡面積20,300㎡のうち、確認調査によるトレンチ等の面積を除外した19,130㎡を調査面積として設定した。

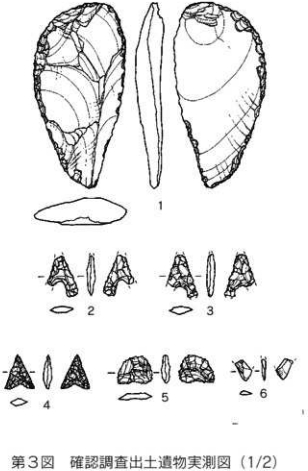
第２節　発掘調査の方法・概要

調査の経過

調査は、平成17年６月９日～平成18年３月30日まで実施した。本調査区は、緩やかに南に下っている。かつては畑地として利用されており、期間中も、調査区東隣では畑作と養鶏が行われていた。

調査区内には町道が走っており、これを境として北からA～C区、西側をD区とした。始めに、B区に国土座標軸に準じ、南北に14～27、東西にG～Oの10m×10mの大グリッドを設定した。さらにそれを４分割して５m×５mの小グリッドを設定した（小グリッドは、大グリッド内の北西側を1、北東側を2、南西側を3、南東側を4と表記する）。そこで、まず大グリッド中の対角にある小グリッド２箇所を掘削し、遺構・遺物の出土状況によって周囲へ掘削を広げていく方法をとった。また、調査開始前にD区とA区の一部で、ブッシュチョッパーを用いて雑木の除去を行った。調査は、排土置き場を確保しつつ、B区→C・D区→A区の順に行った。

B区は、表土剥ぎを行いK-Ah（Ⅱ層）の残存状況を記録した後、遺構精査を行ったが、確認できたのは近年の耕作による攪乱のみであった。また、確認調査時のトレンチを重機を用いて掘削し、土層の確認を行った。K-Ah（Ⅱ層）除去後、中央付近から掘削を開始し、MB0（Ⅲ層）で集石遺構３基、石鏃等の石器と一部それに重なる場所からチップが集中して出土した。Kr-Kbを含む層（Ⅴ層）で礫群を３基検出した。B区は、南半分のMB2～3（Ⅸa・b層）を先に調査し、埋め戻しを行った後、北半分のMB2～3（Ⅸa・b層）の調査とC・D区の調査を、一部並行して行った。



第３図　確認調査出土遺物実測図（1/2）

C区は、北半分がML1（Ⅳ層）まで削平されていたため、小グリッドに沿ってL字形に１m幅のトレンチを設定し、遺物の出土がみられた周囲を広げる方法をとった。集石遺構は、北側のKr-Kbを含む層（Ⅴ層）で、削平を受けたと見られるものが１基、南側MB0（Ⅲ層）で１基検出された。南側Kr-Kbを含む層（Ⅴ層）では、角錐状石器が数点まとまって出土し、礫群が１基検出された。

D区はそのほとんどが斜面地であるため、なるべく平坦な場所を選び、調査区南西の一角を掘削した。調査は、重機を用いて２ｍ×３ｍの先行トレンチを２箇所に開け、土層を確認した後掘削を開始した。K-Ah（Ⅱ層）直下で、長方形に並ぶ時期不明の石の列（SZ1）が検出された。また、MB0（Ⅲ層）で集石遺構が５基検出され、そのうち１基（SI8）は長径２ｍを測る大型のものであった。Kr-Kbを含む層（Ⅴ層）以下は堆積状況が悪く、遺構・遺物共に確認できなかったため、先行トレンチによる確認のみで終了した。

A区は、C・D区の調査と一部並行して排土をB区へ埋め戻し、表土剥ぎを行った。その後、調査区南東端に先行トレンチを開け、土層の確認を行った。堆積状況は良好で、本遺跡の基本土層が全て確認できた。MB0(Ⅲ層)で集石遺構を26基検出し、遺物も他の区に比べて多く出土した。現場事務所をB区へ移設した後、調査区北側の現場事務所を設置していた場所の表土剥ぎを行った所、K-Ah（Ⅱ層）上面で弥生時代の竪穴住居跡を２軒検出した。Kr-Kbを含む層（Ⅴ層）以下は、大グリッドに沿って２ｍ幅のトレンチを設定し、遺構・遺物の確認状況によって周囲へ広げる形をとった。その結果、礫群が４基、角錐状石器等を含む石器ブロック１箇所が検出された。姶良Tn火山灰下位のMB2～3（Ⅸa・b層）では、剥片数点が出土した。

〈日誌抄〉；平成17年６月～平成18年３月

6月20日　発掘調査開始
7月 4日　B区MB0グリッド掘り開始
8月 2日　SI1実測
8月11日　B区空撮実施
9月 7日　SP1検出
　　B区Kr-Kbグリッド掘り開始
9月15日　礫群1を検出
9月21日　B区MB2・3グリッド掘り開始
　　D区MB0グリッド掘り開始
10月17日　SI8検出
10月20日　C区MB0グリッド掘り開始
11月 1日　現場での整理作業開始
11月 8日　C・D区空撮実施
11月15日　C区Kr-Kbグリッド掘り開始
11月17日　C区MB2・3トレンチ掘り開始
11月21日　礫群4を検出
11月21日　A区MB0グリッド掘り開始
12月 1日　SI12及び散礫検出
12月 5日　現場事務所を移設
12月14日　SA1・2検出
1月17日　A区空撮実施
1月21日　A区Kr-Kbグリッド掘り開始
2月 1日　礫群5を検出
2月10日　角錐状石器を含む石器ブロック検出
2月22日　A区MB2・3グリッド掘り開始
3月15日　掘削終了
3月27日　埋め戻し終了

第3節　整理作業及び報告書作成

平成17年11月１日より、調査と並行して現場で整理作業を開始した。現場では出土遺物の水洗、集石遺構構成礫の計測と接合を行った。平成18年７月より、川南整理作業棟で礫群構成礫の計測と接合を行った。平成18年４月からは、埋蔵文化財センターにおいて注記・接合等を開始し、平成19年５月に終了した。それと平行して報告書作成を行い、平成19年10月に終了した。

第４節　遺構・石材に対する基本的な考え方

１　遺構

（1）礫群

旧石器時代で、礫に一定のまとまりが見られるもの。また、まとまりが散漫であっても、周辺には礫が見られないような状況にあるもの。

本調査の結果、８基が検出された。

（2）集石遺構

縄文時代で、礫に一定のまとまりが見られるもの。赤化しているものも多い。

本調査の結果、37基が検出された。

（3）散礫

重なりを持たない礫の集まり。主に集石遺構の周辺に見られる。

（4）遺物集中区（石器ブロック）

本遺跡でいう遺物集中区は、石器製品や剥片、土器片等が集中して出土する場所を指す。

本調査の結果、石器ブロックが１箇所検出された。

（5）炉穴

楕円形をした土坑の底面に、焼土が比較的多く検出されたものを炉穴とした。

本調査の結果、１基が検出された。

２　石材及び石材種

中ノ迫第２遺跡から出土した石器に用いられている石材の中で、細分類をおこなったものについて、その略称と分類基準を記す。

（1）チャート類（Ch）

色調から４種類に分かれる。

Ch1：白色

Ch2：青色

Ch3：黒色

Ch4：赤色

本文中等で、単に「チャート類」と表記した場合、Ch1～4の全てを含む場合がある。

（2）ホルンフェルス（H）

肉眼での観察により２種類に分かれる。

H1：暗青灰色。網目状に鉄錆色（赤褐色）が入るものがある。

H2：その他。黄色・灰色・白色・黒褐色・赤褐色のものがある。

（3）黒曜石（Ob）

産地の違いにより３種類に分かれる。

Ob1：黒色。透光性は高く、強い光沢をもつ。僅かに白色の不純物を含む。肉眼による同定から、桑ノ木津留産と思われる。

Ob2：黒色。透光性は低く、薄い部分でもほとんど光りを透さない。ロウ状でにぶい光沢をもつ。全体に白い縞が入る。肉眼による同定から、小国産と思われる。

Ob3：灰白色。透光性は高い。内部に赤色鉱物を含むものがある。肉眼による同定から、姫島産と思われる。

その他の石材についても、本文・表・分布図中等で次の略称を使用することがある。

流紋岩　：Ryu
頁岩　：Sh
砂岩　：Sa
尾鈴山酸性岩類：Oz
サヌカイト　：Sn

第Ⅳ章　発掘調査の記録

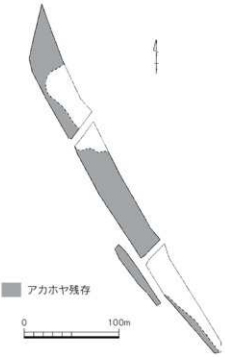
第１節　基本層序

中ノ迫第２遺跡は確認調査の結果、川南町内における標準的な層序を示していることが判明した。本遺跡では、耕作による削平のため、A・B区の一部で鬼界アカホヤ（K-Ah）が、C区の一部で小林軽石（Kr-Kb）を含む層より上が消失していたが、それ以外は斜面側を除けば堆積状況は良好であった。本調査では、これをⅠ～Ⅹ層に分けた。

鍵層としては、Ⅱ層の鬼界アカホヤ〔K-Ah〕（約7,300年前）、Ⅴ層の小林軽石〔Kr-Kb〕を含む層（約16,700年前）、Ⅷ層の姶良Tn火山灰〔AT〕（約27,000年前）である。

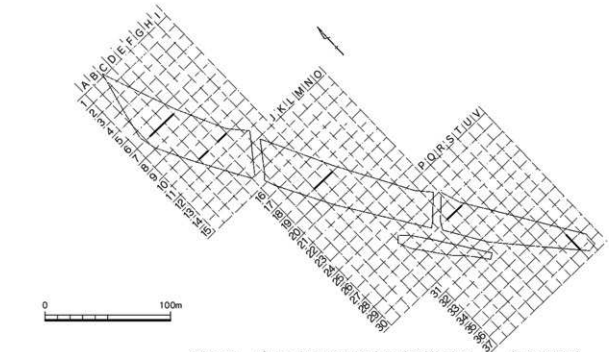
本遺跡の遺構・遺物包含層は、Ⅱ層（K-Ah）上面検出の弥生時代、Ⅲ～Ⅳ層（黒褐色土）の縄文時代早期、Ⅴ～Ⅵ層（暗褐色土）、Ⅸ層（黒褐色土）の後期旧石器時代にそれぞれ該当する４枚である。

以下に、本遺跡の基本土層及びその詳細を挙げる。

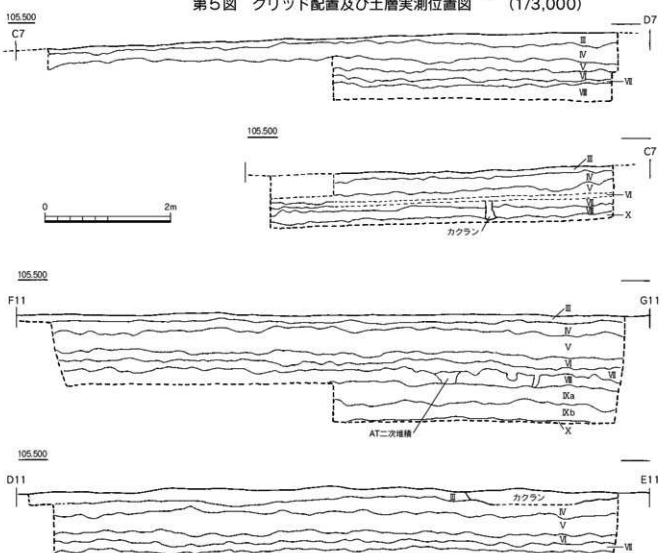


第４図　K-Ah 残存範囲図（1/4,000）

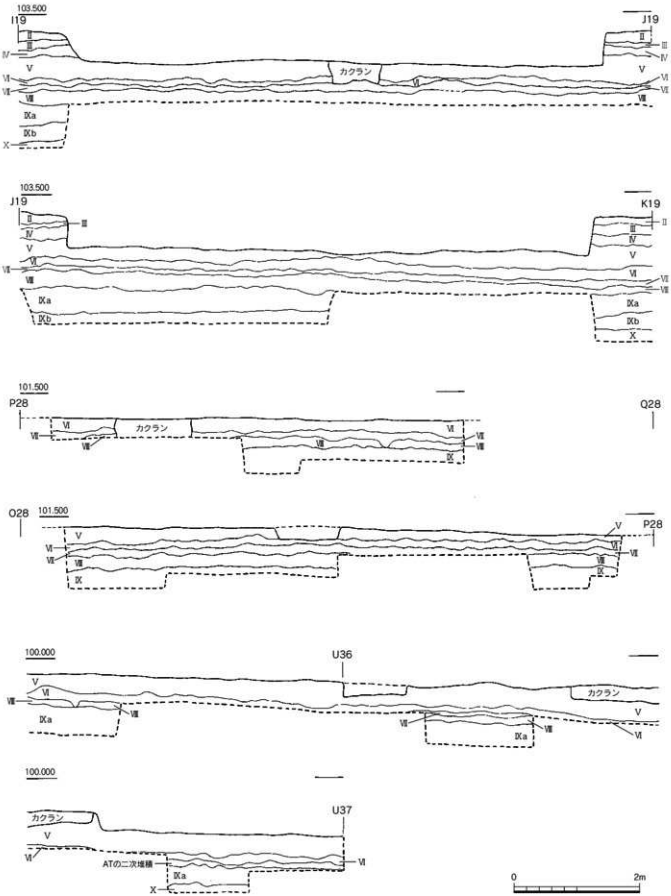
Ⅰ層	表土	耕作土
Ⅱ層	鬼界アカホヤ火山灰	K-Ah　黄橙色（Hue10YR7/8）土　しまり無し。軟質。
Ⅲ層	MB0	黒褐色（Hue10YR3/1）土　しまり無し。やや軟質。 乾燥すると非常に固くなる。
Ⅳ層	ML1	暗褐色（Hue10YR3/3）土　しまり無し。やや軟質。
Ⅴ層	Kr-Kbを含む層	褐色（Hue10YR4/6）土　僅かにしまりあり。軟質。 粘性あり。φ約１㎜の明褐色粒（Kr-Kb）を僅かに含む。
Ⅵ層	MB1	暗褐色（Hue10YR3/3）土　しまりあり。やや硬質。 φ約１㎝の黒褐色のブロックを含む。
Ⅶ層	ML2	暗オリーブ褐色（Hue2.5YR3/3）土　しまりあり。やや硬質。
Ⅷ層	姶良Tｎ火山灰	AT　明黄褐色（Hue10YR6/8）土　しまり無し。軟質。
Ⅸａ層	MB2	黒褐色（Hue2.5YR3/1）土　固くしまる。硬質。 φ１㎜以下の白色鉱物粒を含む。乾燥するとブロック状に崩れる。
Ⅸｂ層	MB3	黒褐色（Hue2.5YR3/2）土　固くしまる。硬質。 乾燥するとブロック状に崩れる。
Ⅹ層	ML3	黄褐色（Hue10YR5/8）土　固くしまる。やや硬質。 粘性あり。φ１㎜以下の白色、橙色、黒色粒子を含む。



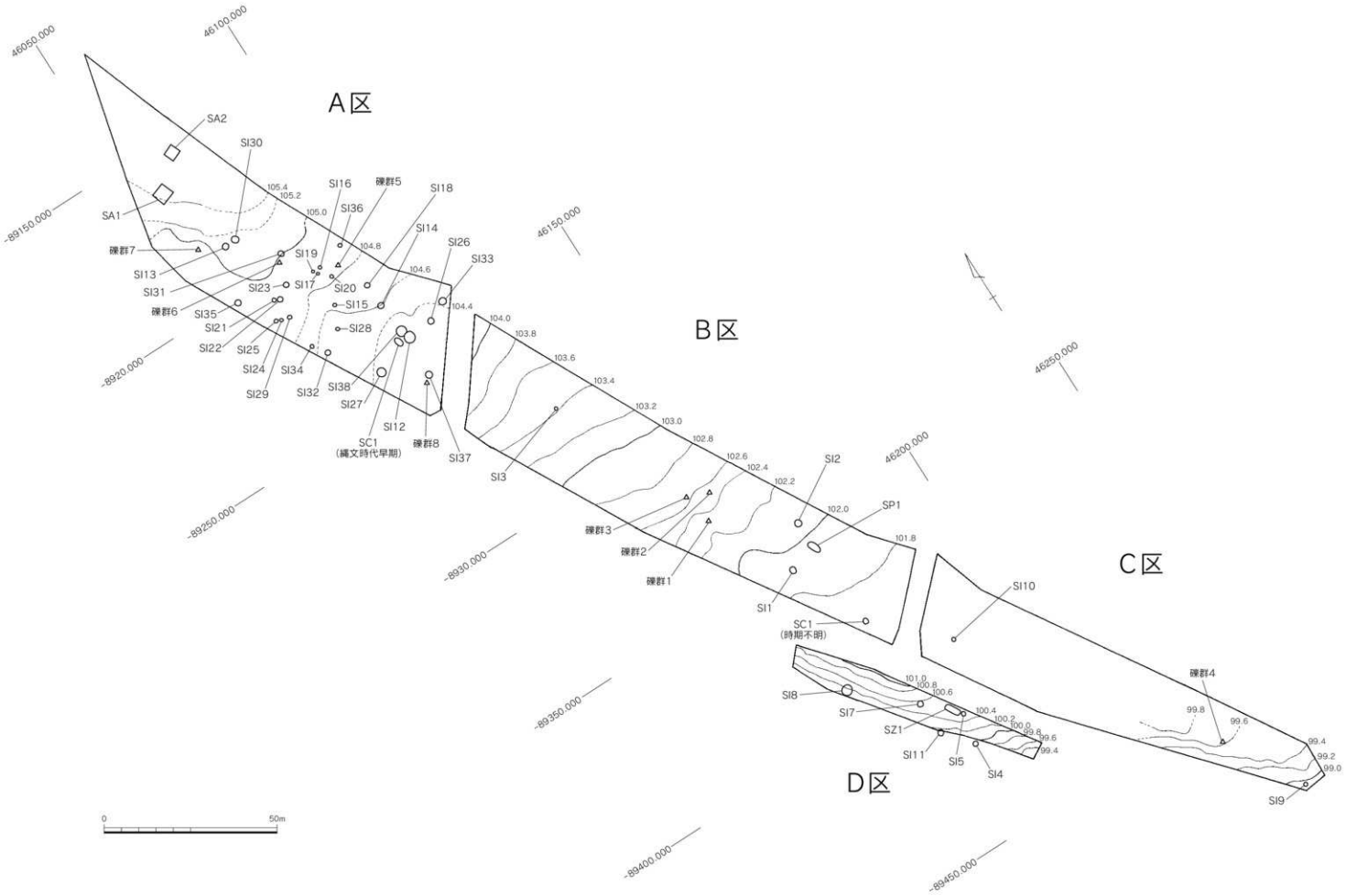
第５図　グリッド配置及び土層実測位置図　　(1/3,000)



第６図　調査区土層実測図（1）(1/60)



第７図　調査区土層実測図（2）(1/60)



第8図　全遺構分布図（1/1,000）

※標高（m）はMB0（Ⅲ層）上面のもの

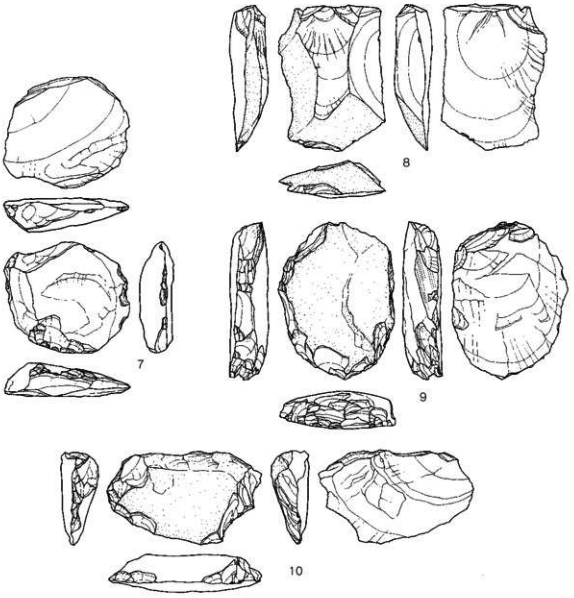
第２節　遺構と遺物

中ノ迫第２遺跡は、南北に細長い形をしているが、この中の遺構・遺物の分布は一定ではなく、どの時期にも偏りが見られた。いずれの時期も、北側のA区が遺構・遺物共に数多く確認された。以下に、確認された遺構・遺物を時代別に掲載する。

（１）後期旧石器時代Ⅰ期の遺物

後期旧石器時代の遺構・遺物は、AT（Ⅷ層）を境として、その上位と下位の二つの時期に分けることができる。

後期旧石器時代Ⅰ期は、AT（Ⅷ層）下位のMB2・3（Ⅸa・b層）にあたり、遺構は検出されなかった。遺物はホルンフェルス（H2）の剥片のみで、４点（第９図７～10）を図化した。これらは、A区南西部（D12・E12グリッド）のMB2（Ⅸa層）とMB3（Ⅸb層）の境目付近から出土しており、いずれも剥片の周囲に荒い調整が施されている。



第９図　後期旧石器時代Ⅰ期石器実測図（1/2）

（2）後期旧石器時代Ⅱ期の遺構・遺物

後期旧石器時代Ⅱ期は、Kr-Kbを含む層（Ⅴ層）を中心とした層で遺構・遺物が確認された。遺構としては礫群８基、石器ブロック１箇所を検出し、遺物では角錐状石器等の多様な石器が出土している。

1　礫群（第11～12図）

A区に４基、B区に３基、C区に１基の合計８基が検出された。SI1・2は礫が散漫であるが、その周囲からは礫が検出されないこと等から範囲を絞り、礫群と認定した。SI3～8は、直径約１ｍの範囲内に礫が集中するものであった。いずれも掘り込みは無く、礫が平面的に広がるのみであった。礫群の構成礫は、全て尾鈴山酸性岩類である。

SI1（第11図）

B区検出。直径約５ｍの範囲に礫が散漫に散らばる。礫の数は26個。総重量は約30.9kg。

SI2（第11図）

B区検出。直径約５ｍの範囲に礫が散漫に散らばる。礫の数は23個。総重量は約9.6kg。

SI3（第12図）

B区検出。礫が直径約１ｍの範囲に集中し、周囲にも礫が散在している。礫の数は39個。総重量は約15.1kg。

SI4（第12図）

C区検出。礫が直径約0.8ｍの範囲に集中する。礫の数は45個。総重量は約5.4kg。

SI5（第12図）

A区検出。礫が直径約１ｍの範囲に集中する。礫の数は41個。総重量は約19.0kg。

SI6（第12図）

A区検出。礫が直径約１ｍの範囲に集中する。礫の数は53個。総重量は約13.7kg。

SI7（第12図）

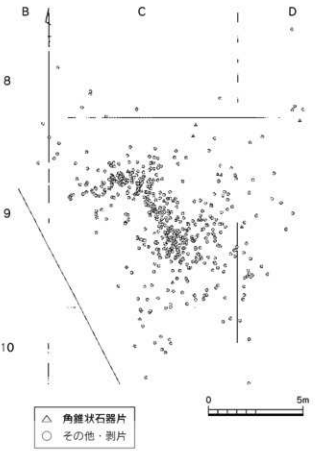
A区検出。礫が直径約0.6ｍの範囲に集中する。礫の数は60個。総重量は約12.1kg。

SI8（第12図）

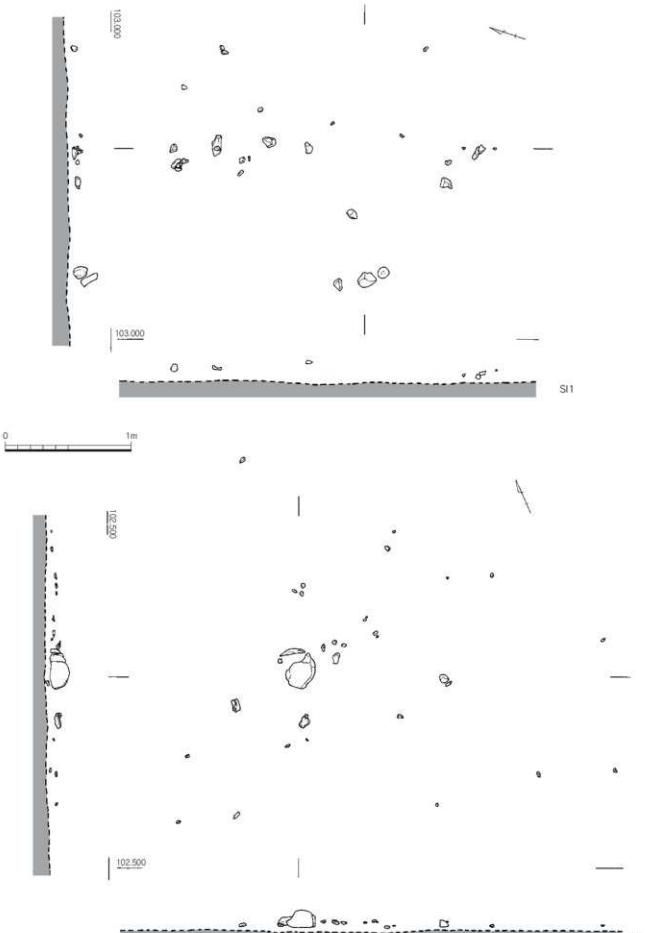
A区検出。礫が直径約0.5ｍの範囲に集中する。礫の数は16個。総重量は約6.4kg。

2　石器ブロック（第10図）

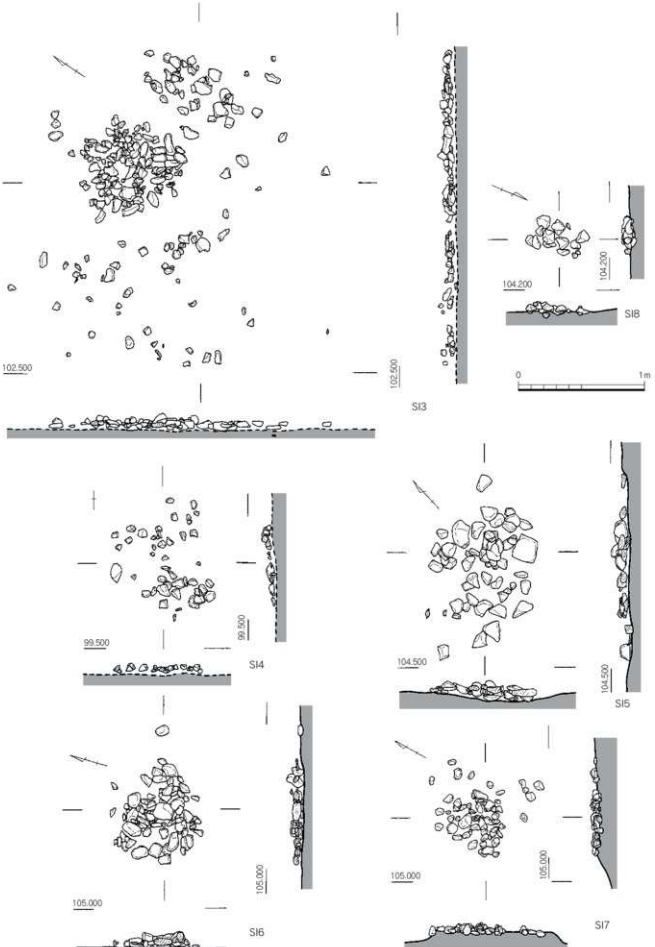
A区C9グリッドを中心とした直径約８ｍの範囲に、角錐状石器片17点（後に接合したものもある）を含む石器ブロックが検出された。遺物数はC9グリッド内で478点。角錐状石器以外にも、細石刃、細石刃核、敲石、磨石、剥片等が出土している。これを石材の面から見てみると、最も多いのがホルンフェルスで369点を数え、次いでチャート類45点、流紋岩37点、砂岩７点等となっている。この中で、特徴的なものとしてあげられるのが、ホルンフェルスの中でも「H1」とされるものである。「H1」は、遺跡全体から出土したものの約９割に



第10図　石器ブロック出土遺物分布図
(1/200)



第11図　後期旧石器時代Ⅱ期礫群実測図（1）(1/30)



第12図　後期旧石器時代Ⅱ期礫群実測図（2）(1/30)

あたる163点がこの範囲に集中している。

また、「H1」は角錐状石器として加工されたものが多く、それらは同じ石器ブロック内出土の剥片と接合するものが多く見られた。接合資料として掲載されているものの全てが、この石器ブロックの範囲内出土の石器からなっている。このようなことから、この石器ブロックは石器製作の場であった可能性が考えられる。

3　石器

この時期の層からは、角錐状石器を中心として、剥片尖頭器、ナイフ形石器といった多くの種類の石器が出土した。

【接合資料】

接合資料は、そのいずれもが前述の石器ブロックから出土した石器が接合したものである。特に、製品を含むものはいずれも角錐状石器を中心としており、その周囲に調整剥片が接合している。これは、当時の石器製作の一端を示していると言えるだろう。

接合資料１（第13図11～23）

黒色の流紋岩製で、剥片13点が接合した。自然面を有する剥片を中心に構成されている。芯となる石核は出土していない。これは、同時期のナイフ形石器等に使用されているものと同じ石材であり、出土しなかった石核部分が製品に加工された可能性もある。

接合資料２（第14図24～33）

ホルンフェルス（H1）製で、角錐状石器片２点と剥片８点が接合した。二つに折れた角錐状石器を中心として、調整剥片が接合している。また、角錐状石器の一片である28は、先端を利用し基部側を再加工することで、新たな角錐状石器として再生させているようである。

接合資料３（第15図34～45）

ホルンフェルス（H1）製で、角錐状石器片１点と剥片11点が接合した。中央部分が厚い角錐状石器を中心に、多数の剥片が接合している。角錐状石器片は先端部が折れているが、先端部も調整剥片と同様に狭い範囲内から出土している。こういった状況から、これは製作時に欠損したのではないかと思われる。

接合資料４（第16図46～52）

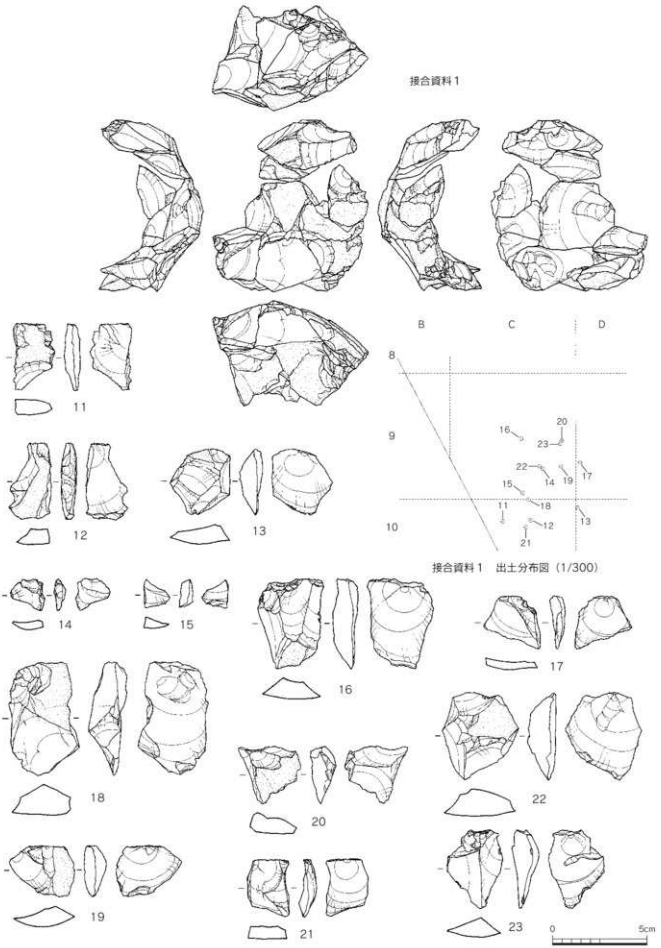
ホルンフェルス（H1）製で、角錐状石器片１点と剥片６点が接合した。角錐状石器の刺突部と思われる尖端を有しているが、基部はこれ以上接合するものが確認されず、その全体像は不明である。

接合資料５（第17図53～57）

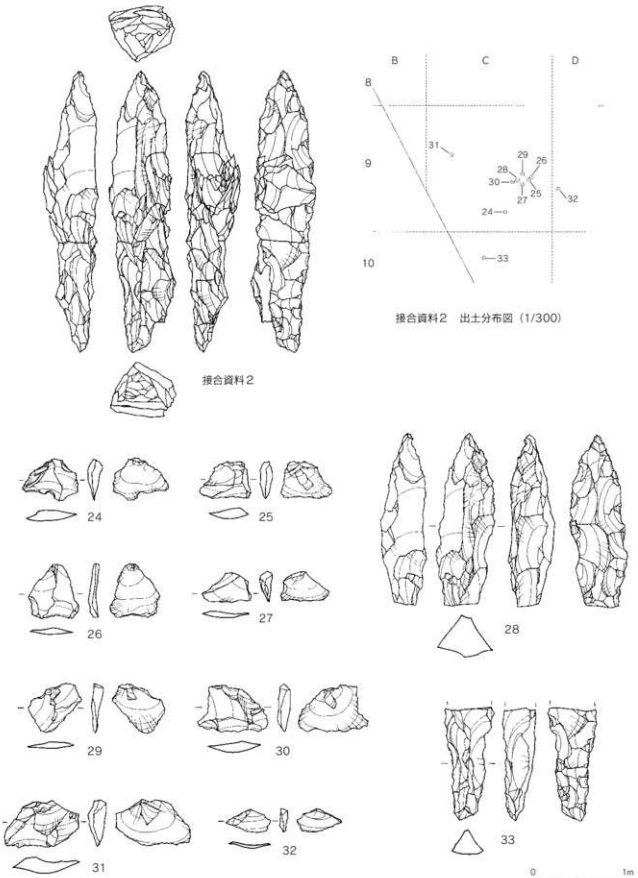
ホルンフェルス（H1）製で、角錐状石器片２点と剥片３点が接合した。中心は中央部分が非常に太い角錐状石器である。先端部側が折れているが、これも接合資料３と同じく製作時に欠損したのではないかと思われる。

接合資料６（第18図58・59）

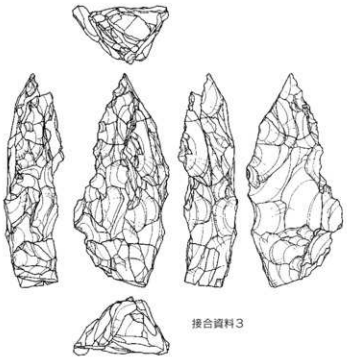
ホルンフェルス（H1）製で、角錐状石器１点と剥片１点が接合した。59は完形の角錐状石器である。



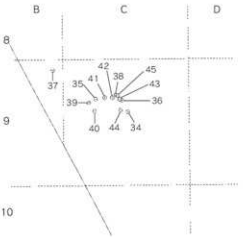
第13図　後期旧石器時代Ⅱ期石器実測図（1）(1/2)



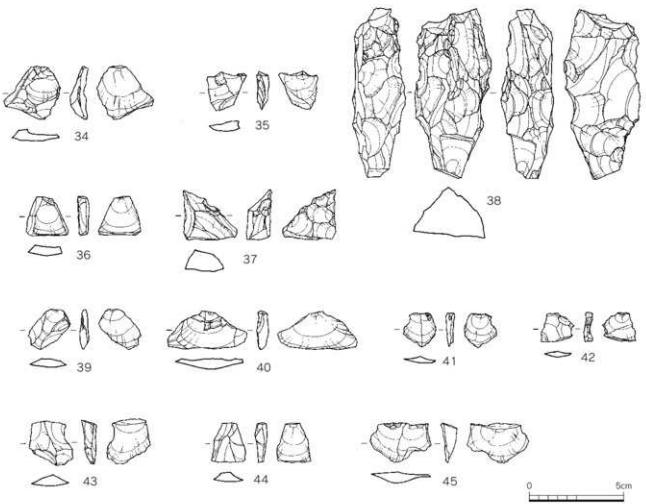
第14図　後期旧石器時代Ⅱ期石器実測図（2）(1/2)



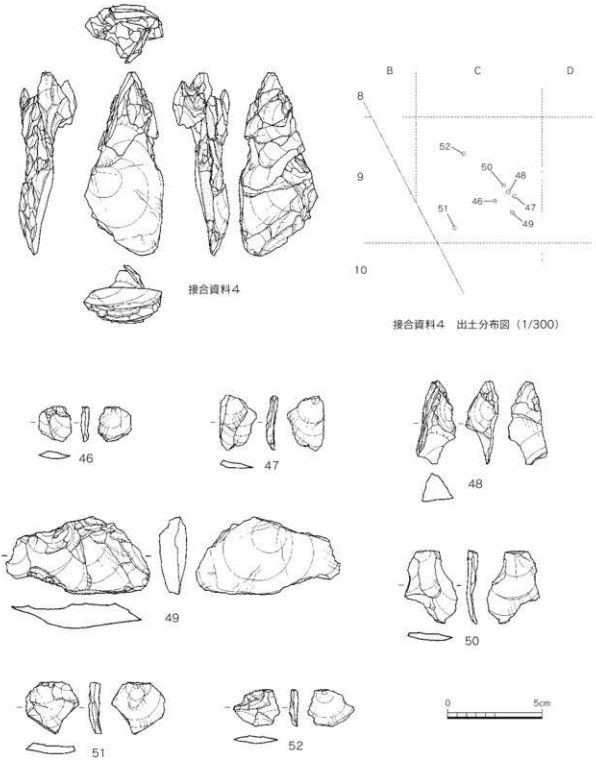
接合資料3



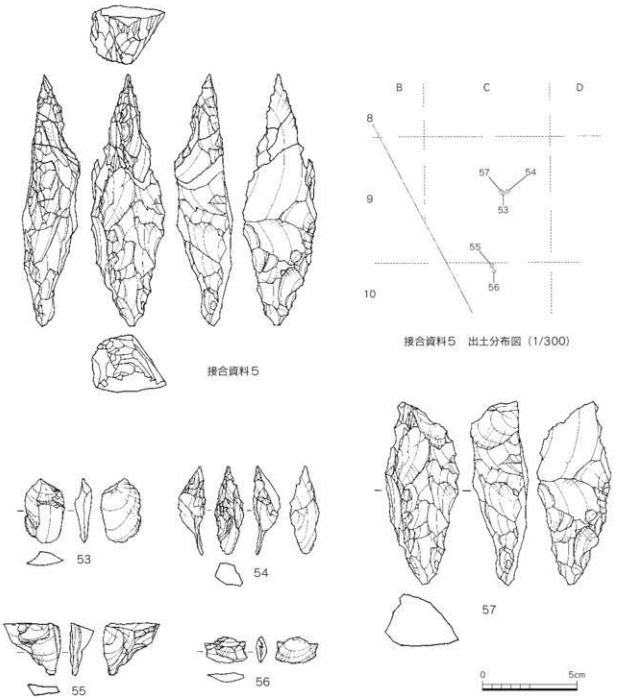
接合資料3　出土分布図（1/300）



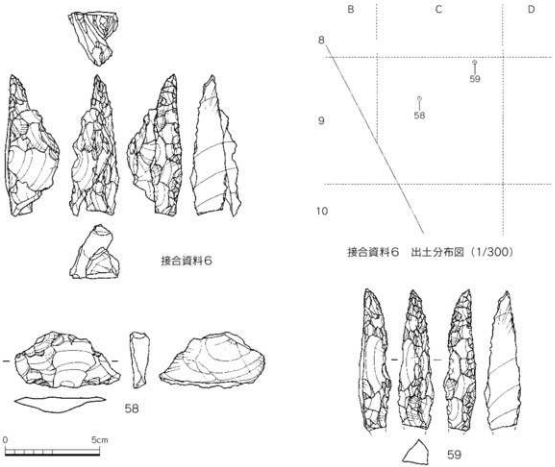
第15図　後期旧石器時代Ⅱ期石器実測図（3）(1/2)



第16図　後期旧石器時代Ⅱ期石器実測図（4）(1/2)



第17図　後期旧石器時代Ⅱ期石器実測図（5）(1/2)



第18図　後期旧石器時代Ⅱ期石器実測図（6）(1/2)

【角錐状石器】（第19図60～69、第20図70～83）

角錐状石器は、破片として出土したものを含めて30点が出土した（内５点は接合資料として掲載済み）。60～79はホルンフェルス（H2）製、80はチャート類（Ch2）製、81～83は流紋岩製である。その中で、完形品もしくはほぼ全体が復元できたものは13点であった。全体の器長が分かるもので計測したところ、約7㎝～約16㎝まで様々であったが、10㎝前後のものが最も多くなっている。破片のものの多くは先端部で、接合資料の例から考えると、製作時に破損したものである可能性も考えられる。

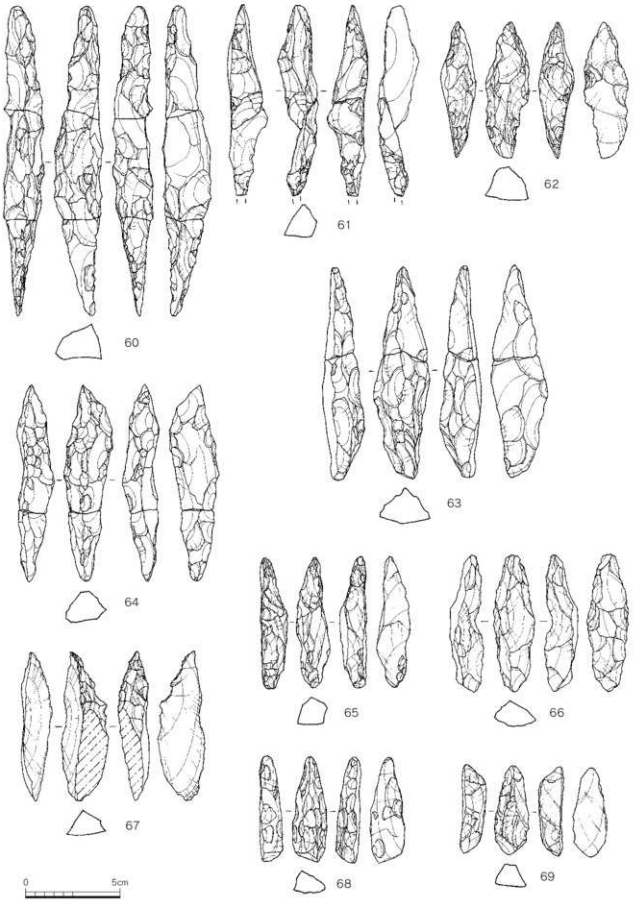
全体の形を見ると、先端と基部を同じように細く尖らせたものと、基部をやや太く丸みを持たせたものがあり、それぞれに使用方法等が異なっていた可能性もある。

【剥片尖頭器】（第21図84～88）

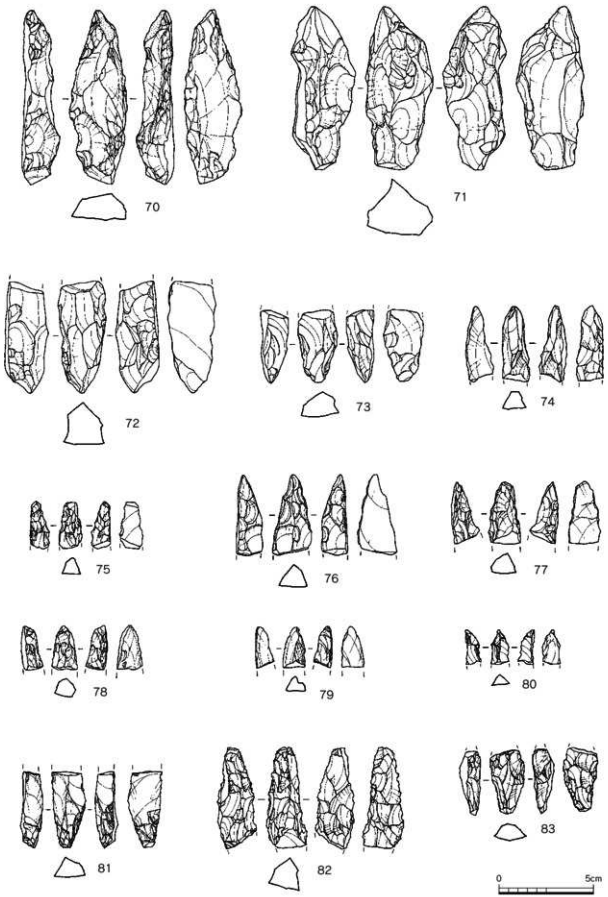
合計５点が出土した。86～88は流紋岩製、84・85はホルンフェルス（H2）製で、いずれも縦長剥片を素材としている。特に84・85は基部付近に加工を施し、茎部を作り出している。86は周囲に調整を施しているが、全体的に厚くなっている。

【ナイフ形石器】（第21図89～93）

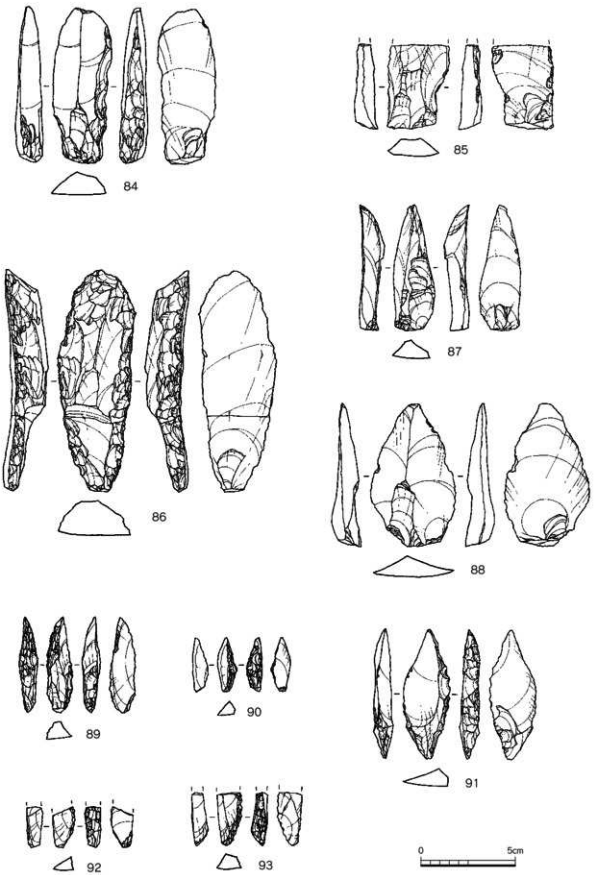
合計５点が出土した。89～92は流紋岩製、93はチャート類（Ch2）製である。89・91は二側縁加工、90・92・93は一側縁加工であった。横長剥片を素材としたものが多いが、91・92は縦長剥片を素材としている。



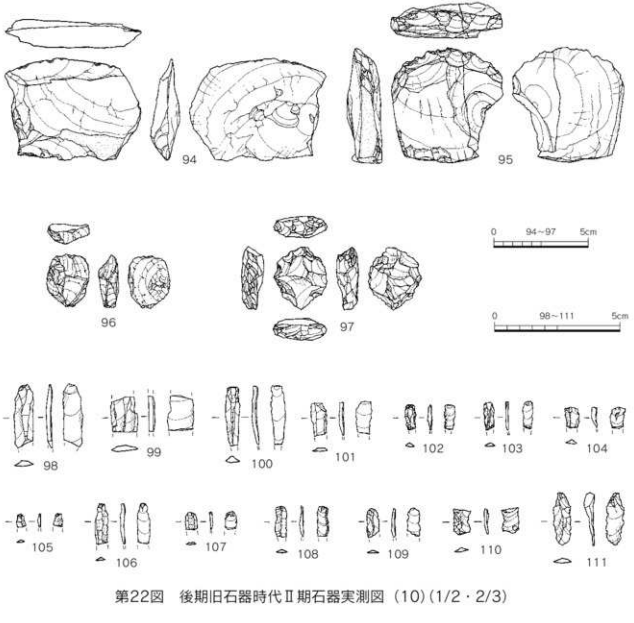
第19図　後期旧石器時代Ⅱ期石器実測図（7）(1/2)



第20図　後期旧石器時代Ⅱ期石器実測図（8）(1/2)



第21図　後期旧石器時代Ⅱ期石器実測図（9）(1/2)



第22図　後期旧石器時代Ⅱ期石器実測図（10）(1/2・2/3)

【掻器】（第22図94～96）

合計３点が出土した。94は流紋岩製、95はホルンフェルス（H1）製、96は黒曜石（Ob2）製である。いずれも剥片の側縁を刃部としたサイドスクレイパーである。

【石核】（第22図97）

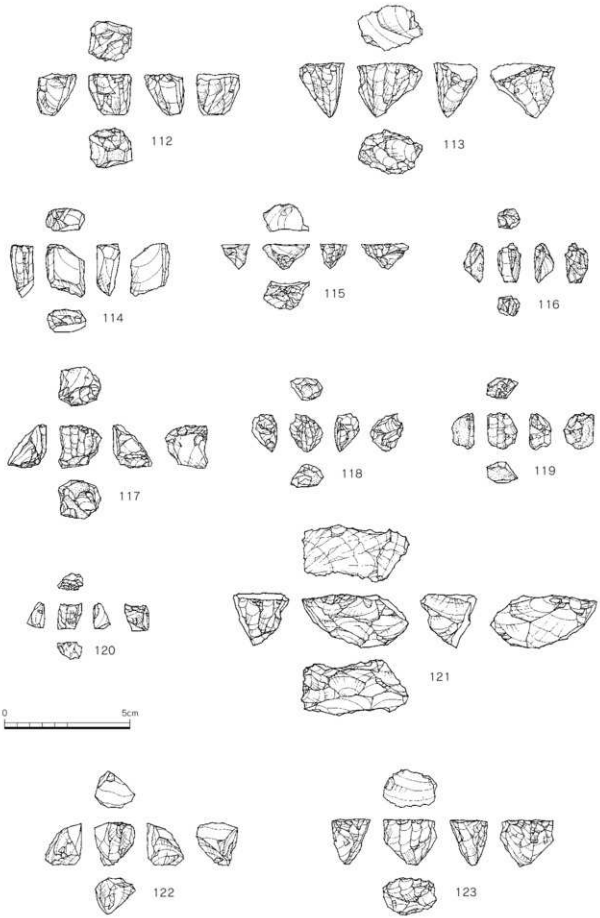
流紋岩製の石核である。これが出土したのはML1（Ⅳ層）中であるが、黒色の流紋岩は当遺跡の後期旧石器時代Ⅱ期に多く使用されていることもあり、ここに含めた。

【細石刃】（第22図98～111）

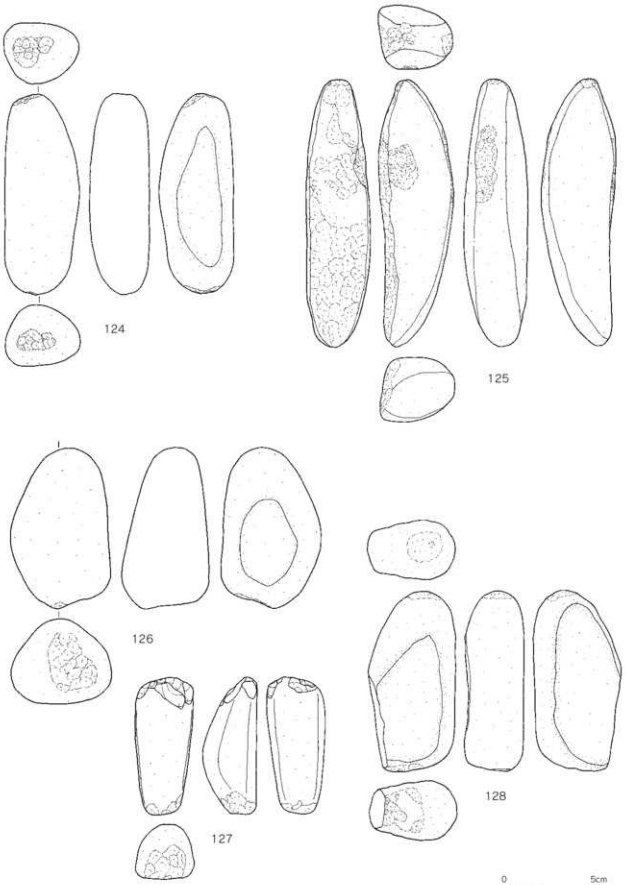
合計14点が出土した。そのほとんどが、どこかが欠損、もしくは一部しか残っておらず、器長は大きくても約３㎝。98～101は流紋岩製、102～108は黒曜石（Ob1）製、109～111はチャート類（Ch1・2）製である。流紋岩製のものが比較的大きく太いのに対して、黒曜石、チャート類製のものは小さく細い傾向がある。

【細石刃核】（第23図112～123）

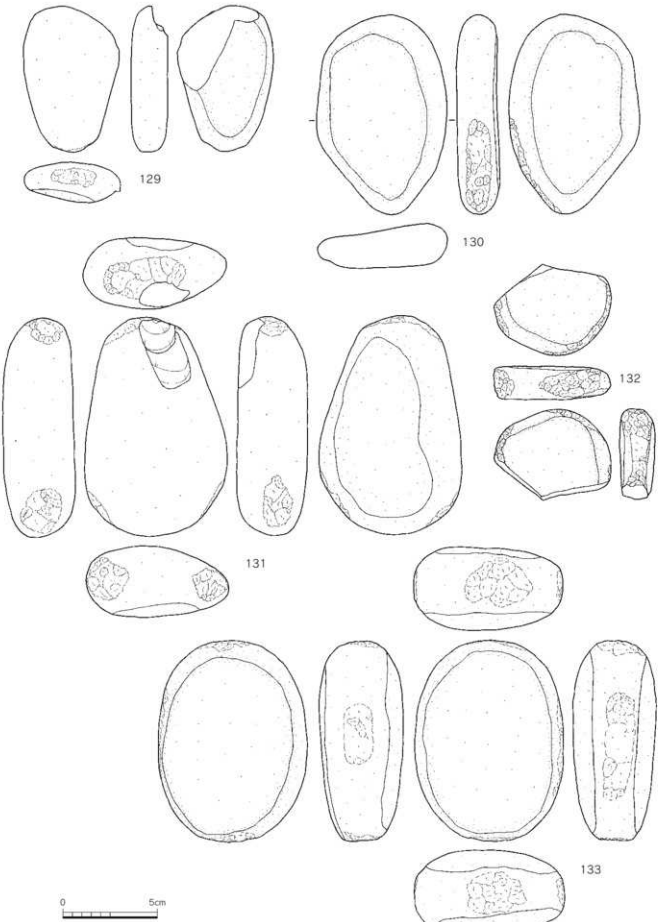
合計12点が出土した。112～114は流紋岩製、115～120は黒曜石（Ob1）製、121～123はチャート類（Ch1・2）製であった。112・113・123は上面を平坦に整えた逆円錐形を呈しており、周囲複数面で剥離を行っている。また、黒曜石製のものは小型、不定形が多くなっている。



第23図　後期旧石器時代Ⅱ期石器実測図（11）(2/3)



第24図　後期旧石器時代Ⅱ期石器実測図（12）(1/2)



第25図　後期旧石器時代Ⅱ期石器実測図（13）(1/2)

出土した細石刃と細石刃核は同じ石材が使用されており、接合こそ確認できなかったが、本遺跡内での細石刃製作が想定される。

細石刃と細石刃核は、その一部がMB0（Ⅲ層）やML1（Ⅳ層）から出土しているが、ここでは全て後期旧石器時代Ⅱ期に含めて報告することとした。ただこれらに使用されている黒曜石は、後期旧石器時代Ⅱ期に多く使用される「Ob2」ではなく縄文時代早期に多く使用される「Ob1」である。このことから、細石刃と細石刃核は後期旧石器時代Ⅱ期の中でも新しい時期のものであろうと思われる。

【敲石】（第24図124～128、第25図129～133）

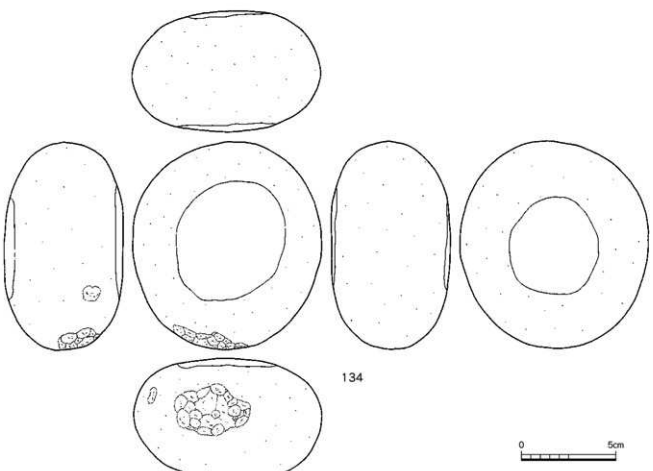
合計10点が出土した。124～132は砂岩製、133のみ尾鈴山酸性岩類製である。これらを、全体の形状により二つに分けた。

124～128は棒状の礫を利用したものである。いずれも礫の両方あるいは片方の端部に敲打痕を持つ。125は円礫を打ち欠いた後、剥離面に敲打を加えて平坦面をつくり、握りやすいように加工している。また、右側面の稜にも敲打痕が残されている。127は礫下端に敲打痕を持ち、逆側には剥離による調整が行われている。

129～133は円礫を利用した平坦な形のものである。礫の上下端ばかりでなく、周囲等にも複数箇所の敲打痕を持つものが多い。棒状のものと比べると、敲打痕の範囲がやや広くなっているものが多い。131は平坦な礫を用い、周囲３箇所に敲打痕を持つ。礫上端が磨打により一部剥離している。133は平坦な円礫を用いており、上下左右４箇所に敲打痕を持っている。

【磨石】（第26図134）

尾鈴山酸性岩類製で、表裏両面に磨面を持つ。また、礫下面に敲打痕を有している。



第26図　後期旧石器時代Ⅱ期石器実測図（14）(1/2)

（3）縄文時代早期の遺構・遺物

縄文時代早期は、遺構では集石遺構37基、炉穴1基等が検出され、遺物では石鏃82点や押型文をはじめとする土器等が出土し、本遺跡で最も多くの遺構・遺物が確認された時期である。

1　集石遺構

集石遺構はこの時期の主要な遺構である。合計37基が検出された。検出面は、SI10がKr-Kbを含む層（Ⅴ層）である以外は全てMB0（Ⅲ層）である。検出された場所は、B・C・D区の境目を中心とした地域と、A区のほぼ全域に渡る地域がほとんどである（第8図参照）。どちらも域内にチップの集中部や石器・土器片の出土が見られたが、後者の方が遺構・遺物共に数が多い。集石遺構の構成礫は、全て尾鈴山酸性岩類であった。一部の集石遺構から検出された炭化物を用いて年代測定を行っている（詳細第Ⅴ章）ため、測定結果を炭化物の検出された集石遺構の項に記載する。

本調査では、これらを配石と掘り込みの有無により3種類に分けた。(SI6は欠番)

- Ⅰ類 掘り込み、配石を共に持つもの
  (SI7・12・32・38)
- Ⅱ類 掘り込みを持ち、配石を持たないもの
  (SI2・3・5・8・9・10・13・14・18
  ・23・25・26・27・29・31・33・37)
- Ⅲ類 掘り込み、配石を共に持たないもの
  (地山が僅かに窪んでいるものを含む。)
  (SI1・4・11・15・16・17・19・20
  ・21・22・24・28・30・34・35・36)

【Ⅰ類】

SI7（第29図）

配石の周囲から多くの炭化材が検出された（8,120±50BP）。集石遺構の東側が現代の攪乱のために消失している。残存した礫は206個。そのため、検出面からは中心が分からず、上面とは主軸を変更して配石を実測している。

SI12（第28図）

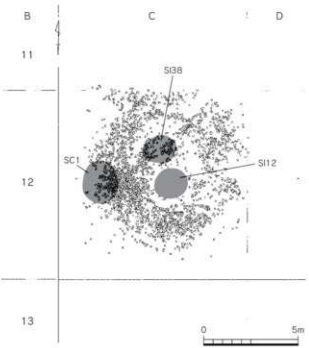
本遺跡中ではかなりの大型で、1,678個の礫が使用されていた。掘り込みの長径は約1.8mを測る。埋土中から炭化物が検出された。すぐ側にSI38があり、これらを中心とした直径約10mの範囲に散礫が存在している（第27図、図版8参照）。散礫の構成礫は尾鈴山酸性岩類が中心で、約2,700個の礫からなっている。散礫中からは遺物がほとんど出土せず、礫は南西～南側の密度が他より高くなっている。

SI32（第29図）

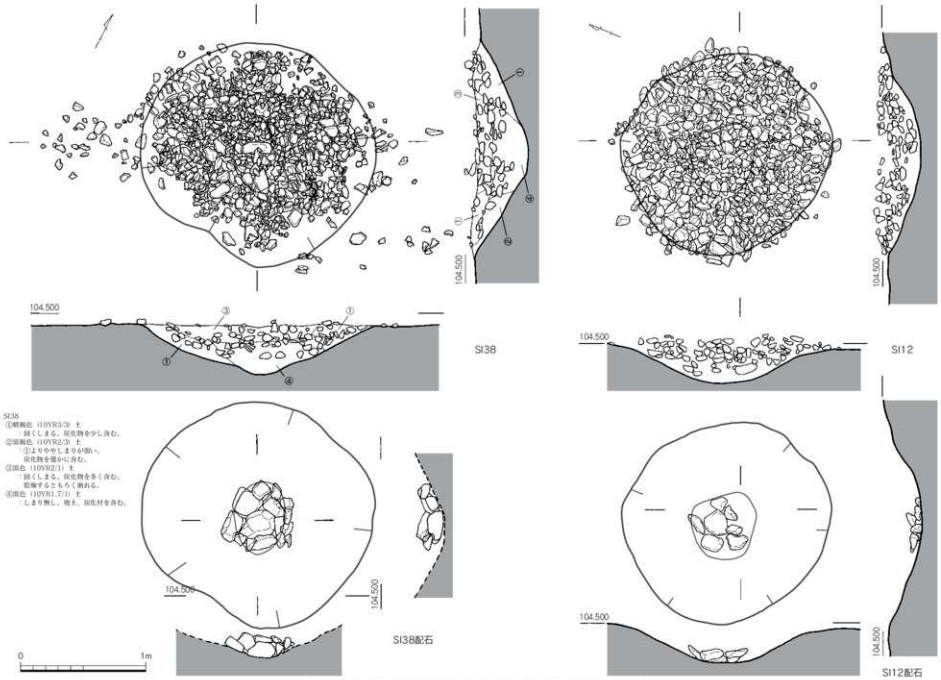
比較的大型の礫が多く使われており、礫の数は320個。配石の上から炭化材が検出された。近くにSI33がある。

SI38（第28図）

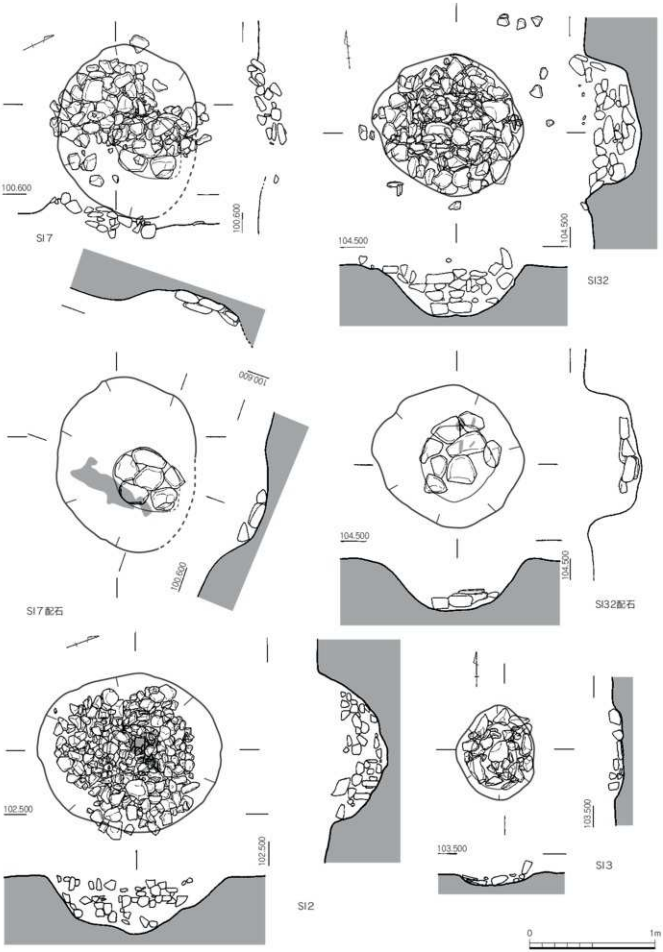
本遺跡中ではかなりの大型で、1,515個の礫が使用されていた。掘り込みの長径は約1.8mを測る。掘り込みの底から炭化材が検出された（8,340±50BP）。SI12と隣りあっており、同様に散礫のほぼ中心に位置している。



第27図　SI12・38周辺散礫分布図（1/200）



第28図　縄文時代早期集石遺構実測図（1）(1/30)



第29図　縄文時代早期集石遺構実測図（2）(1/30)

【II類】

SI2（第29図）

比較的大型の掘り込みを持つ（深さは約0.5m）。礫の数は698個。掘り込みの底から炭化材が検出された（8,190±50BP）。また、集石遺構構成礫の最上部でホルンフェルス（H1）製の打製石斧（第48図311）が出土している。

SI3（第29図）

掘り込みは浅い。使用された礫の数は37個と少ないが、きれいな円形に敷き詰められている。埋土中から炭化物粒が検出された。

SI5（第30図）

掘り込みは浅い。礫の数は106個。炭化物は検出されていない。

SI8（第30図）

本遺跡中ではかなりの大型で、1,060個の礫が使用されていた。掘り込みの長径は約1.5mを測る。埋土中から炭化物が検出された。東から西へ下る斜面に位置しているためか、集石遺構上部の礫が西側に偏っている。

SI9（第30図）

掘り込みは浅い。礫の数は88個。検出当初、礫が疎らにしか見つからず、中心がずれたため断面は見通しで実測を行った。炭化物は検出されていない。

SI10（第30図）

掘り込みの内部には、疎らにしか礫が無かった。礫の数は79個。埋土中から炭化物が検出された（8,730±50BP）。この集石遺構が検出された場所は、Kr-Kbを含む層（V層）より上が削平されており、この集石遺構の上部も削平された可能性がある。

SI13（第30図）

掘り込みは浅い。礫の数は115個。埋土中から炭化物が検出された。

SI14（第31図）

礫の数は111個。埋土中、礫の下から炭化物が検出された。

SI18（第31図）

掘り込みは浅い。礫の数は98個。埋土中から炭化物粒が検出された。

SI23（第31図）

礫の数は106個。炭化物は検出されていない。

SI25（第31図）

浅い掘り込みを持つ。礫の数は60個。埋土中から炭化物粒が検出された。SI24と隣りあっている。

SI26（第31図）

礫の数は75個。埋土中、礫の下から炭化物が検出された。

SI27（第31図）

礫の数は285個。埋土中、礫の下から炭化物が検出された。周囲には、疎らではあるが散礫が見られる。

SI29（第32図）

礫の数は181個。内部から、貝殻条痕文土器（II類A）が出土している。埋土中から炭化物粒が検出された。

SI31（第32図）

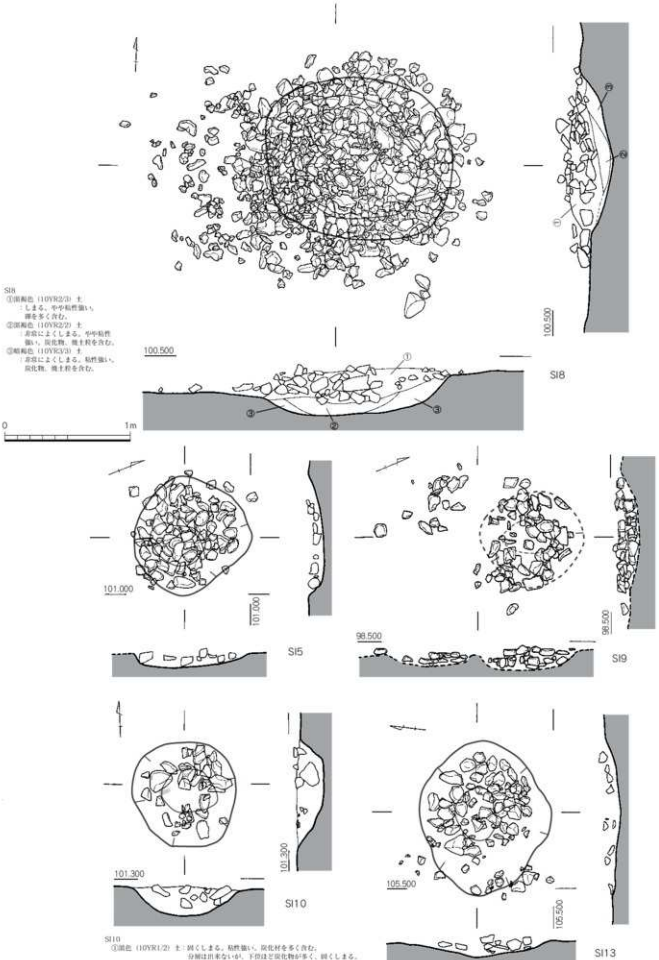
礫の数は52個。埋土中から炭化物粒が検出された。

SI33（第32図）

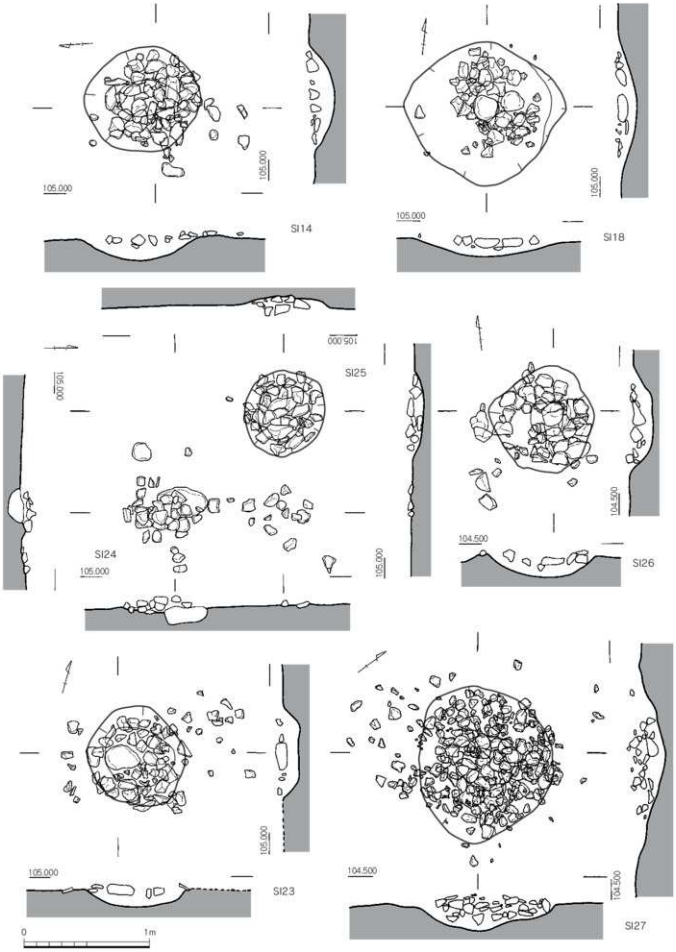
掘り込みは深い。掘り込みの深さは約0.4m。礫の数は308個。埋土中から炭化材が検出された。近くにSI32がある。

SI37（第32図）

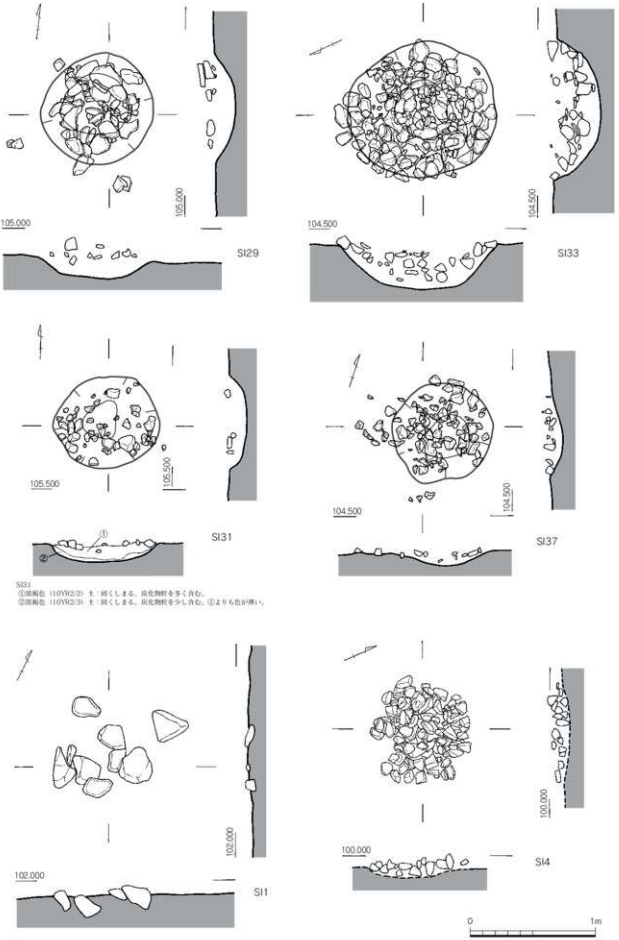
掘り込みは浅い。礫の数は73個。埋土中から炭化物粒が僅かに検出された。



第30図　縄文時代早期集石遺構実測図（3）(1/30)



第31図　縄文時代早期集石遺構実測図（4）(1/30)



第32図　縄文時代早期集石遺構実測図（5）(1/30)

【Ⅲ類】

SI1（第32図）

構成礫は12個と少ないが、その半数が1個で2kg以上あり、他の集石遺構とは大きく異なっている。礫の周囲や下から撚糸文土器（Ⅳ類B）が出土した。炭化物は検出されていない。

SI4（第32図）

礫の数は96個。緩やかな斜面に位置している。炭化物は検出されていない。

SI11（第33図）

礫の数は39個。炭化物は検出されていない。

SI15（第33図）

礫の数は96個。礫の間から炭化物粒が検出された。

SI16（第34図）

礫の数は41個。礫の間から山形押型文土器（1類Ｂａ）が出土し、炭化物粒が僅かに検出された。

SI17（第34図）

礫の数は160個。礫の間から炭化物粒が僅かに検出された。

SI19（第34図）

礫の数は61個。礫の間から炭化物粒が僅かに検出された。

SI20（第34図）

礫の数は29個。礫の間から炭化物粒が検出された。

SI21（第34図）

礫の数は107個。SI22と隣りあっている。集石遺構の周囲から打製石斧（第48図310）や剥片が出土した。炭化物は検出されていない。

SI22（第34図）

礫の数は209個。礫の間から炭化物粒が僅かに検出された。集石遺構の周囲から剥片や貝殻刺突文土器（Ⅲ類）が出土した。SI21と隣りあっている。

SI24（第31図）

礫の数は30個。SI25と隣りあっている。比較的大きく平坦な礫が中央にある。炭化物は検出されていない。

SI28（第34図）

礫の数は52個。炭化物は検出されていない。

SI30（第34図）

礫の数は122個。炭化物は検出されていない。

SI34（第34図）

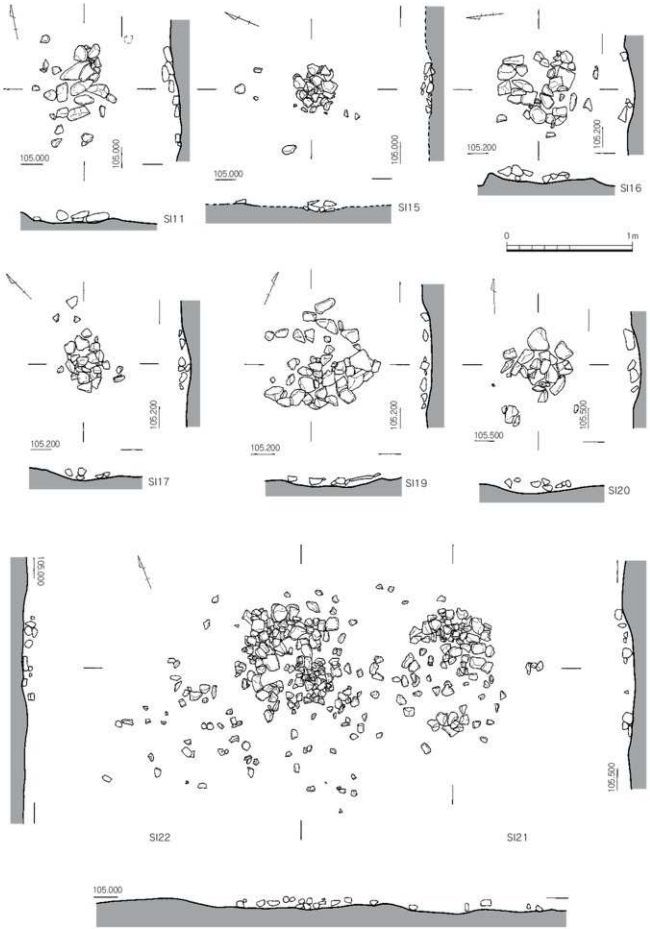
礫の数は53個。炭化物は検出されていない。

SI35（第34図）

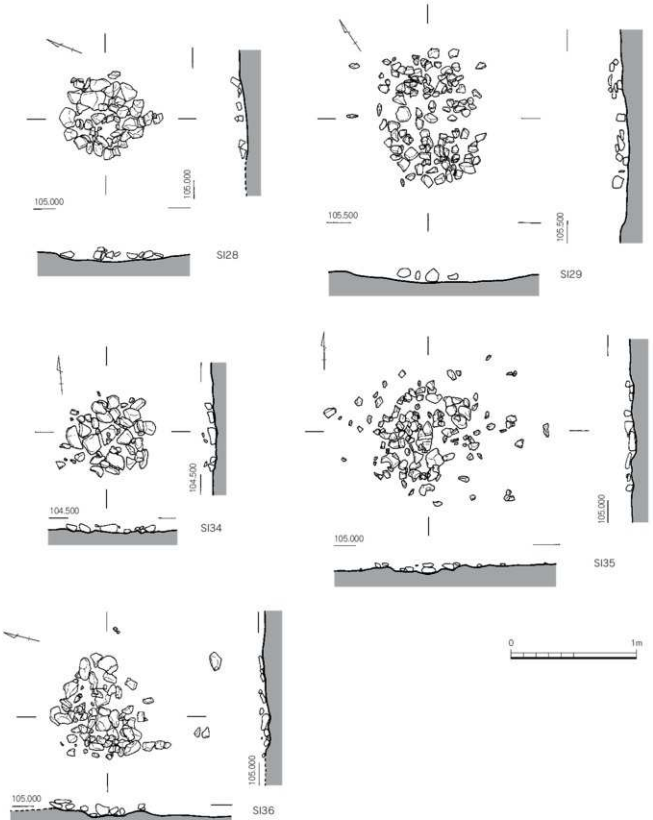
礫の数は124個。炭化物は検出されていない。

SI36（第34図）

礫の数は95個。礫の間から炭化物粒が僅かに検出された。



第33図　縄文時代早期集石遺構実測図（6）(1/30)



第34図　縄文時代早期集石遺構実測図（7）(1/30)

	区	グリッド	層	長径(m)	短径(m)	分類	掘込み	配石	炭化物	構成礫	礫個数	備考
SI1	B	L24-1	Ⅲ	0.8	0.45	Ⅲ	−	−	−	尾鈴山酸性岩類のみ	12	礫の下から土器が出土
SI2	B	M23-1	Ⅲ	1.45	1.25	Ⅱ	○	−	○	尾鈴山酸性岩類のみ	698	掘り込み底面に炭化材
SI3	B	I16-3	Ⅲ	0.65	0.55	Ⅱ	○	−	△	尾鈴山酸性岩類のみ	37	埋土中に炭化物粒
SI4	D	N31-1	Ⅲ	0.79	0.77	Ⅲ	−	−	−	尾鈴山酸性岩類のみ	96	
SI5	D	N30-1	Ⅲ	0.92	0.85	Ⅱ	○	−	−	尾鈴山酸性岩類のみ	106	
SI6	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	欠番
SI7	D	M29-1	Ⅲ	1.25	0.77	Ⅰ	○	○	○	尾鈴山酸性岩類のみ	206	配石の上に炭化材
SI8	D	K27-4	Ⅲ	2.11	1.73	Ⅱ	○	−	△	尾鈴山酸性岩類のみ	1060	埋土中に炭化物
SI9	C	U37-1	Ⅲ	0.87	0.84	Ⅱ	○	−	−	尾鈴山酸性岩類のみ	88	
SI10	C	I28-1	Ⅴ	0.82	0.81	Ⅱ	○	−	△	尾鈴山酸性岩類のみ	79	掘り込み部分に礫がほとんど無い 埋土中に炭化物
SI11	D	M30-2	Ⅲ	0.78	0.66	Ⅲ	−	−	−	尾鈴山酸性岩類のみ	39	
SI12	A	F12-2	Ⅲ	1.8	1.8	Ⅰ	○	○	○	尾鈴山酸性岩類のみ	1678	周囲に散礫を伴う 埋土中、礫下に炭化物
SI13	A	C7-4	Ⅲ	0.88	0.81	Ⅱ	○	−	△	尾鈴山酸性岩類のみ	115	埋土中に炭化物粒
SI14	A	F11-1	Ⅲ	0.88	0.75	Ⅱ	○	−	○	尾鈴山酸性岩類のみ	111	埋土中、礫下に炭化物
SI15	A	E10-3	Ⅲ	0.4	0.35	Ⅲ	−	−	△	尾鈴山酸性岩類のみ	96	礫の間に炭化物粒僅か
SI16	A	E9-1	Ⅲ	0.62	0.57	Ⅲ	−	−	△	尾鈴山酸性岩類のみ	41	礫の間に炭化物粒僅か
SI17	A	E9-1	Ⅲ	0.48	0.35	Ⅲ	−	−	△	尾鈴山酸性岩類のみ	160	礫の間に炭化物粒僅か
SI18	A	F10-1	Ⅲ	0.86	0.72	Ⅱ	○	−	△	尾鈴山酸性岩類のみ	98	埋土中に炭化物粒
SI19	A	E9-1	Ⅲ	0.94	0.87	Ⅲ	−	−	△	尾鈴山酸性岩類のみ	61	礫の間に炭化物粒僅か
SI20	A	E9-4	Ⅲ	0.58	0.55	Ⅲ	−	−	△	尾鈴山酸性岩類のみ	29	礫の間に炭化物粒
SI21	A	C9-4	Ⅲ	0.73	0.66	Ⅲ	−	−	−	尾鈴山酸性岩類のみ	107	
SI22	A	C9-4	Ⅲ	0.9	0.86	Ⅲ	−	−	△	尾鈴山酸性岩類のみ	209	礫の間に炭化物粒僅か
SI23	A	D9-1	Ⅲ	0.8	0.78	Ⅱ	○	−	−	尾鈴山酸性岩類のみ	106	
SI24	A	C10-1	Ⅲ	0.77	0.43	Ⅲ	−	−	−	尾鈴山酸性岩類のみ	30	
SI25	A	C10-1	Ⅲ	0.69	0.63	Ⅱ	○	−	△	尾鈴山酸性岩類のみ	60	埋土中に炭化物粒
SI26	A	G12-1	Ⅲ	0.75	0.7	Ⅱ	○	−	○	尾鈴山酸性岩類のみ	75	埋土中、礫下に炭化物
SI27	A	E12-3	Ⅲ	1.18	0.91	Ⅱ	○	−	○	尾鈴山酸性岩類のみ	285	埋土中、礫下に炭化物
SI28	A	D11-2	Ⅲ	0.81	0.65	Ⅲ	−	−	−	尾鈴山酸性岩類のみ	52	
SI29	A	D10-1	Ⅲ	0.9	0.88	Ⅱ	○	−	△	尾鈴山酸性岩類のみ	181	埋土中に炭化物粒
SI30	A	C7-4	Ⅲ	1.1	0.8	Ⅲ	−	−	−	尾鈴山酸性岩類のみ	122	
SI31	A	D8-4	Ⅲ	0.76	0.6	Ⅱ	○	−	△	尾鈴山酸性岩類のみ	52	埋土中に炭化物粒
SI32	A	D11-3	Ⅲ	1.1	1.09	Ⅰ	○	○	○	尾鈴山酸性岩類のみ	320	配石の上に炭化材
SI33	A	G12-1	Ⅲ	1.28	1.12	Ⅱ	○	−	○	尾鈴山酸性岩類のみ	308	埋土中に炭化物粒
SI34	A	D11-1	Ⅲ	0.7	0.65	Ⅲ	−	−	−	尾鈴山酸性岩類のみ	53	
SI35	A	B9-2	Ⅲ	0.95	0.9	Ⅲ	−	−	−	尾鈴山酸性岩類のみ	124	
SI36	A	F9-1	Ⅲ	0.81	0.77	Ⅲ	−	−	△	尾鈴山酸性岩類のみ	95	礫の間に炭化物粒僅か
SI37	A	F13-3	Ⅲ	0.88	0.79	Ⅱ	○	−	△	尾鈴山酸性岩類のみ	73	埋土中に炭化物粒僅か
SI38	A	F12-2	Ⅲ	2.07	1.56	Ⅰ	○	○	○	尾鈴山酸性岩類のみ	1515	周囲に散礫を伴う 掘り込み底面に炭化材

※層は、検出面を示す　※長径、短径は礫の広がる範囲で計測　※炭化物は、○炭化材あり　△炭化物あり　－炭化物無し

第１表　集石遺構観察表

2　炉穴

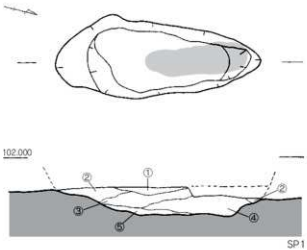
SP1（第35図）

B区で検出された。長径約2.2mの長楕円形。検出面からの深さは中央部で約0.3m。焼土の検出された側の立ち上がりが急になっている。これの検出面はKr-Kbを含む層（Ⅴ層）であるが、底面から押型文土器（Ⅰ類Bb）の小片が出土しており、SP1は縄文時代早期に属する可能性がある。そこで、SP1から検出された炭化物を用いてAMS-炭素14（^{14}C）年代測定を行った（詳細第Ⅴ章）。測定の結果、SP1の年代は8,000±50BPで、較正年代でＢＣ7,000年頃～ＢＣ6,800年頃とされ、ＢＣ7,800年頃～ＢＣ7,000年頃とされた集石遺構検出の炭化材によるものと大差ない数値であった。このことから、SP1は縄文時代早期の遺構としてよいものと思われる。

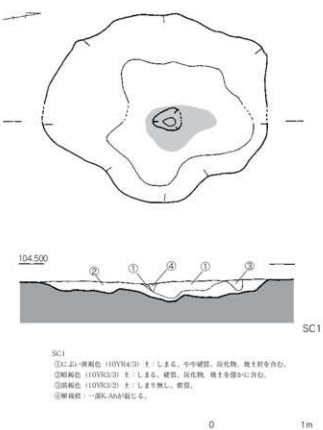
3　土坑

SC1（第35図）

SI12・38周囲の散礫西端から検出された（第8図・第27図参照）。長径約2.4mの楕円形。検出面からの深さは中央部で約0.2m。中央付近の埋土に焼土や炭化物粒を含む部分がある。集石遺構に近く散礫の端に位置しているため、礫を熱するために火を焚いた土坑とも考えられるが、内部から赤化した礫は出土せず、炭化物も中央付近以外の埋土からは検出されていない。



SP1
①暗黄褐色（10YR4/2）土：しまり無し。軟質。にぶい黄橙（10YR6/4）色の粒を含む。
②黒褐色（2.5YR3/2）土：しまり無し。やや硬質。焼土を僅かに含む。
③黒褐色（2.5YR3/1）土：僅かにしまる。やや硬質。焼土を少し含む。
④黒褐色（2.5YR3/1）土：僅かにしまる。やや硬質。焼土、炭化物を多く含む。
⑤暗オリーブ褐色（2.5YR3/3）土：しまり無し。軟質。焼土を僅かに含む。



SC1
①にぶい黄褐色（10YR4/3）土：しまる。やや硬質。炭化物、焼土粒を含む。
②暗褐色（10YR3/3）土：しまる。硬質。炭化物、焼土を僅かに含む。
③黒褐色（10YR3/2）土：しまり無し。軟質。
④層説明：一部K-Abが混じる。

第35図　縄文時代早期炉穴・土坑実測図（1/40）

4　縄文土器

本遺跡では、さまざまな文様を施された土器が出土している。それらの多くは小片であり、接合を行ったものの器形が分かる程度にまで復元できたものは数個体のみで、器形からの分類は困難と思われた。そこで、これらを文様を基にⅠ～Ⅴ類に大別し、さらに合計12種類に細分した。

・Ⅰ類　押型文が施されているもの。さらに３種類に分かれる。
　A　格子目押型文が施されているもの。
　B　山形押型文が施されているもの。さらに２種類に分かれる。
　　a：山が比較的小さく、深く施文されているもの。
　　b：山が比較的大きく、浅く施文されているもの。
　C　楕円押型文が施されているもの。さらに２種類に分かれる。
　　a：楕円の長径が比較的小さい（６㎜未満）もの。
　　b：楕円の長径が比較的大きい（６㎜以上）もの。
・Ⅱ類　条痕文が施されているもの。さらに２種類に分かれる。
　A　斜～横方向に貝殻条痕文が施されているもの。
　B　不規則に条痕文が施されているもの。
・Ⅲ類　刺突文が施されているもの。
・Ⅳ類　撚糸文が施されているもの。さらに３種類に分かれる。
　A　一節の長径が約５㎜で、一節ごとの間隔が比較的広いもの。
　B　一節の長径が約４㎜のもの。
　C　一節の長径が約１㎜のもの。
・Ⅴ類　その他。文様を持たないものや、Ⅰ～Ⅳ類に当てはまらない文様のもの。

【Ⅰ類A】（第36図135～143）

９点を図化した。胎土の特徴等から、全て同一個体と思われる。口縁部内面は上段に縦位の原体条痕が、下段に外面と同じ格子目押型文が施されている。口縁形態は波状口縁と思われる。厚さは約10㎜。口縁部断面形は舌状もしくは角の丸い方形を呈する。早水台式に相当。これらの胎土には黒色の鉱物が多量に含まれており、土器表面がキラキラと光る様子が観察された。このような胎土は、他の分類とした土器では確認されていない。

【Ⅰ類Ba】（第36図144～153）

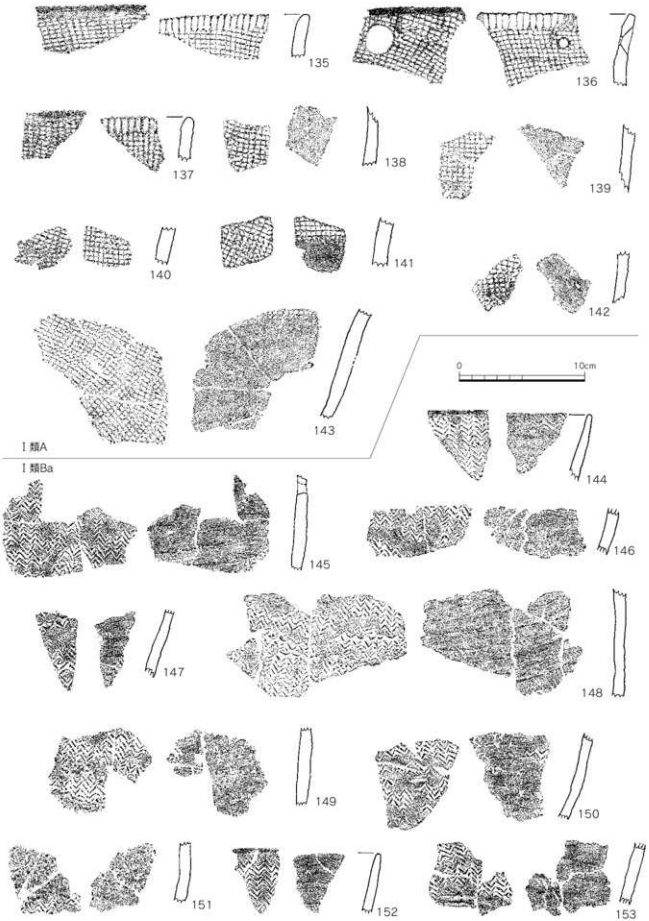
10点を図化した。山形押型文は横回転で、内面にも施されているものもある。内面は横方向のナデ。厚さは約７㎜。口縁部断面形は舌状を呈している。稲荷山式に相当。いずれもあまり風化した印象は無く、しっかりしている。

【Ⅰ類Bb】（第37図154～162）

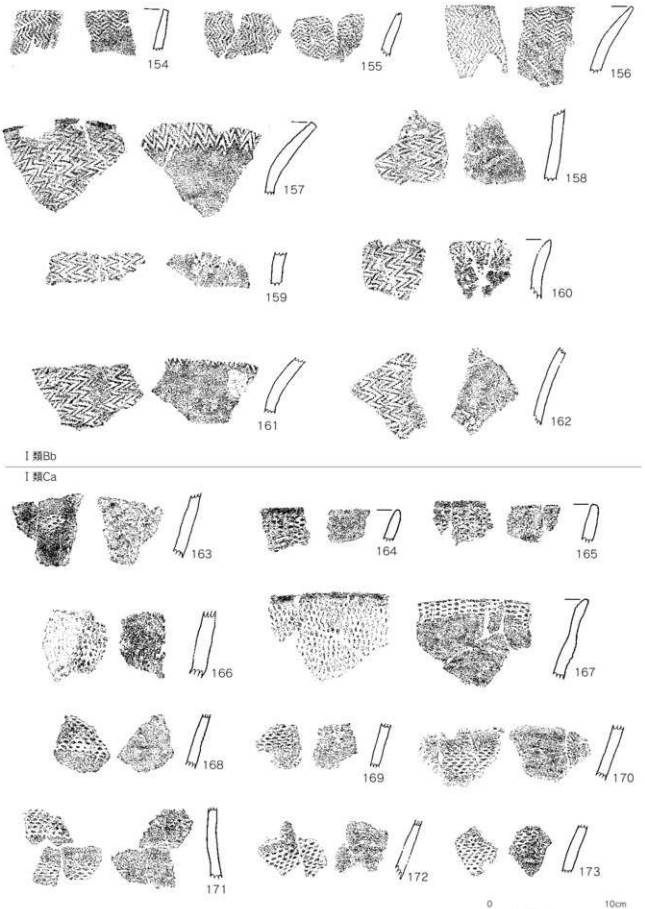
９点を図化した。外面の山形押型文は縦回転で、口縁内面上部に施されたものは横回転である。浅く施文されているためか、文様が薄くなっているものが多い。厚さは約７㎜。口縁部断面形は舌状や方形を呈し、多くは短く外反している。田村式に相当。表面は粉っぽく、Ⅰ類Baよりも風化している。154～156は他よりも山が小さいが、施文方向は一致している。

【Ⅰ類Ca】（第37図163～173）

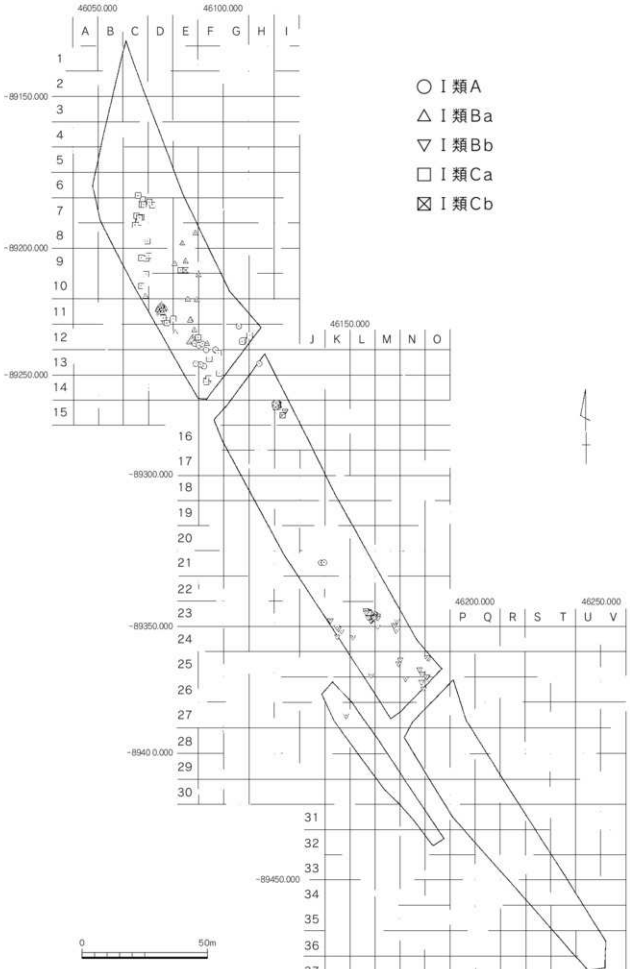
11点を図化した。外面は横回転の楕円押型文が多いが、166・167は縦回転である。また、内面に楕円押型文が施されているものもあり、こちらはいずれも横回転である。厚さは約９㎜。口縁部断面形は舌状や方形を呈している。稲荷山式に相当。163は小型の胴部片であるが、楕円押型文がベルト状に施文されている。



第36図　縄文時代早期土器実測図（1）(1/3)



第37図　縄文時代早期土器実測図（2）(1/3)



第38図　押型文土器分布図（1/1,500）

【Ⅰ類Cb】（第39図174～177）

４点を図化した。口縁部を含むものは無く、底部である177が横回転であることが分かる以外、施文方向は不明である。厚さは約10㎜。田村式に相当。

【Ⅱ類A】（第39図178～189、第40図190～196）

19点を図化した。器面が風化しているものが多く、中には文様の一部しか判別できないものもある。内面は縦もしくは横方向のナデ。厚さは約10～12㎜。口縁部断面形は舌状もしくは角の丸い方形を呈し、短く外反するものが多い。別府原３式に相当。

【Ⅱ類B】（第40図197）

口縁部付近のもの一点しか出土していない。厚さは約15㎜。口縁部断面形は方形を呈する。内外共に風化している。

【Ⅲ類】（第42図198～200、第43図201・202）

５点を図化したが、198と199と200、201と202は、それぞれ同一個体と思われる。図化しなかった小片もどちらかの個体に含まれるため、Ⅲ類は２個体しかないものと思われる。どちらも狭い範囲に同一個体の土器片が集中して出土した。どちらも下剥峯式に相当すると思われる。

198～200は、斜方向に刺突文が施されている。平底で、裏底には木の葉圧痕が残されている。内面は横方向のナデ。厚さは約７㎜。器形は、底部から外に開きながら立ち上がるバケツ状で、口縁部断面形は方形を呈する。

201・202は、規格化された刺突による文様が全面に施されている。内面は縦方向のナデ。厚さは約10㎜。底部は出土していないが、外に開きながら立ち上がるバケツ状を呈する。口縁部断面形は方形を呈し、口縁端部が特に厚くなっている。

【Ⅳ類A】（第45図203）

１点のみ図化した。外面に斜位の撚糸文が施されている。厚さは約10㎜。口縁部断面形はやや角の丸い方形を呈する。

【Ⅳ類B】（第45図204～210）

Ⅳ類の中では数が最も多く、７点を図化した。外面に斜位の撚糸文が施されている。内面は横方向のナデ。厚さは約７㎜。口縁部断面形は舌状や方形を呈する。稲荷山式に相当するか。206・209は、文様の一部を撫で消した無文帯が設けられている。

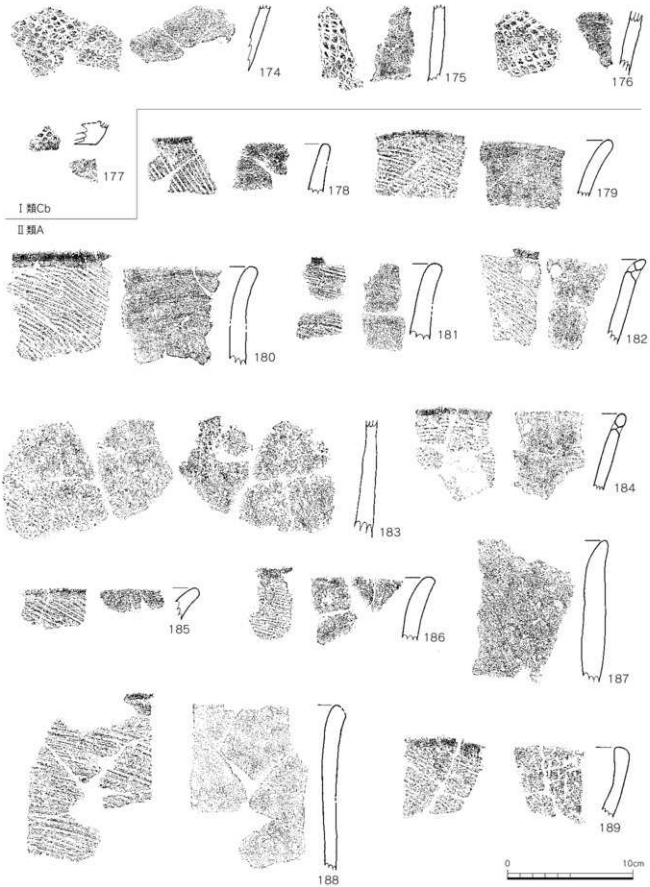
【Ⅳ類C】（第45図211）

１点のみ図化した。厚さは約７㎜。図化しなかったものも、全て小片であった。

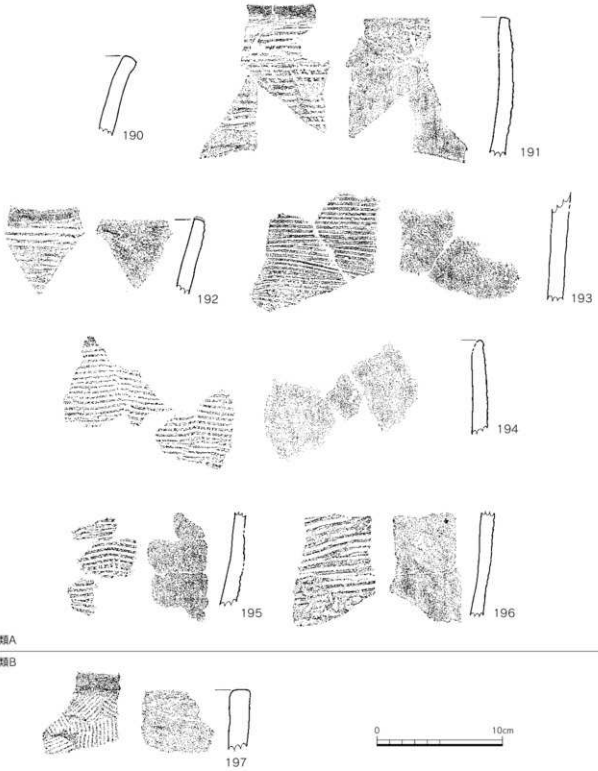
【Ⅴ類】（第45図212～216）

４点を図化した。212は平底、213は丸底の底部である。どちらも文様は施されていない。214は、土器表面に粘土紐を菱形に貼り付け、文様としたものである。小片で、他に類似する文様のものは確認できない。215は、部位不明の土器片である。その形態から、つまみのような部分ではないかと思われる。216は壺の口縁部と思われる。文様は施されていない。

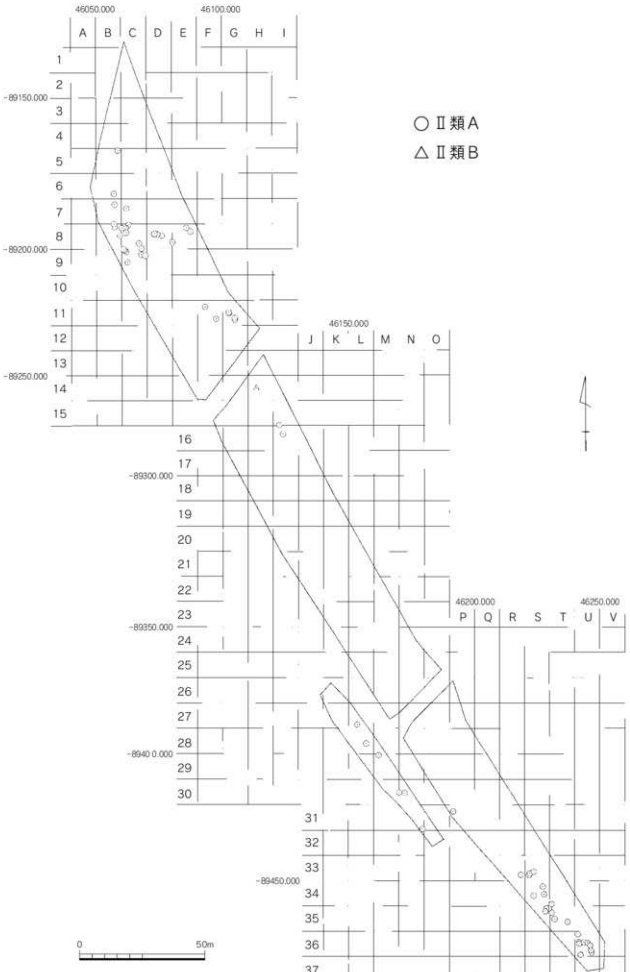
これらの各分類は、それぞれに遺跡内で一定の分布域を持っており、使用時期の違いが想定されるが、層位的把握は困難であったため、各類の共伴関係・編年的序列等不明な点が多い。中には、Ⅰ類Caの様に弧を描く様に分布し、本調査区外へ続くと思われるもの（第38図参照）や、Ⅱ類の様にA区とC区南側に分布域が偏るもの（第41図参照）等、本遺跡の状況だけでは判断し難いものもある。そのため、遺跡周辺の状況を総合しなければ、より深い理解は難しいものと思われる。



第39図　縄文時代早期土器実測図（3）(1/3)

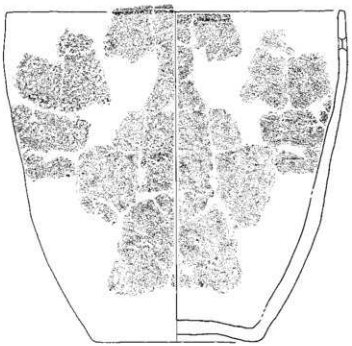


第40図　縄文時代早期土器実測図（4）(1/3)



第41図　条痕文土器分布図（1/1,500）

Ⅲ類



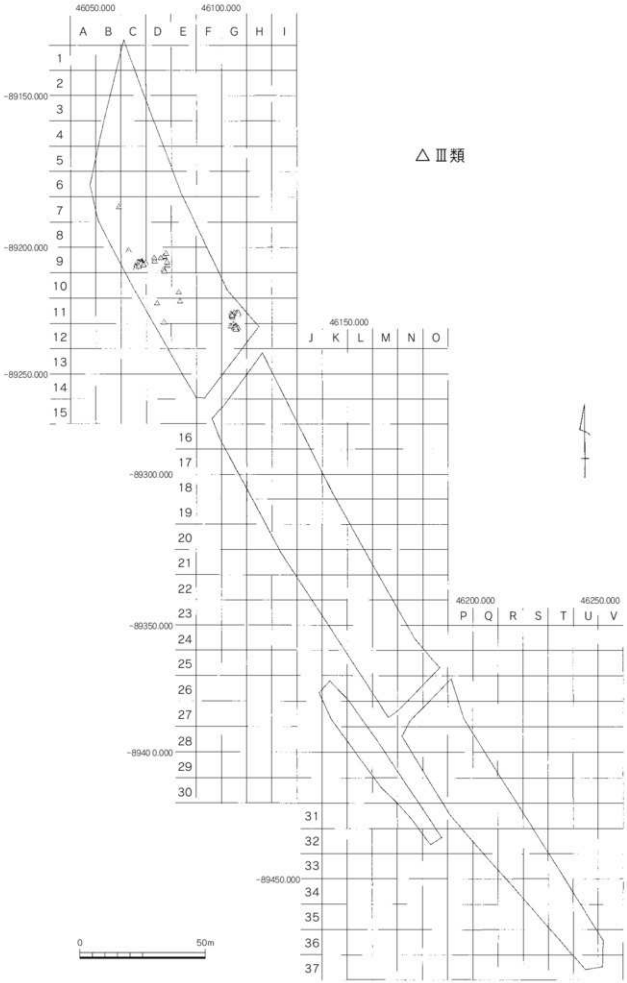
198

199

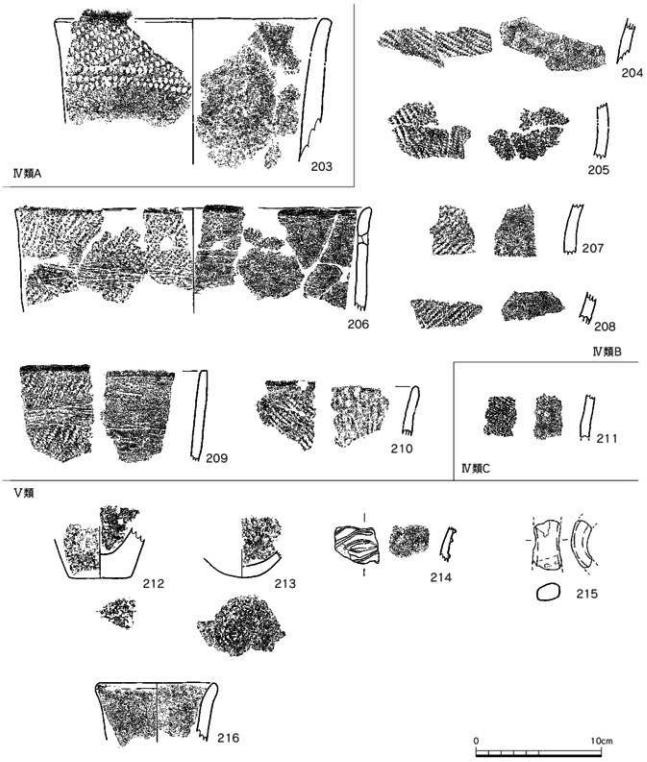
200

第42図　縄文時代早期土器実測図（5）(1/3)

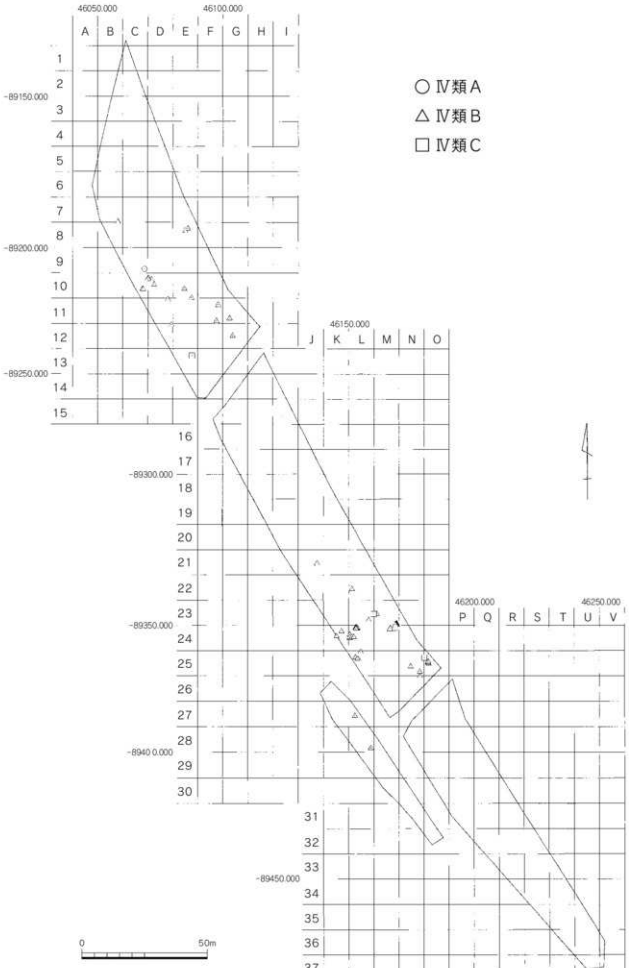
第43図　縄文時代早期土器実測図（6）(1/3)



第44図　刺突文土器分布図（1/1,500）



第45図　縄文時代早期土器実測図（7）(1/3)



第46図　撚糸文土器分布図（1/1,500）

5　石器

【石鏃】（第47図217～267、第48図268～298）

本調査では、合計82点が出土した。これらはその大まかな形から、以下の５種類に分類を行った。

① 正三角形（217～236）　20点
② 二等辺三角形（237～275）　39点
③ 鍬形（276～282）　７点
④ その他（283～291）　９点
⑤ 欠損により形態不明（292～298）　７点

これら５種類の中では②二等辺三角形が39点と最も多いが、それぞれの分類中で器長や抉りの大小は様々である。また、いずれかの分類が狭い範囲に集中するといった様子も見られない。

使用されている石材で最も多いのは、チャート類で45点（Ch1が13点、Ch2が28点、Ch3が3点、Ch4が1点）が出土している。続いて黒曜石が16点（Ob1が9点、Ob3が7点）、ホルンフェルス（H2）が13点と多く、流紋岩や頁岩、サヌカイト、尾鈴山酸性岩類も僅かながら用いられている。形態分類ごとの石材の偏りは見られない。サヌカイト製のものは283の１点しかなく、他に剥片も見られないことから、製品の状態で搬入されたものと思われる。

ほとんどの石鏃は、剥離による調整のみであるが、298は中央の平坦部に磨いた部分を有する局部磨製石鏃である。また、227は裏面に自然面のような滑らかでない部分を有している。

石鏃のほとんどはA・B区から出土しており、その多くがチップの集中範囲と重なっている。しかし、B区北側には、チップやその他の遺物がほとんど出土しない場所から、石鏃のみが単独で点々と分布する範囲がある（第49図参照）。

ここで、上でも登場したチップについて記述しておく。本調査では、チップ（小型の剥片の中でも、長辺が１㎝に満たないもの）が大量に出土した。その数は、出土地点を記録したものだけでも約2000点にのぼる。この中で、最も多い石材はチャート類で約87％を占めている。次いでホルンフェルスが約６％、黒曜石が約５％、流紋岩が約２％となる。これらのチップは、そのほとんどがA・B区に分布しており、また幾つかの集中部を持っている（第49図参照）。そして、縄文時代早期では石器の多くがこのチップの集中部と重なる場所から出土している。このような事と、下に記す石鏃未製品とを合わせて考えてみると、本遺跡ではA・B区の各地で石器製作が行われていたと考えられる。

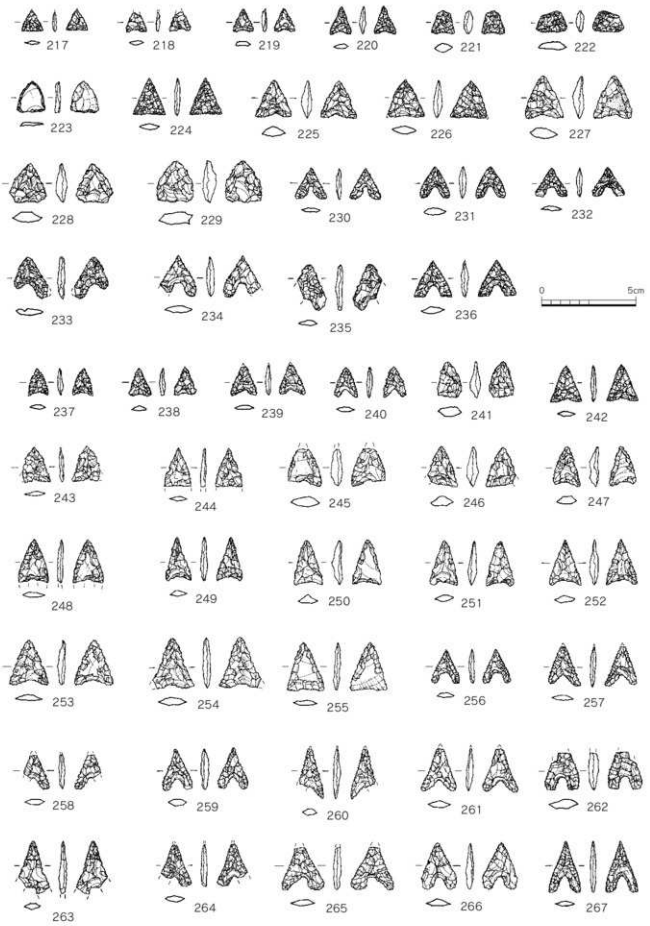
【石鏃未製品】（第48図299～307）

本調査では、石鏃未製品と思われるものが合計９点出土した。299～303は一部調整が行われているが、全体の整形が完了していないと思われるものである。304～307は、いずれも全く調整されていない剥離面を有しており、大まかな形を整える段階と思われる。

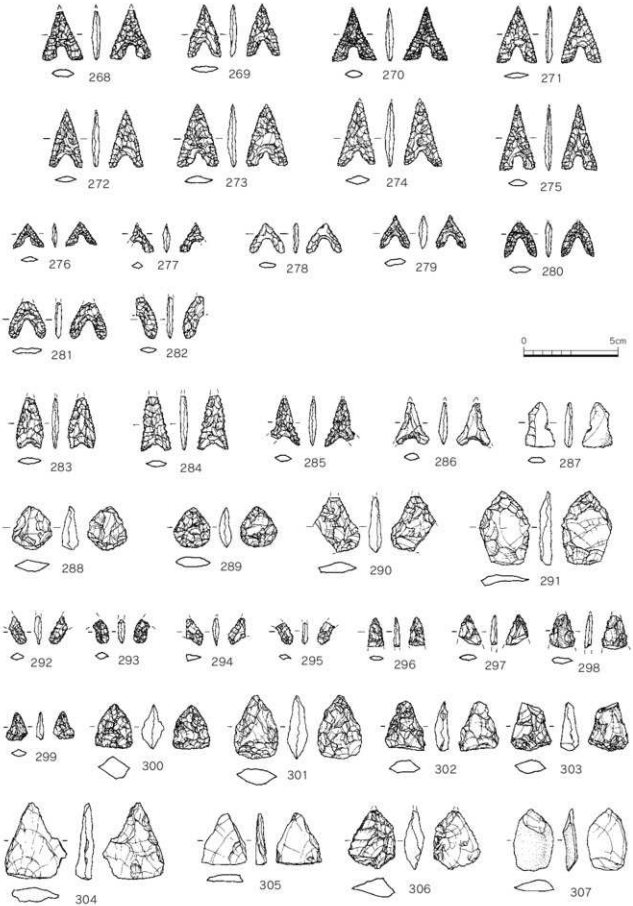
【石斧】（第50図308～311、第51図312～315）

合計８点が出土した。全てホルンフェルス（308・309・311・314はH1、310・312・313・315はH2）製である。308は有肩の打製石斧である。円刃で、裏面に一部自然面を残している。309は裏面に自然面を残し、調整を行った打製石斧であり、刃部はノミのような形状をしている。310は円刃の打製石斧である。表面から調整を行い、裏面は大きく自然面を残している。311は尖った刃部を持つ打製石斧である。基部側がやや細く作られている。

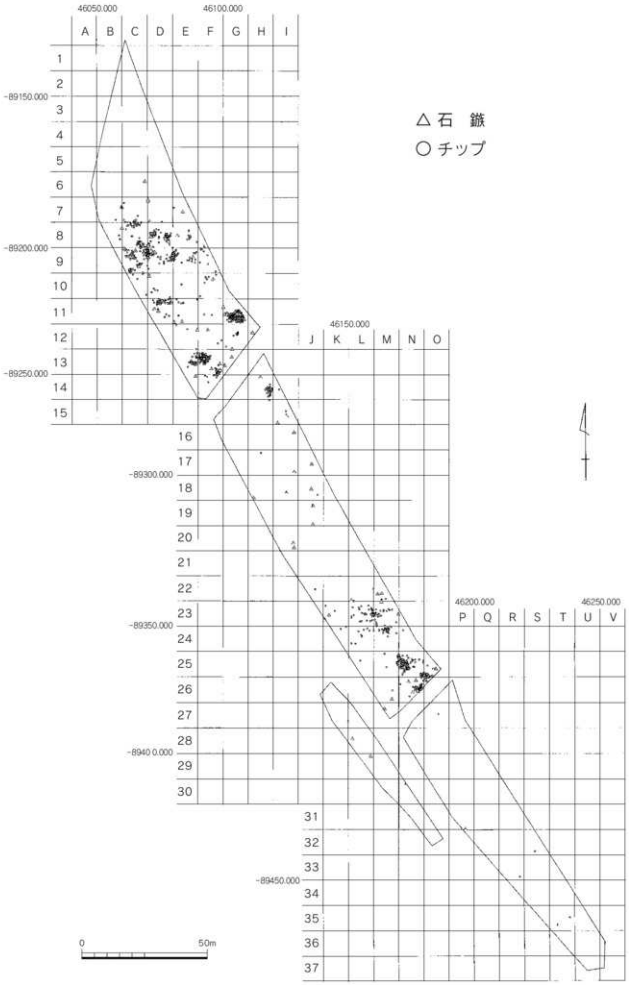
312は太い胴を持つ打製石斧である。円刃で、裏面は自然面を残している。胴部がややえぐれている。313は両面から調整を行った偏刃を持つ打製石斧である。周囲すべてに調整が施されており、裏面中央部には磨いたような部分がある。314はその刃部形態から磨製石斧と思われるが、石材の風化が激しく詳細を観察することができない。315は基部が僅かに細い短冊形をしており、敲打による整形の後に剥離を行っている。刃部の表面に磨いた部分を有する局部磨製石斧である。



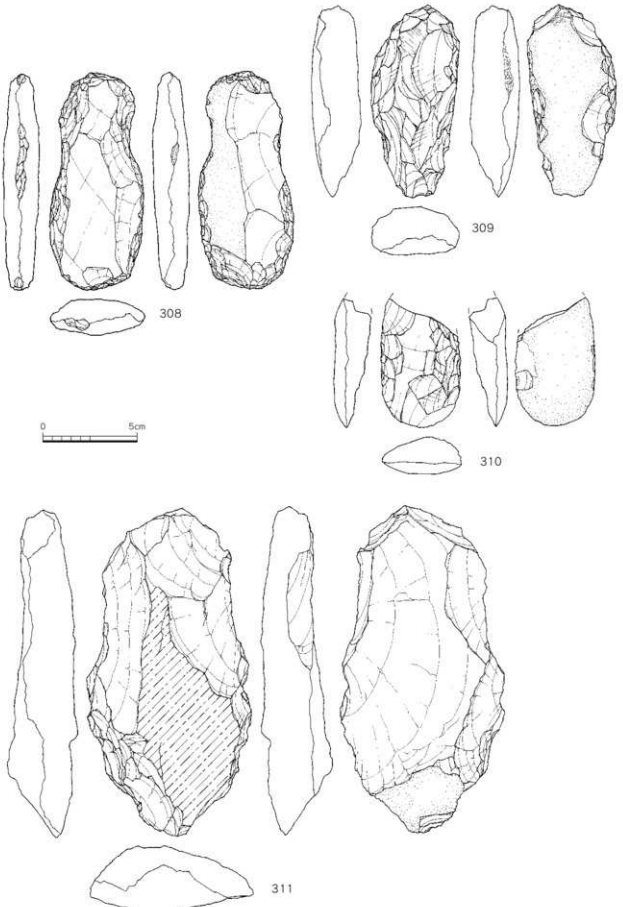
第47図　縄文時代早期石器実測図（1）(1/2)



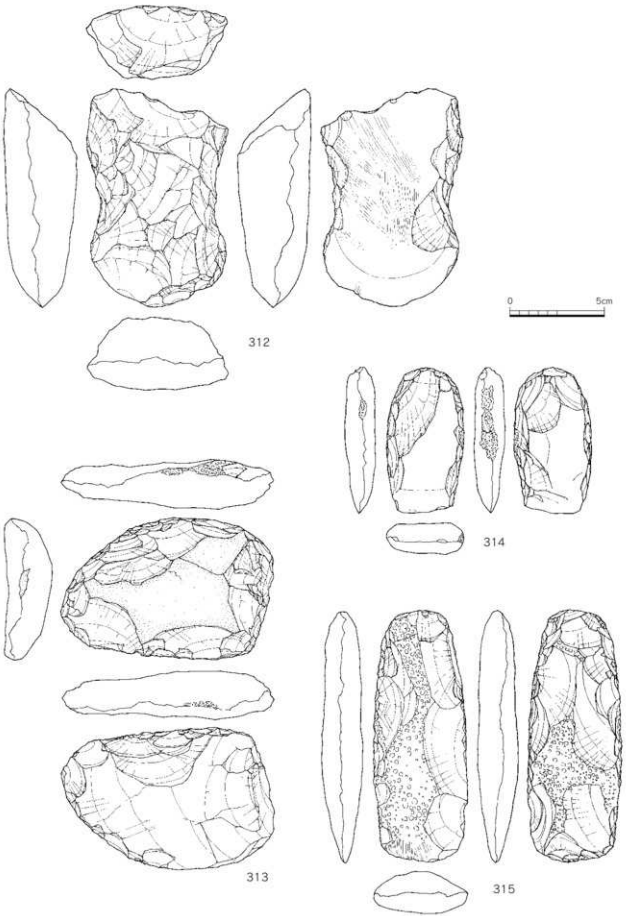
第48図　縄文時代早期石器実測図（2）(1/2)



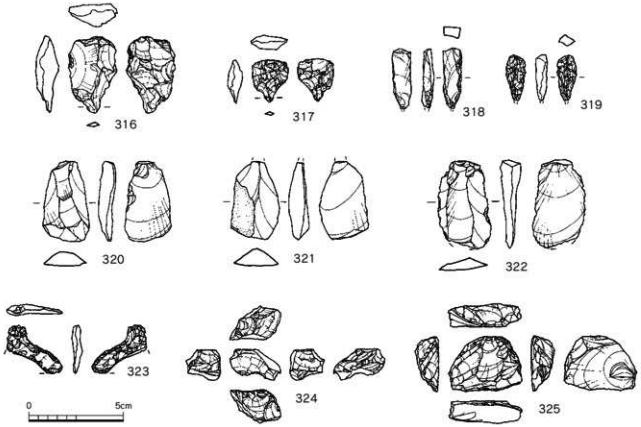
第49図　石鏃・チップ分布図（1/1,500）



第50図　縄文時代早期石器実測図（3）(1/2)



第51図　縄文時代早期石器実測図（4）(1/2)



第52図　縄文時代早期石器実測図（5）(1/2)

【石錐】（第52図316～319）

合計4点が出土した。316・317はチャート類（316がCh1、317がCh2）製で、不定形の基部から短い錐部が作り出されている。

318・319は、棒状の石錐ではないかと思われるものである。318は流紋岩製、319は黒曜石（Ob1）製である。どちらも側面に調整を施し、下端を尖らせている。

【石匙】（第52図320～323）

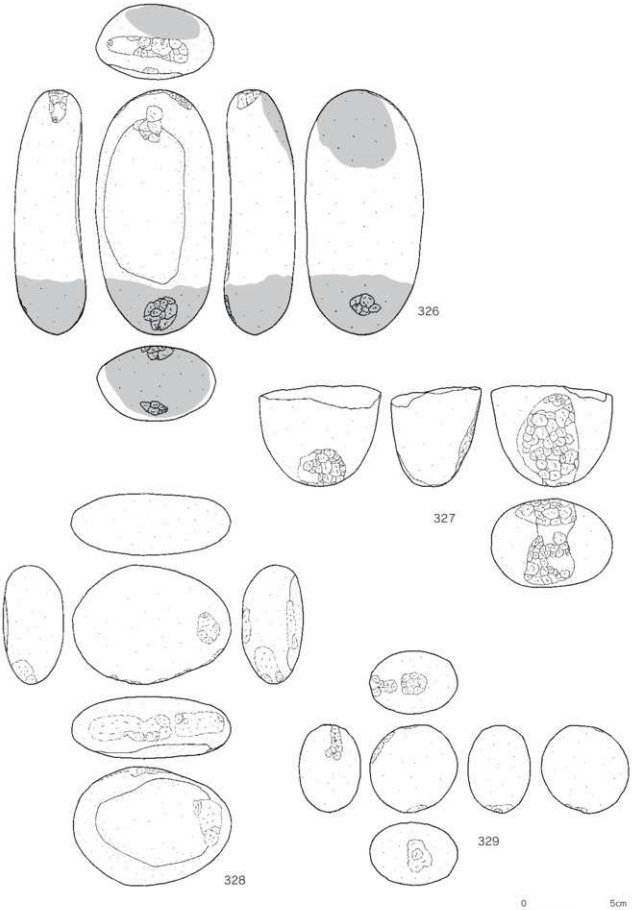
合計4点が出土した。320～322は縦長の刃部を持つホルンフェルス（H2）製、323は横長の刃部を持つ黒曜石（Ob1）製である。それぞれ、上部中央につまみ部分、またはその痕跡がみられる。

【石核】（第52図324・325）

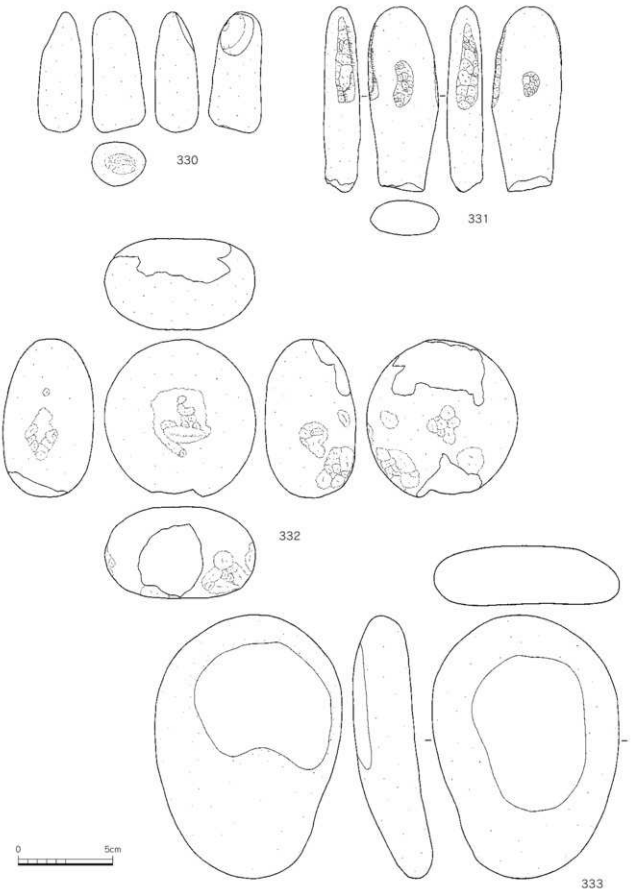
合計2点が出土した。324はチャート類（Ch2）製、325は流紋岩製である。どちらも複数面からの剥離が行われている。

【礫石】（第53図326～329、第54図330～332）

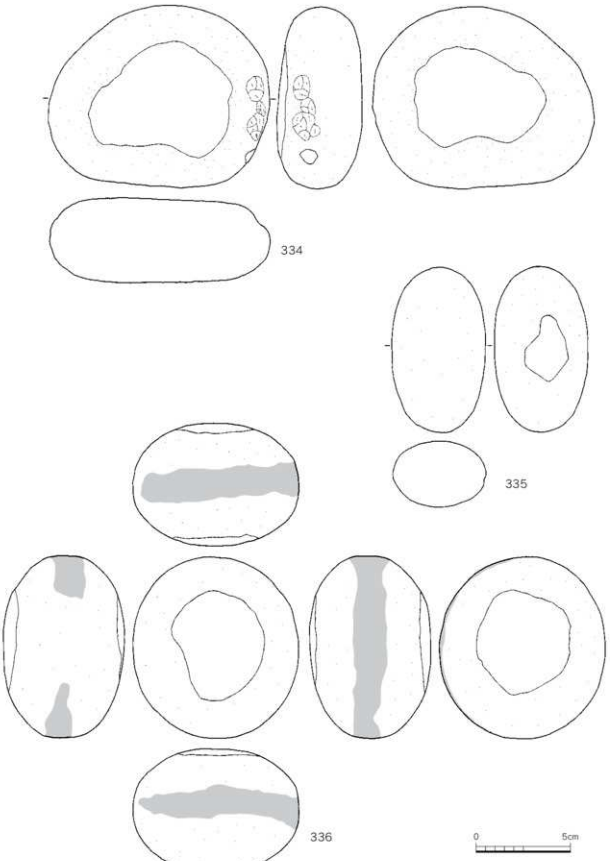
合計7点が出土した。砂岩製が多いが、尾鈴山酸性岩類やホルンフェルス、頁岩も利用されている。326～329は砂岩製である。いずれも複数箇所に敲打痕を持つ。326は礫の上下両側の一部（網掛け部分）が赤化しているが、原因は不明。327は上部から表面にかけての広い範囲に敲打痕を有している。330はホルンフェルス（H2）製である。棒状で、下面中央部に敲打痕を持ち、裏面上部が一部剥離している。331は頁岩製で、細長い扁平な礫を利用している。左右側面の敲打痕には、それに重なるように何かでこすられたような浅い溝が連続して残されている。332は尾鈴山酸性岩類製である。礫表裏面、左右の稜に敲打痕を持ち、裏面の表皮が大きく剥がれている。



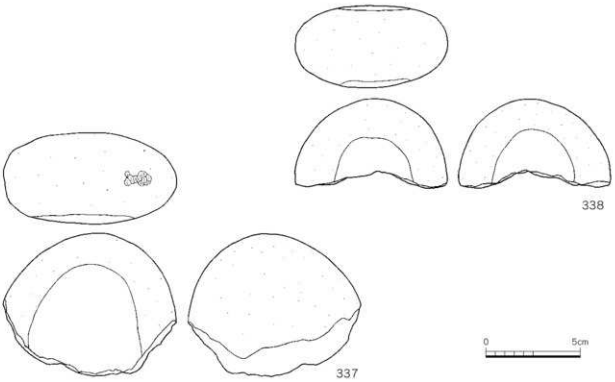
第53図　縄文時代早期石器実測図（6）(1/2)



第54図　縄文時代早期石器実測図（7）(1/2)



第55図　縄文時代早期石器実測図（8）(1/2)



第56図　縄文時代早期石器実測図（9）(1/2)

【磨石】（第54図333、第55図334～336、
第56図337・338）

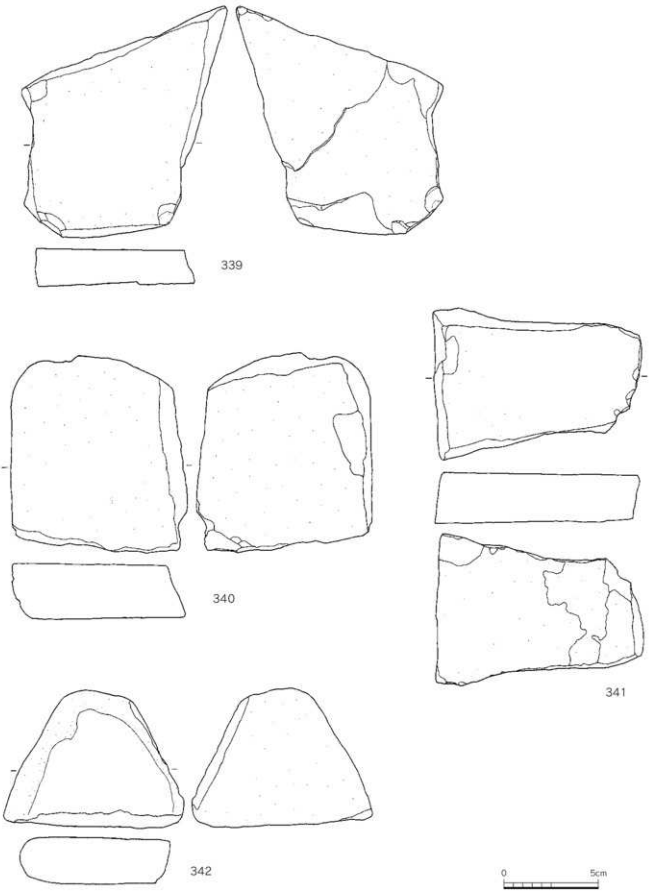
合計６点が出土した。333は砂岩製、334～338は尾鈴山酸性岩類製で、表裏面に磨面を有している。333は全体が赤化しており、裏面中央が僅かに窪んでいる。334や337のように、僅かに敲打痕を有しているものもある。336は礫の周囲に細かな敲打が帯状に（網掛け部分）施されている。

【砥石】（第57図339～342）

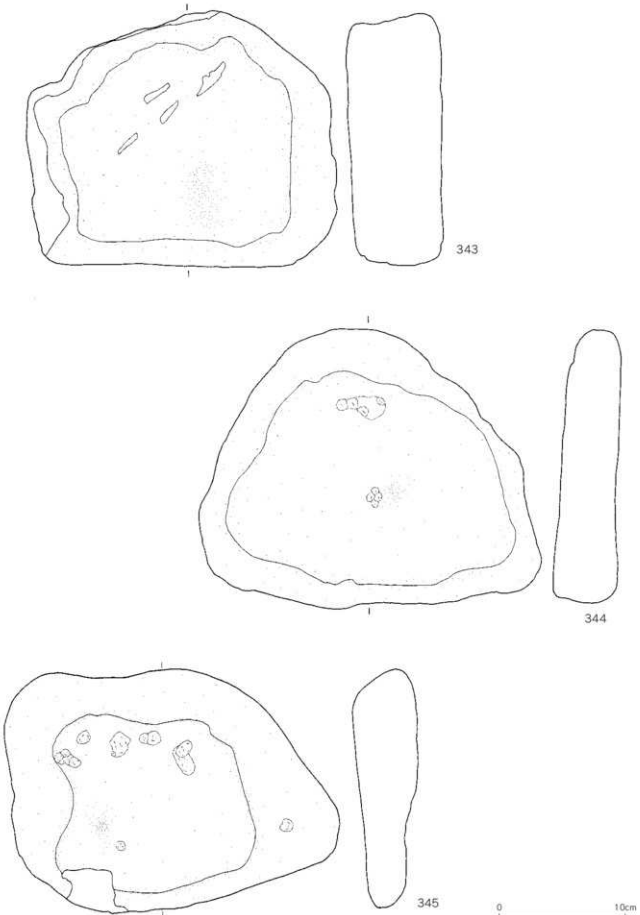
合計４点が出土した。いずれも表面に、他の剥離面とは異なる磨面を有している。339～341は尾鈴山酸性岩類製、342はホルンフェルス（H2）製である。

【台石】（第58図343～345）

合計３点が出土した。全て尾鈴山酸性岩類製で、平坦面に敲打痕を有しているものもある。



第57図　縄文時代早期石器実測図（10）(1/2)



第58図　縄文時代早期石器実測図（11）(1/3)

（4）弥生時代の遺構・遺物

この時期の遺構は、調査区北端で２軒の竪穴住居跡が検出されたのみである。遺物は、ほとんどがこの２軒から出土した。

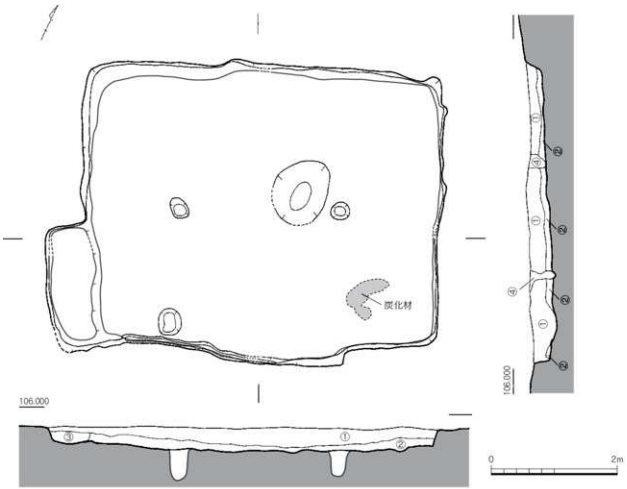
1　竪穴住居跡

【SA1】（第59図）

６ｍ（張り出し含む）×4.5ｍの方形で、西側に張り出しを持つ。貼床が全面に施され、検出面から貼床面までの深さは約0.3ｍ、掘削面までの深さは約0.4ｍであった。主柱穴は２本柱で、貼床面から約0.6ｍ掘り込んでいる。南側壁沿いに壁帯溝を有している。埋土中から炭化材が出土しており、焼失住居の可能性がある。この炭化材を用いて年代測定を行ったところ、較正年代でAD347～AD503年頃との結果が得られた（詳細第Ⅴ章）。床面中央部に浅い土坑が確認されたが、内部から炭化物等は確認されなかった。遺物はあまり多くないが、石庖丁と砥石が床面直上から出土している。

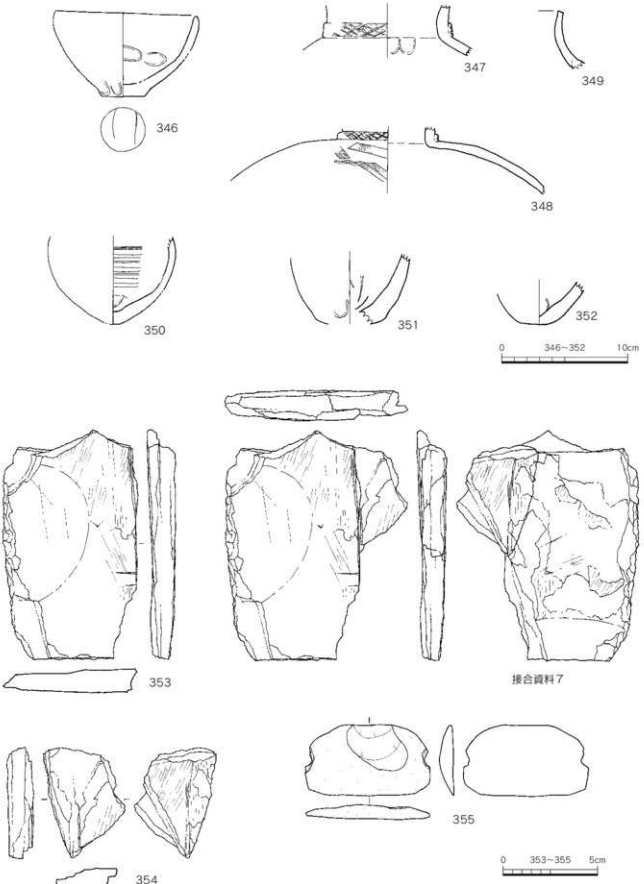
［SA1出土遺物（第60図346～355、第61図356～358）］

346は鉢である。埋土中から完形で出土した。底部は小さな脚台状を呈しており、指押さえによる成形の跡を持つ。底裏に工具痕と思われる溝が残っている。347・348は壺の頸部と思われる。どちらも屈曲部に刻目貼付突帯を有している。349は壺の口縁部である。内外共によく磨かれている。350は小型壺の胴部～底部と思われる。内面に、工具による横方向のナデが施されている。351・352は底部である。どちらも尖底に近い平底を呈

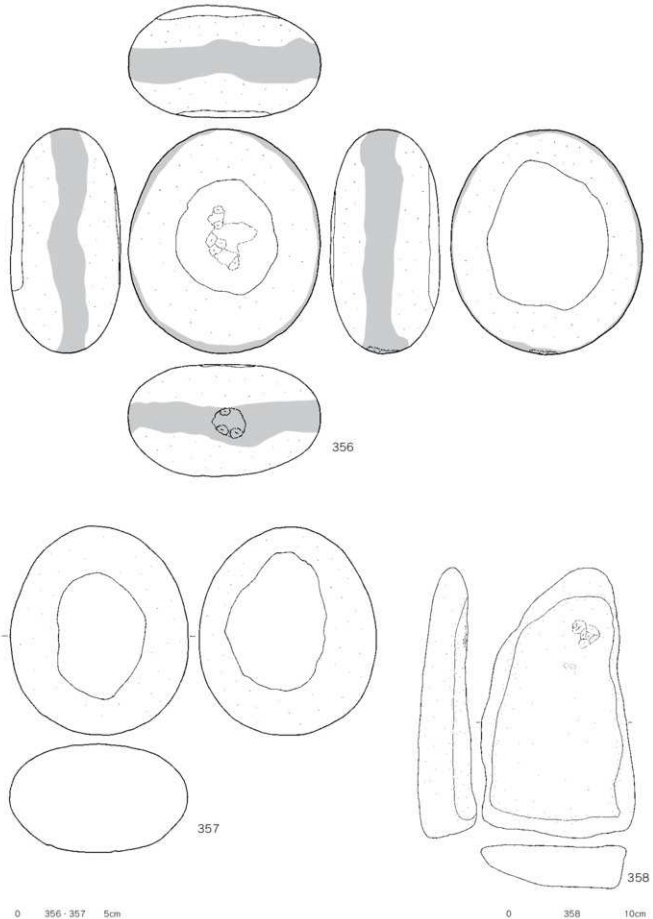


SA1
①黒色（10YR1.7/1）土：固くしまる。粘性無し。炭化物等無し。
②黒褐色（7.5YR2/2）土：固くしまる。粘性無し。橙色の粒が所々混じる。①の黒色土が混じっている所もある。粗床土。
③黒褐色（7.5YR2/2）土：しまる。②よりも少し柔らかい。
④焼土

第59図　弥生時代SA1実測図（1/60）



第60図　SA1出土土器実測図（1/3）・石器実測図（1）（1/2）



第61図　SA1出土石器実測図（2）（1/2・1/3）

しており、鉢の底部と思われる。

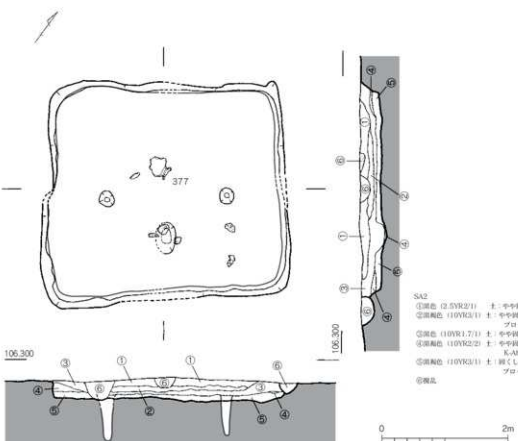
353・354は砥石である。頁岩製で、接合すると（第60図接合資料７）、接合部分にV字形の溝が見られた。この溝から、擦切技法により切断が行われたと思われるが、擦切による溝は接合部の下側のみで、上側は折れている。また、切断面裏側等に擦切を行おうとしたと思われる浅い溝が残されている。353は一部が使用によって摩耗し、楕円形に窪んでいる。355は石庖丁である。ホルンフェルス（H1）製で、短辺に抉りを設けており、表面は自然面を残している。356は敲石である。尾鈴山酸性岩類製で、礫表面中央と下端に敲打痕を持つ。また、礫の周囲には、細かな敲打を施した一帯（網掛け部分）がある。357は磨石である。尾鈴山酸性岩類製で、表裏両面に磨面を持つ。358は台石である。尾鈴山酸性岩類製で、平坦な表面に敲打痕を有している。

【SA2】（第62図）

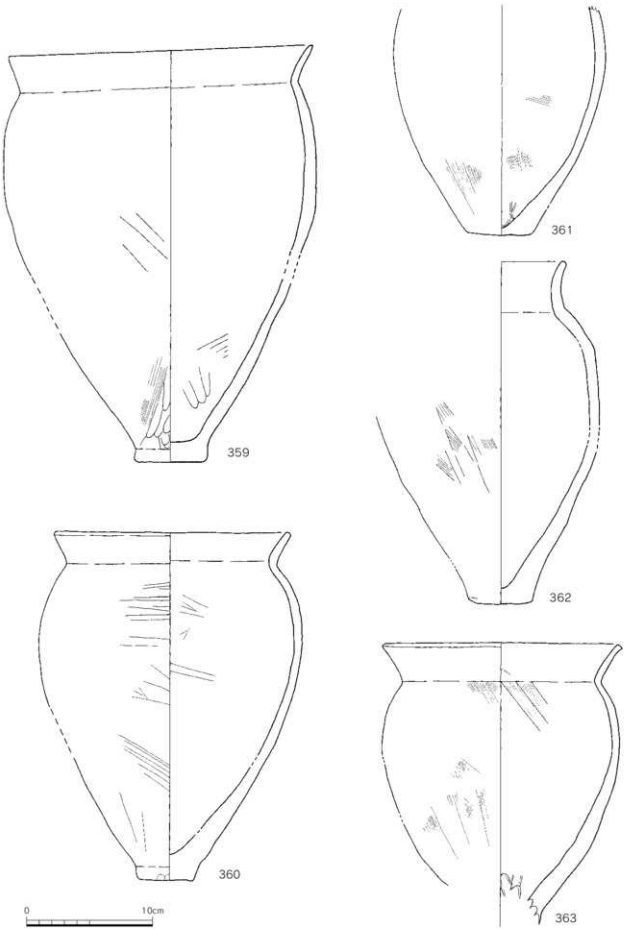
４ｍ×3.5ｍの方形で、多数の土器片が積み重なるようにして出土した。貼床が全面に施され、検出面から貼床面までの深さは約0.25ｍ、掘削面までの深さは約0.35ｍであった。主柱穴は２本柱で、貼床面から約0.6ｍ掘り込んでいる。南側の一部は現代の攪乱に切られている。遺物は、SA1に比べて遙かに多くの土器片が出土したが、石器は埋土中から石庖丁が１点出土したのみであった。

［SA2出土遺物（第63図359～363、第64図364～375、第65図376～380、第66図381～384）］

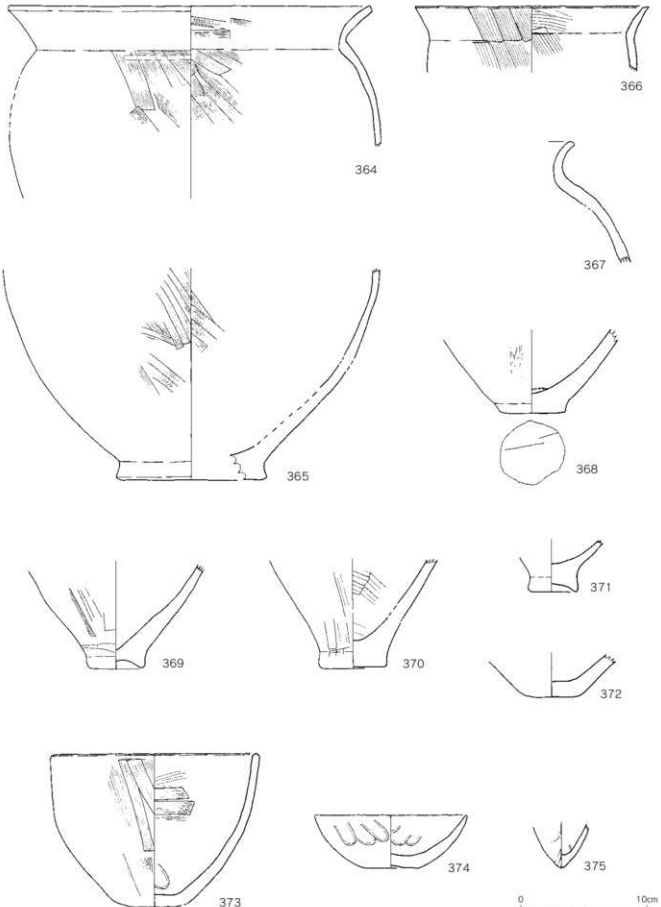
359～367は甕である。いずれも口縁部付近で「く」の字に外反しており、内外面共にハケ目が施されている。底部が小型の脚台、あるいは平底を呈している。364と365は、同一個体であることが確認されたものの、接合箇所が小さく組み上げることは困難であったため、分割した状態で実測を行ったが、写真撮影時に復元を行っている（図版26



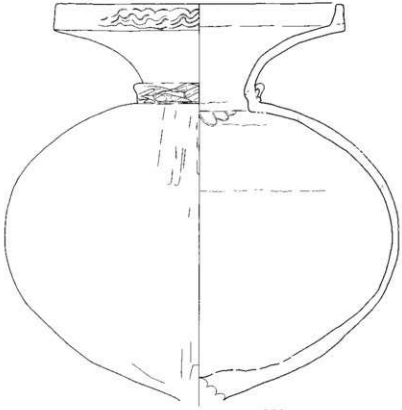
第62図　弥生時代SA2実測図（1/60）

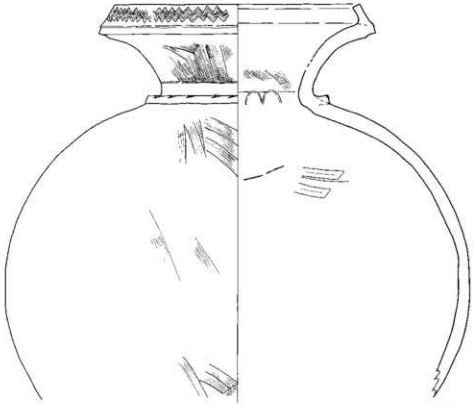


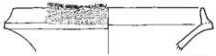
第63図　SA2出土土器実測図（1）（1/3）



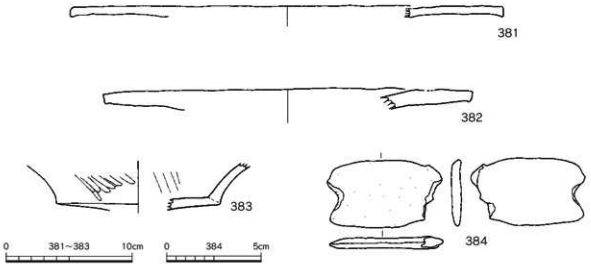
第64図　SA2出土土器実測図（2）(1/3)







第65図　SA2出土土器実測図（3）（1/3）



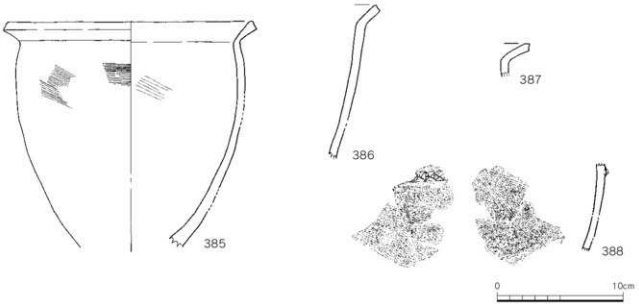
第66図　SA2出土土器実測図（4）(1/3)・石器実測図（1/2）

参照）。368～372は底部である。372が平底である以外は脚台状を呈しており、甕の底部と思われる。いずれも外面にはナデ、もしくはハケ目が施されている。373は浅鉢である。平底で、内外面共にハケ目が施されている。374は塊である。内外共に指押さえの跡が多数残っている。375は手づくね土器である。尖底で、おそらく鉢形と思われる。

376～380は壺である。376～378は複合口縁壺で、いずれも口縁部に櫛描波状文が施されている。特に377は、口縁部から胴部までがつながった状態で出土した。また、376・377は、細部は異なるものの、どちらも頸部に刻目貼付突帯を有している。379は他のものよりもよく磨かれており、きれいに整えられている。380は口縁部から頸部が直線的に立ち上がっている。

381・382は器台もしくは高坏の口縁部と思われる。これらに接合するものは確認されず、全体像は不明である。どちらも風化が激しく、明確な調整は判別出来なかった。383は高坏の坏部である。外面はよく磨かれており、硬質な印象を受ける。脚部は見つかっていない。

384は石庖丁である。埋土中から出土した。ホルンフェルス（H2）製で、短辺に抉りを設けているが、右側が破損している。表面は自然面を残している。左側の抉りは、剥離したままではなく磨かれている。



第67図　包含層等出土弥生土器実測図（1/3）

2　包含層等出土弥生土器（第67図）

385～388はMB0（Ⅲ層）中や攪乱土中から出土した土器片である。MB0（Ⅲ層）は、基本的には縄文時代早期の層であるが、出土地点は現代の耕作によりK-Ah（Ⅱ層）が消失している。そのため、縄文時代早期以降の遺物がMB0（Ⅲ層）に混入したものと思われる。

385・386は攪乱土中から出土した甕である。口縁部付近で短く外反し、口縁部断面形は方形を呈している。器体外面には炭化物が付着しているが、ほとんどの部分で風化が進んでおり、調整は読み取りにくい。

387・388はMB0（Ⅲ層）中から出土した甕形土器片である。387は口縁部付近で短く外反している。388は刻み目突帯を有しており、内外共にハケ目が施されている。

（5）その他の時代の遺構・遺物

1　土坑

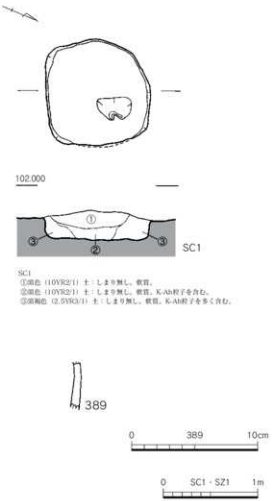
SC1（第68図）

B区検出。検出面から垂直に掘り込まれている。中央部分の深さは検出面から約0.4m。埋土中から弥生土器と思われる土器片（第68図389）が出土しているが、底面から遺物は出土せず、時期、用途は不明である。

2　不明遺構

SZ1（第68図）

D区検出。6個の巨礫が3個×2個の長方形に並び、いずれもが平坦な面を有している。巨礫の平均重量は約6.5kg。礫同士の間隔は、長辺側で1.7m～2.1m、短辺側で1.2m～1.4m。6個の巨礫のうち一つは割れていた（接合することで一つの巨礫に復元可能）が、他は平坦な面を上に向けた状態で検出された。掘立柱建物の礎石列である可能性が高いが、K-Ah（Ⅱ層）以降の堆積状態があまり良好ではなかったためか、柱穴は確認できなかった。



第68図　時期不明遺構実測図（1/40）・時期不明土坑出土土器実測図（1/3）

第Ⅴ章　自然科学分析

第1節　分析の経緯

中ノ迫第２遺跡の調査では、集石遺構、炉穴、竪穴住居跡等の遺構から、多くの炭化物・炭化材が検出された。そこで、自然科学分析を用い、炭化物・炭化材の年代測定及び樹種同定を行うこととした。

年代測定は、AMS-炭素14（^{14}C）年代測定法を使用した。これは、遺構から検出された炭化材を測定に使用することで、その遺構の実年代を明らかにしようとするものである。中でも、炉穴（SP1）は１基しか検出されず、検出時に上部を掘り飛ばしている可能性が高いことから、そのままでは年代を決定することができない。そこで、出土遺物等からおそらく同時期と思われる集石遺構の年代と比較することで、炉穴の帰属時期を確定させることを目的の一つとしている。また、集石遺構の検出場所の違いによる帰属時期の違いを検討するため、A～Dの地区ごとに集石遺構を１基選出し、そこから検出された炭化材の年代測定を行うこととした。

樹種同定は、年代測定を行った炭化材から比較的状態の良いものを選んで行った。これは、同定された樹種から当時の周辺環境を推定するものである。検出された炭化材は、集石遺構であれば燃料として使用された薪、竪穴住居跡であれば上屋をなしていた部材の一部であった可能性がある。

以下には分析ごとの記載を行うが、分析方法・結果・第２～４表についてはパリノ・サーヴェイ（株）の分析報告を掲載し、考察はそれに基づいて行った。

第2節　放射性炭素年代測定

1　分析試料

分析には、以下の試料を用いた。

SI2（掘り込み底部検出の炭化材）　SI38（掘り込み底部検出の炭化材）
SI7（配石周辺検出の炭化材）　SP1（掘り込み下部検出の炭化物）
SI10（掘り込み下部検出の炭化材）　SA1-4（竪穴住居跡埋土中検出の炭化材）

2　分析方法

土壌や根など目的物と異なる年代を持つものが付着している場合、これらをピンセット、超音波洗浄などにより物理的に除去する。その後HCｌにより炭酸塩等酸可溶成分を除去、NaOHにより腐植酸等アルカリ可溶成分を除去、HCｌによりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分を除去を行う（酸・アルカリ・酸処理）。

試料をバイコール管に入れ、１gの酸化銅（II）と銀箔（硫化物を除去するため）を加えて、管内を真空にして封じきり、500℃（30分）850℃（2時間）で加熱する。液体窒素と液体窒素＋エタノールの温度差を利用し、真空ラインにてCO_2を精製する。真空ラインにてバイコール管に精製したCO_2と鉄・水素を投入し封じ切る。鉄のあるバイコール管底部のみを650℃で10時間以上加熱し、グラファイトを生成する。

化学処理後のグラファイト・鉄粉混合試料を内径１mmの孔にプレスして、タンデム加速器のイオン源に装着し、測定する。測定機器は、3MV小型タンデム加速器をベースとした^{14}C-AMS専用装置（NEC Pelletron 9SDH-2）を使用する。AMS測定時に、標準試料である米国国立標準局（NIST）から提供されるシュウ酸（HOX-II）とバックグラウンド試料の測定も行う。また、測定中同時に^{13}C/^{12}Cの測定も行うため、この値を用いてδ^{13}Cを算出する。

放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5,568年を使用する。また、測定年代は1950年を基点とした年代（BP）であり、誤差は標準偏差（One Sigma;68%）に相当する年代である。なお、暦年較正は、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV5.02（Copyright 1986-2005 M Stuiver and PJ Reimer）を用い、誤差として標準偏差（One Sigma）を用いる。

3　結果

同位体効果による補正を行った測定結果を第2表、暦年較正結果を第3表、各試料の暦年較正曲線を第69図に示す。SI2炭化材は8,190±50BP、SI7炭化材2は8,120±50BP、SI10炭化物は8,730±50BP、SI38炭化材は8,340±50BP、SP1炭化物は8,000±50BP、SA1-4炭化材一括は1,640±30BPを示す。また、測定誤差をσとして計算させた暦年較正結果は、SI2炭化材がcalBC7,292～7,081、SI7炭化材2がcalBC7,173～7,054、SI10炭化物がcalBC7,825～7,613、SI38炭化材がcalBC7,484～7,354、SP1炭化物がcalBC7,047～6,829、SA1-4炭化材一括がcalAD347～503を示す。

暦年較正とは、大気中の^{14}C濃度が一定で半減期が5568年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の^{14}C濃度の変動、及び半減期の違い（^{14}Cの半減期5730±40年）を較正することである。暦年較正に関しては、本来10年単位で表すのが通例であるが、将来的に暦年較正プログラムや暦年較正曲線の改正があった場合の再計算、再検討に対応するため、1年単位で表している。いずれも樹種同定結果から炭化材であることが確認されていることから、北半球の大気中炭素に由来する較正曲線を用いる。

暦年校正は、測定誤差σ、2σ双方の値を計算する。σは統計的に真の値が68%の確率で存在する範囲、2σは真の値が95%の確率で存在する範囲である。また、表中の相対比とは、σ、2σの範囲をそれぞれ1とした場合、その範囲内で真の値が存在する確率を相対的に示したものである。

第3節　樹種同定

1　分析試料

分析には、以下の試料を用いた。

SI2（掘り込み底部検出の炭化材）　SI38（掘り込み底部検出の炭化材）
SI7（配石周辺検出の炭化材）　SP1（掘り込み下部検出の炭化物）
SI10（掘り込み下部検出の炭化材）　SA1-4（竪穴住居跡埋土中検出の炭化材）

2　分析方法

試料を自然乾燥させた後、木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の3断面の割断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織を観察し、その特徴から種類を同定する。

なお、同定の根拠となる顕微鏡下での木材組織の特徴等については、島地・伊東（1982）、Wheeler他（1998）を参考にする。また、各樹種の木材組織配列の特徴については、林（1991）、伊東（1995,1996,1997,1998,1999）や独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースを参考にする。

第２表　放射性炭素年代測定結果表

地区	グリッド	遺構	試料名	種類	補正年代 BP	δ13C (‰)	測定年代 BP	Code No.	Measurement No.
B区	M23-1	SI2	炭化材	炭化材	8,190± 50	-26.43±0.72	8,210± 50	9689-1	IAAA-70344
D区	M29-1	SI7	炭化材2	炭化材	8,120± 50	-28.62±0.75	8,180± 50	9689-2	IAAA-70345
C区	I28-1	SI10	炭化物	炭化材	8,730± 50	-27.11±0.58	8,770± 50	9689-3	IAAA-70346
A区	F12-2	SI38	炭化材	炭化材	8,340± 50	-30.05±0.80	8,430± 50	9689-4	IAAA-70347
B区	M23-3	SP1	炭化物	炭化材	8,000± 50	-30.12±0.69	8,080± 50	9689-5	IAAA-70348
A区	B5-2	SA1-4	炭化材一括	炭化材	1,640± 30	-29.13±0.66	1,730± 30	9689-6	IAAA-70349

(1) 年代値の算出には、Libbyの半減期5568年を使用。
(2) BP年代値は、1950年を基点として何年前であるかを示す。
(3) 付記した誤差は、測定誤差σ（測定値の68%が入る範囲）を年代値に換算した値。

第３表　暦年較正結果表

試料名	試料名	補正年代 (BP)		暦年較年代 (cal)			相対比	Code No.
SI2	炭化材	8,186± 50	σ	cal BC 7,292 - cal BC 7,269	cal BP 9,242 - 9,219	0.125	9689-1
				cal BC 7,258 - cal BC 7,225	cal BP 9,208 - 9,175	0.180	
				cal BC 7,192 - cal BC 7,081	cal BP 9,142 - 9,031	0.695	
			2σ	cal BC 7,333 - cal BC 7,065	cal BP 9,283 - 9,015	1.000	
SI7	炭化材2	8,118± 51	σ	cal BC 7,173 - cal BC 7,152	cal BP 9,123 - 9,102	0.148	9689-2
				cal BC 7,145 - cal BC 7,054	cal BP 9,095 - 9,004	0.852	
			2σ	cal BC 7,315 - cal BC 7,029	cal BP 9,265 - 8,979	0.989	
				cal BC 6,928 - cal BC 6,923	cal BP 8,878 - 8,873	0.002	
				cal BC 6,876 - cal BC 6,861	cal BP 8,826 - 8,811	0.008	
SI10	炭化物	8,734± 47	σ	cal BC 7,825 - cal BC 7,846	cal BP 9,775 - 9,796	0.948	9689-3
				cal BC 7,641 - cal BC 7,635	cal BP 9,591 - 9,585	0.018	
				cal BC 7,623 - cal BC 7,613	cal BP 9,573 - 9,563	0.034	
			2σ	cal BC 7,940 - cal BC 7,607	cal BP 9,890 - 9,557	1.000	
SI38	炭化材	8,342± 48	σ	cal BC 7,484 - cal BC 7,354	cal BP 9,434 - 9,304	1.000	9689-4
			2σ	cal BC 7,530 - cal BC 7,297	cal BP 9,480 - 9,247	0.979	
				cal BC 7,222 - cal BC 7,198	cal BP 9,172 - 9,148	0.021	
SP1	炭化物	8,000± 44	σ	cal BC 7,047 - cal BC 6,998	cal BP 8,997 - 8,948	0.279	9689-5
				cal BC 6,994 - cal BC 6,984	cal BP 8,944 - 8,934	0.049	
				cal BC 6,972 - cal BC 6,911	cal BP 8,922 - 8,861	0.349	
				cal BC 6,884 - cal BC 6,829	cal BP 8,834 - 8,779	0.324	
			2σ	cal BC 7,060 - cal BC 6,767	cal BP 9,010 - 8,717	0.983	
				cal BC 6,763 - cal BC 6,754	cal BP 8,713 - 8,704	0.009	
				cal BC 6,718 - cal BC 6,711	cal BP 8,668 - 8,661	0.008	
SA1-4	炭化材一括	1,643± 32	σ	cal AD 347 - cal AD 369	cal BP 1,603 - 1,581	0.156	9689-6
				cal AD 378 - cal AD 433	cal BP 1,572 - 1,517	0.802	
				cal AD 496 - cal AD 503	cal BP 1,454 - 1,447	0.042	
			2σ	cal AD 265 - cal AD 273	cal BP 1,685 - 1,677	0.011	
				cal AD 334 - cal AD 468	cal BP 1,616 - 1,482	0.820	
				cal AD 478 - cal AD 534	cal BP 1,472 - 1,416	0.168	

(1) 計算には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV5.01 ©Copyright 1986-2005 M Stuiver and PJ Reimer) を使用
(2) 計算には表に示した丸める前の値を使用している。
(3) 1桁目を丸めるのが慣例だが、暦年較正曲線や暦年較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、1桁目を丸めていない。
(4) 統計的に真の値が入る確率はσは68%、2σは95%である
(5) 相対比は、σ、2σのそれぞれを1とした場合、確率的に真の値が存在する比率を相対的に示したものである。

第４表　樹種同定結果表

地区	グリッド	遺構	試料名	樹種	
B区	M23-1	SI2	炭化材	コナラ属コナラ亜属コナラ節	*Quercus subgen. Lepidobalanus* sect. *Prinus*
				エゴノキ属	*Styrax*
D区	M29-1	SI7	炭化材2	コナラ属コナラ亜属コナラ節	*Quercus subgen. Lepidobalanus* sect. *Prinus*
C区	I28-1	SI10	炭化物	コナラ属コナラ亜属コナラ節	*Quercus subgen. Lepidobalanus* sect. *Prinus*
A区	F12-2	SI38	炭化材	コナラ属コナラ亜属コナラ節	*Quercus subgen. Lepidobalanus* sect. *Prinus*
B区	M23-3	SP1	炭化物	コナラ属コナラ亜属コナラ節	*Quercus subgen. Lepidobalanus* sect. *Prinus*
A区	B5-2	SA1-4	炭化材一括	コナラ属コナラ亜属コナラ節	*Quercus subgen. Lepidobalanus* sect. *Prinus*

3　結果

樹種同定結果を第４表に示す。SI2には、２種類の木材が認められた。これらの炭化材は、広葉樹２種類（コナラ属コナラ亜属コナラ節・エゴノキ属）に同定された。各種類の解剖学的特徴等を記す。

・コナラ属コナラ亜属コナラ節　*(Quercus subgen. Lepidobalanus* sect. *Prinus)*　ブナ科

環孔材で、孔圏部は１～２列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、１～20細胞高のものと複合放射組織とがある。

・エゴノキ属　*(Styrax)*　エゴノキ科

散孔材で、横断面では楕円形、単独または２～４個が複合して散在し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は階段穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性、１～３細胞幅、１～20細胞高。

第4節　考察

1　分析結果からの考察

年代測定で、集石遺構検出炭化材は較正年代でBC7,800年頃～BC7,000年頃の年代が出ている。これは縄文時代早期の時期にあたり、集石遺構の検出面であるMB0（Ⅲ層）出土の土器が、押型文等縄文時代早期のものであることと合致する。また、炉穴検出炭化物は較正年代でBC7,000年頃～BC6,800年頃の年代が出ており、やや新しいものの集石遺構とほぼ同時期としてよいと思われる。集石遺構同士の比較では、測定結果としては、古いものからSI10・SI38・SI2・SI7の順となるが、SI10で他よりやや古い年代が出ている以外に大きな差は無く、構築時期の違いを見出すのは難しい。また、SI10の検出面はKr-Kbを含む層（Ⅴ層）であるが、掘込み内部から検出された炭化材の年代は、上記のように他の集石遺構のものと大きな差は無く、ML1（Ⅳ層）以上が削平されたことによりSI10の上部も削平された可能性があることが確かめられた。弥生時代は、SA1の試料１点のみの測定ではあるが、較正年代で４世紀中頃～６世紀初頭の古墳時代の年代が出ており、出土土器の年代よりも、やや新しいものとなっている。

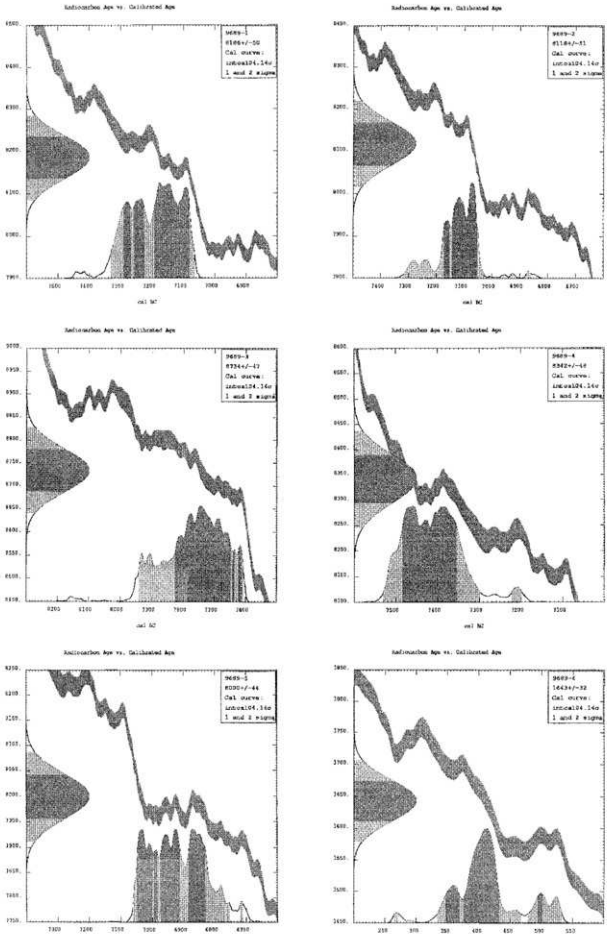
樹種同定では全ての試料でコナラ節が確認され、集石遺構のものも、竪穴住居跡のものも同じであった。集石遺構・炉穴と竪穴住居跡は、年代測定により時代が隔たることが確認されている。これは同定試料が少数であるため確実ではないが、それぞれの時期の植生に似通った部分（コナラ節やエゴノキ節の生育する落葉広葉樹林）があった可能性がある。

2　周辺遺跡との対比

自然科学分析は、本遺跡の南に位置する中ノ迫第３遺跡でも行われ、炭化材の年代測定と炭化種子の樹種同定が実施されている。年代測定では、炉穴と集石遺構検出の炭化材８点が用いられている。その結果、較正年代ではBC9,000年頃～BC8,000年頃と、いずれも第２遺跡の結果よりも1,000年程度古い年代が出ている。このことは、両遺跡の縄文時代早期の土器を見た場合に、第３遺跡は比較的古い段階に位置する条痕文土器を主体としているのに対して、第２遺跡はその後の押型文や撚糸文土器を主体として出土しており、第２遺跡の方が比較的新しいものが残されている可能性が高いことと関連するものと思われる。樹種同定では、炭化種子６点の同定が行われている。６点中１点がコナラ属コナラ節、３点がコナラ属とされており、植生については第２遺跡と似通った部分があったものと思われる。

【参考文献】

林　昭三,1991,日本産木材　顕微鏡写真集.京都大学木質科学研究所.
伊東　隆夫,1995,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ.木材研究・資料,31,京都大学木質科学研究所,81-181.
伊東　隆夫,1996,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ.木材研究・資料,32,京都大学木質科学研究所.66-176.
伊東　隆夫,1997,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ.木材研究・資料,33,京都大学木質科学研究所,83-201.
伊東　隆夫,1998,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ.木材研究・資料,34,京都大学木質科学研究所,30-166.
伊東　隆夫,1999,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ.木材研究・資料,35,京都大学木質科学研究所,47-216.
「中ノ迫第３遺跡」「宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書」第144集　2007　宮崎県埋蔵文化財センター



第69図　歴年較正曲線図

第Ⅵ章　まとめ

第1節　中ノ迫第２遺跡の様相

中ノ迫第２遺跡は、ＡＴ（Ⅶ層）下位の後期旧石器時代Ⅰ期から後期旧石器時代Ⅱ期、縄文時代早期、弥生時代の遺構・遺物を確認することができた。ここで、以下に各時代ごとの総括を行う。

1　後期旧石器時代Ⅰ期

この時期で出土したものは、ホルンフェルス（H2）の剥片のみであり、製品と呼べるものは含まれていない。遺物数も少なく、ごく短期間とどまっていたのみであったと思われる。

2　後期旧石器時代Ⅱ期

この時期は、礫群８基、石器ブロック１箇所が検出され、角錐状石器等の石器が出土した。ここでは礫群が検出されたことから、後期旧石器時代Ⅰ期よりも長期間とどまり、石器ブロック周辺等で石器製作を行いながらキャンプ的集落を営んでいたものと思われる。

遺物では、角錐状石器の中に、折れた破片の先端を利用し基部側を加工することで、新たな角錐状石器として再生させているものがある（第14図接合資料２・28）。このような様相が確認できるものはほとんど無いが、本遺跡では比較的器長の長い角錐状石器が確認されていることから、器長の短いものの中に器長の長い角錐状石器の欠損品から再加工されたものが含まれているとも考えられる。

3　縄文時代早期

この時期は、集石遺構37基、炉穴１基が検出され、押型文・条痕文等の施された土器片、石鏃を中心とした石器が出土した。集石遺構は直径２ｍを測るようなものが出現し、数も多いことから、以前より大きな規模で集落が営まれるようになったと考えられる。

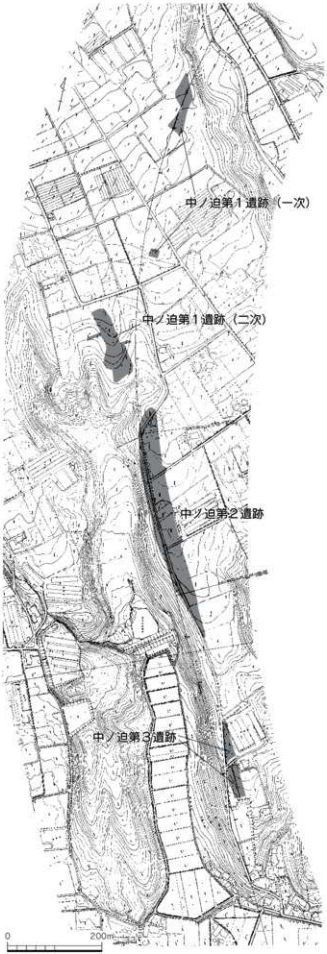
第Ⅳ章第２節（３）４で縄文土器の分類を行ったが、その結果、Ⅰ類～Ⅳ類のいずれもが縄文時代早期の土器で、早期前半に編年される形式に相当することが判明した。また、Ⅳ類は直線的に立ち上がる器形等からⅠ類Ba・Caと併存する可能性がある。これにより、本遺跡の縄文時代は早期前半を中心に、人々が居住していたと考えられる。

石鏃にはさまざまな石材が使用されているが、中には黒曜石やサヌカイト等本遺跡の近隣では採取することのできないものが含まれている。これらは、現在の鹿児島県と宮崎県の県境付近や大分県等の遠方で採取されるものであり、このような石材が使用されていることは、産地となる地域と何らかの交流（直接・間接を問わず）があったことを意味している。中でもサヌカイト製の石鏃は、剥片が出土せず製品しか出土しなかったことから、製品に加工された状態で搬入されたものと思われる。また黒曜石は、後期旧石器時代Ⅱ期に主に使用されていた小国産（Ob2）に変わって、主として桑ノ木津留産（Ob1）・姫島産（Ob3）が使用されている。このような使用石材の変化は、集団の存在する時期により交易ルートが変化する等して、入手可能な石材が変化したことを示している可能性がある（周辺遺跡の状況は、次節で検討する）。

4　弥生時代

この時期は、竪穴住居跡２軒が検出され、土器や石庖丁、砥石等が出土した。２軒の竪穴住居跡には、大きさや遺物構成等の違いが見られる。SA1は、６ｍ×4.5ｍの方形で、土器片は少ないものの石庖丁や砥石が床面から出土した。SA2は、少し小さく４ｍ×3.5ｍの方形で、非常に多くの土器片が出土したが、石器は埋土中からのみであった。このような違いから、SA1は住居として、SA2は倉庫として使用されたのではないか、といった同種の遺構内での使用法の違いを想定できるかもしれない。これらの竪穴住居跡は、櫛描波状文を持つ複合口縁壺や甕の器形等から、弥生時代後期後半に比定できる。

また、Ⅲ層中や撹乱土中から出土した弥生土器は、口縁付近の形態や貼付突帯文を有すること等から、弥生時代中期頃に比定できる可能性があるが、ごく僅かしか出土していない。



第70図　中ノ迫遺跡位置図（1/8,000）

5　その他の時代

その他、時代を確定できなかったものとして、掘立柱建物跡の礎石と思われる巨礫の列が挙げられる。柱穴自体や、礫付近からの遺物が確認できなかったこともあり、年代は不明である。

第2節　周辺遺跡との比較・検討

中ノ迫第２遺跡（以下第２遺跡）の周囲には、東九州自動車道関連遺跡として、北に中ノ迫第１遺跡（一次調査・二次調査）（以下第１遺跡（一次・二次）、南に中ノ迫第３遺跡（以下第３遺跡）が存在している。以下、４遺跡全てを含むものとして「中ノ迫遺跡」という仮称を使用する。第１遺跡（一次・二次）・第３遺跡は、どちらも平成18年度に報告書を刊行しているため、そこから得られる情報を用いて検討を進める。

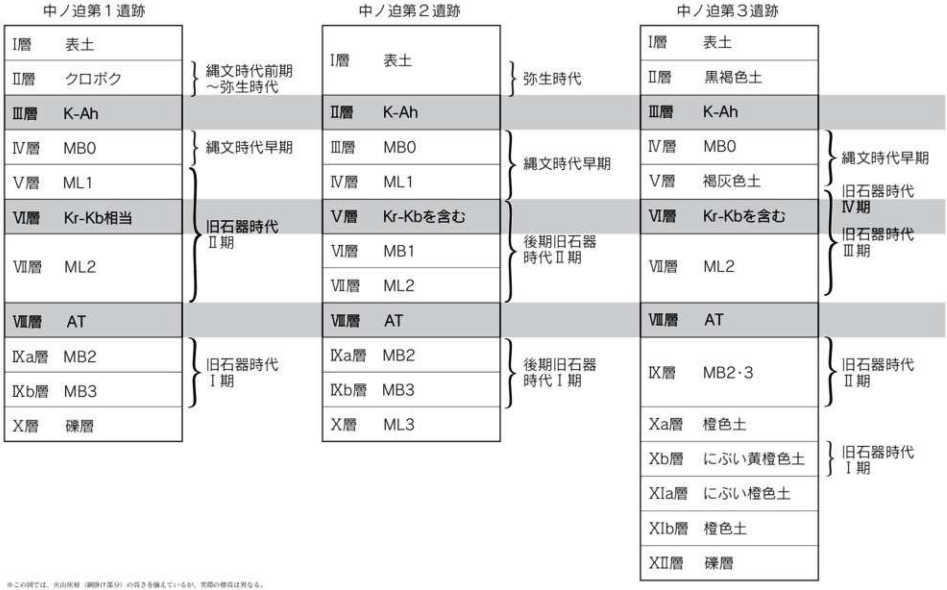
1　基本土層による比較（第71図）

まず始めに、第１～第３遺跡の基本土層と文化層の比較を行う。そこで、それぞれの基本土層を比較してみてみると、第３遺跡で一部他と違う土色の層が見られるものの、基本的な堆積状況はほぼ一致している。

そこで、中ノ迫遺跡の文化層は、

①後期旧石器時代Ⅰ期（第３遺跡Ｘｂ層で確認）
②後期旧石器時代Ⅱ期（MB2～3）
③後期旧石器時代Ⅲ期（Kr-Kbを含む層）
④縄文時代早期（MB0）
⑤弥生時代（クロボク～K-Ahを掘り込む）

の合計５枚となる。以下、遺跡名を冠さずに文化層名を使用した場合、中ノ迫遺跡の文化層を指す。



※この図では、火山灰層（網掛け部分）の厚さを揃えているが、実際の層厚は異なる。
各層の幅の違いは、火山灰層（網掛け部分）を揃えていることによるもので、実際の厚みとは異なる。

第71図　中ノ迫遺跡基本土層・文化層比較図

2　遺構・遺物による比較・検討

①後期旧石器時代Ⅰ期

第３遺跡の旧石器時代Ⅰ期がこれにあたり、局部磨製石斧が出土した。これは、県内の事例としてもかなり古い段階に位置し、宮崎県の旧石器時代10段階編年での第１段階に相当する。東九州自動車道関連遺跡では、尾立第２遺跡（都農町）で、第３遺跡の旧石器時代Ⅰ期の層に相当する層から局部磨製石斧が出土している。ただ、第３遺跡では局部磨製石斧が１点出土したのみで他に遺物は無く、どのような状況でそれが残されたのかは不明である。

②後期旧石器時代Ⅱ期

第１遺跡（一次・二次）の旧石器時代Ⅰ期、第２遺跡の後期旧石器時代Ⅰ期、第３遺跡の旧石器時代Ⅱ期にあたる。中心となるのは、礫群が８基検出された第１遺跡（二次）と、国府型ナイフ形石器が出土した第１遺跡（一次）である。第３遺跡でも礫群が検出されているが、こちらは１基のみである。この時期は、第１遺跡（一次）で小型のナイフ形石器等が出土していることから、10段階編年の第３段階に相当する。

③後期旧石器時代Ⅲ期

第１遺跡（一次・二次）の旧石器時代Ⅱ期、第２遺跡の後期旧石器時代Ⅱ期、第３遺跡の旧石器時代Ⅲ・Ⅳ期にあたる。第１遺跡（一次・二次）で礫群がそれぞれ21基、15基検出されており、他が10基に満たないのと比べて多いと言える。ただ、遺物の側から見ると、第２遺跡で石器ブロックが検出される等、明らかに第１遺跡に集中していた後期旧石器時代Ⅱ期とは異なっている。また、第１遺跡と第２遺跡では使用される石材や石器の組成に違いが見られる。石材では、第１遺跡は流紋岩を中心に使用されているが、第２遺跡はホルンフェルスを中心に使用されている。石器の組成では、角錐状石器は第２遺跡でまとまった数の出土があるが、他では少ない。ナイフ形石器は第１遺跡（一次・二次）で出土数が多く、他では数点ずつしか出土していない（第６表参照）。このような違いは、遺跡ごとの人々の生活が営まれていた時期の違いを現している可能性がある。この時期は、層位からいえば10段階編年の第６段階に相当するが、第２遺跡の角錐状石器に比較的大型のものが存在することから、第５段階に相当する遺物が含まれていると思われる。第１・第３遺跡で、そのような大型のものは出土していないが、両遺跡のこの時期は第５～６段階に相当する、とされている。遺物の出土した層はほぼ同一であるが、数段階に渡る遺物が含まれるものと思われる。

④縄文時代早期

第２遺跡では集石遺構37基が検出されると共に、押型文土器等が多数出土している。また第３遺跡でも、集石遺構32基、炉穴４群21基が検出されると共に、貝殻条痕文土器が出土しているが、第１遺跡では集石遺構はほとんど検出されず、縄文土器の出土数も非常に少ない。

第３遺跡で出土している貝殻条痕文土器のうち、Ⅱ類－Ⅱとされているものは、第２遺跡でのⅡ類Aにあたると思われる。これらは、ほぼ同一の層位から出土しており、第２遺跡ではその一部が遺跡南部に集中する状況が見られることからも、ほぼ同じ時期のものであろうことが想像される。ただ、第３遺跡では条痕文土器の中に、口縁付近に刺突文を持つもの（Ⅱ類－Ⅰ）が出土しているが、同

第５表　中ノ迫遺跡検出遺構数比較表

	後期旧石器時代Ⅱ期 礫群（基）	後期旧石器時代Ⅲ期 礫群（基）	縄文時代早期 集石遺構（基）	縄文時代早期 炉穴（基）	弥生時代 竪穴住居跡（軒）
第１遺跡（一次）	0	21	0	0	0
第１遺跡（二次）	8	15	2	0	1
第２遺跡	0	8	37	1	2
第３遺跡	1	6	32	4群21基	0

第６表　中ノ迫遺跡後期旧石器時代Ⅲ期遺物数比較表

		ナイフ形石器	剥片尖頭器	角錐状石器	細石刃	細石刃核
第1遺跡(一次)旧石器時代Ⅱ期		19	1	0	2	2
第1遺跡(二次)旧石器時代Ⅱ期		39	1	8	0	0
第2遺跡	旧石器時代Ⅱ期	4	5	31	14	11
第3遺跡	旧石器時代Ⅲ･Ⅳ期	3	0	2	6	0

（単位：点）

様のものは第２遺跡では確認されていない。次に押型文土器を見ると、第３遺跡での出土は僅かであるが、第２遺跡からはまとまった量が出土している。これに加え、両遺跡で行われた自然科学分析を用いた年代測定でも、第３遺跡がＢＣ9,000～ＢＣ8,000年頃（主に炉穴検出の炭化物で測定）、第２遺跡がＢＣ7,800～ＢＣ7,000年頃（主に集石遺構検出の炭化物で測定）という結果がでており、二つの遺跡における使用時期の違いを見出すことができる。

第２遺跡では、後期旧石器時代Ⅲ期と縄文時代早期で主に使用されている黒曜石の産地が、小国産（Ob2）から桑ノ木津留産（Ob1）・姫島産（Ob3）に変化することが確認されたが、第１・３遺跡でもそれぞれに変化している。

第１遺跡（一次）では、後期旧石器時代Ⅱ期で桑ノ木津留産・竜ヶ水産の黒曜石が出土しており、後期旧石器時代Ⅲ期には全体の出土量は減るものの桑ノ木津留産・小国産・竜ヶ水産・針尾産が出土し、幅が広がる。縄文時代早期には姫島産・腰岳産・竜ヶ水産となり、主に石鏃に加工されている。

第１遺跡（二次）では、後期旧石器時代Ⅱ期では黒曜石は出土せず、後期旧石器時代Ⅲ期で日東産・桑ノ木津留産・姫島産・淀姫産が使用されているが、第１遺跡（一次）と同様に出土量は少ない。縄文時代早期では、日東産・桑ノ木津留産・姫島産・淀姫産・腰岳産・竜ヶ水産と、多種に渡っている。

第３遺跡では、後期旧石器時代Ⅲ期まで黒曜石は出土せず、縄文時代早期になって桑ノ木津留産・姫島産が出土する。これらは主に石鏃に加工されている。

第１遺跡（一次）・第１遺跡（二次）で出土する黒曜石の産地は、どちらも第２遺跡のものとは大きく異なっている。これは、時代の前後関係等は不明であるが、別々の集団が異なった時期に、それぞれに石材を入手していたことによるのではないかと考えられる。これは、後期旧石器時代Ⅲ期の項で指摘した、第１遺跡と第２遺跡では使用されている石材や石器の組成に違いが見られることから、居住していた時期が異なるのではないか、とする考えと矛盾しないものである。第３遺跡では、黒曜石は縄文時代早期にしか出土していないが、産地の構成は第２遺跡と同じである。両遺跡は、土器の検討や年代測定から時期の違いを指摘したが、黒曜石の構成から見ると、同じ石材入手ルートを持つ同系列の集団であった可能性がある。

第７表　中ノ迫遺跡出土黒曜石産地一覧表

		後期旧石器時代Ⅰ期	後期旧石器時代Ⅱ期	後期旧石器時代Ⅲ期	縄文時代早期
中ノ迫第１遺跡	一次	—	桑ノ木津留 竜ヶ水	桑ノ木津留 竜ヶ水 小国 針尾	竜ヶ水 姫島 腰岳
	二次	—	—	日東 桑ノ木津留 姫島 淀姫	日東 桑ノ木津留 姫島 淀姫 腰岳 竜ヶ水
中ノ迫第２遺跡		—	—	小国	桑ノ木津留 姫島
中ノ迫第３遺跡		—	—	—	桑ノ木津留 姫島

⑤弥生時代

竪穴住居跡が、第２遺跡で２軒、第１遺跡（二次）で１軒検出された。第１遺跡（一次）では自然流路から多くの土器片が出土したが、これは流れ込みの可能性が高いとされる。逆に第３遺跡では遺構・遺物は確認されず、縄文時代早期と比較して、居住の中心地が台地上の平坦部に移動している。

３　東九州自動車道関連遺跡以外の周辺遺跡

東九州自動車道関連遺跡ではないが、同一もしくは近い台地上に位置し、中ノ迫遺跡と関連のありそうな遺跡として次の二つが挙げられる。

・中ノ迫A遺跡

中ノ迫遺跡の存在する舌状台地の東側に位置している。ここからは、弥生時代後期の竪穴住居跡が１軒検出されており、口縁部付近で「く」の字に外反する甕、高坏、石庖丁、鉄鏃等が出土している。

・大迫遺跡

第２遺跡西側、谷を挟んだ向かい側の舌状台地上に位置している。未発掘であるものの、40軒以上の竪穴住居跡や円形周溝墓、方形周溝墓の存在が確認されており、弥生時代後期におけるこの地域の拠点集落であろうと考えられている。

第１遺跡（二次）、第２遺跡と中ノ迫A遺跡の竪穴住居跡と、大迫遺跡の竪穴住居群が同時期のものかは分からないが、弥生時代後期頃に、大迫遺跡を中心とした、周辺の舌状台地一帯に広がる一大集落が営まれていたとも想像される。

第3節　おわりに

中ノ迫第２遺跡は、後期旧石器時代Ⅰ・Ⅱ期、縄文時代早期、弥生時代後期と複数時期の遺構・遺物を確認した複合遺跡であった。また、中ノ迫遺跡としてみた場合、３万年以上前とも言われる層から出土した第３遺跡の局部磨製石斧から始まり、第１遺跡（二次）・第２遺跡で検出された弥生時代の竪穴住居跡まで、さらに広い時期の遺構・遺物が確認されている。また、中ノ迫遺跡を構成する４遺跡には、それぞれに遺構・遺物の比較的多くなる時期が存在している。これは、人々の主要な居住地が、時代により移り変わっていったことによるのではないかと思われる。一連の調査により、この舌状台地の一端に長期に渡る人々の活動の痕跡を確認することができた。

【参考文献】

「白ヶ野第２・第３遺跡」「宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書」第52集　2002　宮崎県埋蔵文化財センター

「藏座村遺跡」「宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書」第53集　2002　宮崎県埋蔵文化財センター

「阿蘇原上遺跡」「宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書」第71集　2003　宮崎県埋蔵文化財センター

「中ノ迫第１遺跡（一次・二次）」「宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書」第143集　2007　宮崎県埋蔵文化財センター

「中ノ迫第３遺跡」「宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書」第144集　2007　宮崎県埋蔵文化財センター

「中ノ迫A遺跡」「宮崎県文化財調査報告書」第28集　1985　宮崎県教育委員会

「川南町の埋蔵文化財」遺跡詳細分布調査報告書　1983　川南町教育委員会

桑畑光博・上田耕・南宮瑞生　「貝殻文円筒形土器と押型文の関係」「南九州縄文通信」№7　1993　南九州縄文研究会

山下大輔　「下剥筆式および桑ノ丸式土器の再検討」「南九州縄文通信」№16　2005　南九州縄文研究会

水ノ江和同　「九州における押型文土器の地域性」「九州の押型文土器－論攷編－」　1998　九州縄文研究会

金丸武司　「宮崎における縄文時代早期前半期の土器群－別府原式土器の設定－」「宮崎考古」第19号　2004　宮崎考古学会

岩永哲夫　「南九州の押型文」「宮崎考古」第20号　2005　宮崎考古学会

宮崎県旧石器文化談話会「宮崎県下の旧石器時代遺跡概観」「旧石器考古学」66　2005　旧石器文化談話会

報告書番号	注記No.及び接合No.	器種	石材	出土地点	層	X 座 標	Y 座 標	Z 座 標	長さ	幅	厚さ	重量	備 考
1	カクニンNO3	掻器	Ryu	B区T6	V	−	−	−	9.7	4.9	1.4	57.6	一次確認調査
2	確認調査7	石鏃	H2	T2	Ⅲ	−	−	−	2.2	1.6	0.4	0.9	二次確認調査　灰色
3	確認調査6	石鏃	H2	T2	Ⅲ	−	−	−	1.2	1.6	0.4	1.0	二次確認調査　灰色
4	確認調査52	石鏃	Ob3	T7	Ⅲ	−	−	−	1.8	1.5	0.4	0.6	二次確認調査
5	確認調査14	石鏃	Ch3	T2	Ⅳ	−	−	−	1.5	1.3	0.5	1.3	二次確認調査
6	確認調査3	石鏃	H2	T1	Ⅲ	−	−	−	1.1	0.9	0.2	0.2	二次確認調査 一部のみ　白色
7	NO4926	剥片	H2	D12-4	Ⅸa	-89235.106	46078.749	103.307	6.7	5.9	1.8	76.8	白色
8	NO4933	剥片	H2	E12-3	Ⅸa	-89235.288	46080.900	103.330	7.7	5.6	2.0	85.6	赤褐色
9	NO4928	剥片	H2	D12-4	Ⅸb	-89235.064	46079.959	103.182	8.3	6.1	2.0	135.3	白色
10	NO4925	剥片	H2	D12-4	Ⅸa	-89235.135	46078.445	103.311	4.9	8.2	2.0	85.9	白色
接合資料1	接合47	−	−	−	−	−	−	−	9.0	8.2	5.5	150.0	
11	NO4655	剥片	Ryu	C10-1	Ⅳ	-89211.735	46064.178	104.580	3.5	2.2	0.8	6.7	接合資料1
12	NO4673	剥片	Ryu	C10-2	Ⅴ	-89211.657	46066.395	104.433	4.1	2.2	0.8	7.9	接合資料1
13	NO4804	剥片	Ryu	D10-1	Ⅵ	-89210.673	46070.139	104.418	0.5	3.2	10.5	10.8	接合資料1
14	NO4057	剥片	Ryu	C9-4	Ⅳ	-89207.560	46067.349	104.822	1.6	1.3	0.5	1.5	接合資料1
15	NO4115	剥片	Ryu	C9-4	Ⅴ	-89209.502	46065.786	104.623	1.5	1.3	0.6	1.0	接合資料1
16	NO4061	剥片	Ryu	C9-4	Ⅴ	-89205.181	46065.663	104.703	4.7	3.4	1.1	20.5	接合資料1
17	NO4123	剥片	Ryu	D9-3	Ⅴ	-89207.081	46070.332	104.723	2.8	3.0	0.6	4.5	接合資料1
18	NO4117	剥片	Ryu	C9-4	Ⅴ	-89210.028	46066.205	104.630	5.9	3.7	1.6	36.1	接合資料1
19	NO4242	剥片	Ryu	C9-4	Ⅴ	-89207.366	46068.807	104.723	2.7	3.5	1.1	9.5	接合資料1
20	NO4325	剥片	Ryu	C9-4	Ⅴ	-89205.354	46068.874	104.658	3.0	3.3	1.1	10.2	接合資料1
21	NO4671	剥片	Ryu	C10-2	Ⅴ	-89212.186	46066.011	104.456	3.0	2.2	0.7	6.1	接合資料1
22	NO4223	剥片	Ryu	C9-4	Ⅴ	-89207.387	46067.098	104.699	4.6	4.0	1.4	24.1	接合資料1
23	NO4326	剥片	Ryu	C9-4	Ⅴ	-89205.572	46068.772	104.667	4.1	2.9	1.0	11.1	接合資料1
接合資料2	接合37	−	−	−	−	−	−	−	14.9	3.4	2.9	103.3	
24	NO2333	剥片	H1	C9-4	Ⅲ	-89208.407	46066.263	104.892	2.2	2.9	0.7	3.5	接合資料2
25	NO4231	剥片	H1	C9-4	Ⅴ	-89205.873	46068.117	104.699	1.9	2.7	0.6	3.0	接合資料2
26	NO4331	剥片	H1	C9-4	Ⅴ	-89205.644	46068.342	104.613	2.8	2.6	1.8	3.1	接合資料2
27	NO4337	剥片	H1	C9-4	Ⅴ	-89206.233	46067.589	104.580	1.5	2.6	0.7	2.0	接合資料2
28	NO4344	角錐状石器	H1	C9-4	Ⅴ	-89205.891	46067.231	104.601	9.1	3.3	2.2	54.7	接合資料2
29	NO4341	剥片	H1	C9-4	Ⅴ	-89205.420	46067.624	104.583	2.6	2.8	0.6	3.1	接合資料2
30	NO4406	剥片	H1	C9-4	Ⅴ	-89206.017	46066.835	104.544	2.5	3.7	0.6	5.0	接合資料2
31	NO4501	剥片	H1	C9-1	Ⅴ	-89203.900	46061.980	104.568	2.5	3.9	0.9	7.0	接合資料2
32	NO4688	剥片	H1	D9-3	Ⅵ	-89206.597	46070.486	104.534	1.3	1.3	0.3	0.7	接合資料2
33	NO4656	角錐状石器	H1	C10-1	Ⅳ	-89212.069	46064.596	104.538	5.9	2.6	1.8	21.2	接合資料2
接合資料3	接合34	−	−	−	−	−	−	−	11.3	5.0	3.1	139.1	
34	NO1894	剥片	H1	C9-2	Ⅲ	-89204.172	46065.130	105.000	2.9	3.0	0.6	5.1	接合資料3
35	NO2346	剥片	H1	C9-1	Ⅲ	-89203.135	46062.567	104.955	2.0	2.1	0.6	5.1	接合資料3
36	NO3388	剥片	H1	C9-1	Ⅳ	-89203.241	46064.666	104.898	2.0	2.3	0.6	3.6	接合資料3
37	NO4496	剥片	H1	B9-2	Ⅳ	-89200.833	46059.208	104.686	2.6	2.8	1.2	8.5	接合資料3
38	NO4548	角錐状石器	H1	C9-1	Ⅴ	-89202.825	46064.181	104.605	9.0	4.0	2.7	98.8	接合資料3

第８表　中ノ迫第2遺跡石器観察表（1）

報告書番号	注記No.及び接合No.	器種	石材	出土地点	層	X 座 標	Y 座 標	Z 座 標	長さ	幅	厚さ	重量	備 考
39	N04505	剥片	H1	C9-1	V	-89203.422	46062.030	104.600	2.1	2.2	0.5	2.0	接合資料3
40	N04515	剥片	H1	C9-1	V	-89204.093	46062.491	104.532	2.1	4.2	0.6	4.3	接合資料3
41	N04527	剥片	H1	C9-1	V	-89203.027	46063.301	104.628	1.8	1.7	0.4	1.1	接合資料3
42	N04572	剥片	H1	C9-1	V	-89203.034	46063.898	104.593	1.5	1.7	0.3	1.1	接合資料3
43	N04553	剥片	H1	C9-1	V	-89203.156	46064.488	104.624	2.4	2.3	0.6	3.6	接合資料3
44	N04560	剥片	H1	C9-1	V	-89204.036	46064.548	104.582	2.1	1.8	0.5	2.2	接合資料3
45	N04550	剥片	H1	C9-1	V	-89202.866	46064.344	104.666	2.1	3.2	0.6	3.7	接合資料3
接合資料4	接合35	–	–	–	–	–	–	–	9.7	4.2	3.1	64.9	
46	N04213	剥片	H1	C9-4	V	-89206.665	46066.213	104.625	1.9	1.7	0.4	1.3	接合資料4
47	N04230	剥片	H1	C9-4	V	-89206.278	46067.805	104.703	2.9	2.0	0.4	2.2	接合資料4
48	N04217	角錐状石器	H1	C9-4	V	-89205.926	46067.314	104.669	4.4	2.1	1.5	9.4	接合資料4
49	N04261	剥片	H1	C9-4	V	-89207.564	46067.632	104.522	4.1	2.6	1.3	41.7	接合資料4
50	N04347	剥片	H1	C9-4	V	-89205.451	46066.958	104.595	3.9	2.8	0.4	4.0	接合資料4
51	N04619	剥片	H1	C9-3	Ⅳ	-89208.782	46063.034	104.493	2.7	2.8	0.6	4.4	接合資料4
52	N04760	剥片	H1	C9-1	Ⅵ	-89202.902	46063.759	104.522	1.9	2.4	0.4	1.9	接合資料4
接合資料5	接合30	–	–	–	–	–	–	–	13.3	3.9	3.0	123.9	
53	N04368	剥片	H1	C9-2	V	-89204.505	46066.243	104.609	3.4	2.1	0.9	5.0	接合資料5
54	N04365	角錐状石器	H1	C9-2	V	-89204.375	46066.576	104.646	4.6	1.5	1.4	6.3	接合資料5
55	N04672	剥片	H1	C10-2	V	-89210.243	46065.326	104.494	2.7	3.0	1.2	5.3	接合資料5
56	N04661	剥片	H1	C10-2	Ⅳ	-89210.656	46065.464	104.585	1.4	2.2	0.5	1.5	接合資料5
57	N04375	角錐状石器	H1	C9-2	V	-89204.369	46066.084	104.621	9.7	3.9	2.9	105.8	接合資料5
接合資料6	接合86	–	–	–	–	–	–	–	7.4	2.6	2.9	34.7	
58	N04524	剥片	H1	C9-1	V	-89203.239	46063.368	104.622	2.9	5.6	1.0	14.1	接合資料6
59	N04402	角錐状石器	H1	C9-2	Ⅵ	-89200.377	46067.774	104.567	7.4	2.0	1.7	20.6	接合資料6
60	接合13	角錐状石器	–	–	–	–	–	–	16.3	2.6	1.8	67.1	
–	N04028	–	H2	C9-2	Ⅳ	-89202.021	46068.290	104.848	–	–	–	–	黄色
–	N04104	–	H2	C9-2	V	-89202.989	46068.939	104.729	–	–	–	–	黄色
–	N04401	–	H2	C9-2	V	-89200.975	46067.632	104.639	–	–	–	–	黄色
61	接合7	角錐状石器	–	–	–	–	–	–	10.0	2.1	1.7	25.6	
–	N04203	–	H2	C9-2	V	-89202.650	46069.673	104.684	–	–	–	–	灰色
–	N04902	–	H2	D9-1	Ⅵ	-89199.986	46074.204	104.618	–	–	–	–	灰色
62	N04903	角錐状石器	H2	D9-1	Ⅵ	-89200.170	46073.282	104.629	7.1	2.3	1.9	24.2	灰色
63	接合74	角錐状石器	–	–	–	–	–	–	11.2	3.0	2.0	52.7	
–	N04339	–	H2	C9-4	V	-89205.366	46067.923	104.681	–	–	–	–	灰
–	N04340	–	H2	C9-4	V	-89205.600	46067.772	104.652	–	–	–	–	灰
64	接合63	角錐状石器	–	–	–	–	–	–	10.3	2.6	1.7	38.5	
–	N04063	–	H2	C9-4	V	-89206.632	46066.554	104.725	–	–	–	–	灰
–	N04110	–	H2	C9-4	V	-89206.066	46065.597	104.680	–	–	–	–	灰
65	N01326	角錐状石器	H2	S34-4	V	-89458.387	46228.600	99.211	6.9	1.8	1.4	15.6	黒褐色
66	N01351	角錐状石器	H2	U35-1	V	-89462.247	46240.455	99.579	7.2	2.2	1.7	22.4	黄色
67	N01399	角錐状石器	H2	U36-3	V	-89475.731	46240.974	98.809	7.8	2.5	1.6	25.3	黒褐色

第９表　中ノ迫第2遺跡石器観察表（2）

報告書番号	注記No.及び接合No.	器種	石材	出土地点	層	X 座 標	Y 座 標	Z 座 標	長さ	幅	厚さ	重量	備 考
68	N04623	角錐状石器	H2	C9-3	Ⅳ	-89208.841	46063.514	104.469	5.5	1.8	1.3	12.2	黄色
69	N04707	角錐状石器	H2	E11-4	Ⅴ	-89226.703	46085.553	104.117	4.7	1.8	1.3	10.5	黄色
70	N01323	角錐状石器	H2	S34-4	Ⅴ	-89458.052	46228.597	99.207	9.1	3.1	2.0	47.5	灰色
71	N04338	角錐状石器	H2	C9-4	Ⅴ	-89205.337	46068.050	104.651	8.6	3.6	3.0	92.5	灰色
72	N04377	角錐状石器	H2	C9-2	Ⅴ	-89204.783	46065.873	104.594	5.9	2.6	2.2	38.7	黄色
73	N03773	角錐状石器	H2	F9-3	Ⅴ	-89207.771	46093.275	104.469	3.8	2.1	1.4	12.1	灰色
74	N04120	角錐状石器	H2	D9-3	Ⅴ	-89205.733	46070.234	104.751	3.9	1.9	1.4	6.9	灰色
75	N04113	角錐状石器	H2	C9-4	Ⅴ	-89208.676	46066.556	104.700	2.5	1.2	1.0	3.1	黒褐色
76	N04233	角錐状石器	H2	C9-2	Ⅴ	-89203.007	46069.141	104.666	4.2	2.0	1.2	10.4	黄色
77	N04906	角錐状石器	H2	D8-3	Ⅵ	-89198.398	46073.854	104.670	3.2	1.7	1.6	5.9	灰色
78	N04844	角錐状石器	H2	C9-4	Ⅵ	-89206.434	46067.177	104.529	2.3	1.3	1.1	2.9	灰色
79	N04964	角錐状石器	H2	F14-1	Ⅳ	-89254.657	46092.170	103.973	2.1	1.1	0.9	1.9	灰色
80	N02314	角錐状石器	Ch2	C8-4	Ⅲ	-89195.570	46065.762	105.072	1.8	0.9	0.8	1.1	
81	N0941	角錐状石器	Ryu	H13-3	Ⅲ	-89248.912	46113.065	103.945	4.0	1.8	1.0	7.4	
82	N02104	角錐状石器	Ryu	T34-3	Ⅴ	-89458.194	46231.554	99.340	5.3	2.0	2.1	19.9	
83	N04019	角錐状石器	Ryu	G12-2	Ⅲ	-89233.308	46105.800	104.411	3.3	1.8	1.0	5.8	
84	N0958	剥片尖頭器	H2	L23-4	Ⅴ	-89345.334	46157.010	101.476	8.1	3.0	1.5	37.7	灰色
85	N04020	剥片尖頭器	H2	F13-4	Ⅳ	-89246.324	46095.780	104.002	4.4	3.3	1.2	17.4	黒褐色
86	接合43	剥片尖頭器	–	–	–	–	–	–	11.6	4.1	2.4	91.4	
–	N04035	–	Ryu	C9-2	Ⅳ	-89204.126	46066.153	104.774	–	–	–	–	
–	N04036	–	Ryu	C9-2	Ⅳ	-89204.643	46066.143	104.798	–	–	–	–	
87	N04188	剥片尖頭器	Ryu	F11-3	Ⅴ	-89226.900	46091.189	104.197	6.6	2.1	1.3	15.0	
88	N04863	剥片尖頭器	Ryu	E10-3	Ⅵ	-89218.467	46082.600	104.179	7.5	4.5	1.6	32.2	
89	N0960	ナイフ形石器	Ryu	L23-4	Ⅴ	-89347.177	46157.401	101.503	5.0	1.3	0.9	5.7	
90	N03777	ナイフ形石器	Ryu	E9-4	Ⅴ	-89206.536	46089.178	104.520	2.8	1.0	0.8	1.9	
91	N04866	ナイフ形石器	Ryu	G11-3	Ⅵ	-89229.120	46104.461	104.006	6.8	2.5	0.9	13.9	
92	N03763	ナイフ形石器	H2	E9-2	Ⅴ	-89203.233	46089.793	104.592	2.1	1.1	0.8	2.1	灰色
93	N04864	ナイフ形石器	Ch2	E8-3	Ⅴ	-89198.056	46084.042	104.654	2.8	1.3	0.8	3.0	
94	N01249	掻器	Ryu	U36-3	Ⅲ	-89479.084	46240.809	98.935	5.4	7.2	1.5	55.4	
95	接合36	掻器	–	–	–	–	–	–	6.0	5.9	1.8	75.3	
–	N01366	–	H1	T35-2	Ⅴ	-89463.491	46238.653	99.442	–	–	–	–	
–	N01370	–	H1	T35-2	Ⅴ	-89465.038	46236.973	99.435	–	–	–	–	
96	N0974	掻器	Ob2	L23-1	Ⅴ	-89344.082	46152.277	101.637	2.8	2.2	1.0	6.0	
97	N03420	石核	Ryu	C8-1	Ⅳ	-89191.807	46064.307	104.981	3.2	2.8	1.2	10.1	
98	N01039	細石刃	Ryu	P30-3	Ⅴ	-89416.261	46194.302	100.505	2.5	0.8	0.2	0.4	
99	N01220	細石刃	Ryu	N30-1	Ⅲ	-89414.767	46171.542	100.442	1.4	1.0	0.2	0.5	両端部無し
100	N01227	細石刃	Ryu	N30-3	Ⅲ	-89416.170	46174.957	100.499	2.3	0.6	0.2	0.3	
101	N04797	細石刃	Ryu	C9-3	Ⅴ	-89208.147	46064.393	104.540	1.3	0.6	0.2	0.2	
102	N01741	細石刃	Ob1	E11-1	Ⅲ	-89222.172	46085.000	104.583	0.9	0.4	0.1	0.1	
103	N01800	細石刃	Ob1	F11-2	Ⅲ	-89221.622	46098.482	104.609	1.1	0.4	0.1	0.1	
104	N01474	細石刃	Ob1	G11-3	Ⅲ	-89226.093	46101.899	104.551	0.8	0.6	0.2	0.1	頭部のみ

第10表　中ノ迫第2遺跡石器観察表（3）

報告書番号	注記No.及び接合No.	器種	石材	出土地点	層	X 座 標	Y 座 標	Z 座 標	長さ	幅	厚さ	重量	備 考
105	N01802	細石刃	Ob1	F11-2	Ⅲ	-89222.674	46098.569	104.608	0.5	0.4	0.1	0.1	頭部のみ
106	N01925	細石刃	Ob1	D8-4	Ⅲ	-89196.229	46076.671	105.155	1.6	0.5	0.2	0.1	
107	N02139	細石刃	Ob1	E8-3	Ⅲ	-89197.344	46084.798	105.059	0.7	0.4	0.1	0.1	頭部のみ
108	N03273	細石刃	Ob1	D9-4	Ⅲ	-89207.733	46079.058	104.894	1.2	0.5	0.2	0.1	
109	N02929	細石刃	Ch1	E9-3	Ⅲ	-89206.500	46080.053	105.012	1.1	0.5	0.1	0.1	
110	N02965	細石刃	Ch2	F13-1	Ⅲ	-89243.097	46092.265	104.254	0.5	0.7	0.2	0.1	
111	N02556	細石刃	Ch2	F13-1	Ⅲ	-89242.743	46092.875	104.340	2.1	0.7	0.4	0.4	
112	N04105	細石刃核	Ryu	C9-2	Ⅴ	-89204.344	46068.027	104.762	1.6	1.7	1.5	6.1	
113	N01896	細石刃核	Ryu	C9-2	Ⅲ	-89203.145	46066.526	104.979	2.1	2.5	1.7	7.7	
114	N04939	細石刃核	Ryu	E13-4	Ⅵ	-89248.690	46089.780	103.795	2.1	1.5	0.9	3.9	
115	N0141	細石刃核	Ob1	M23-4	Ⅲ	-89345.353	46168.657	102.000	1.0	1.8	1.1	1.3	
116	N04942	細石刃核	Ob1	F13-3	Ⅵ	-89247.396	46090.496	103.792	1.6	0.8	0.8	1.0	
117	N03562	細石刃核	Ob1	E10-1	Ⅳ	-89212.124	46080.060	104.810	1.7	1.7	1.5	3.5	
118	N04178	細石刃核	Ob1	F11-2	Ⅳ	-89222.846	46094.940	104.537	1.5	1.3	1.0	1.4	
119	N04952	細石刃核	Ob1	F14-1	Ⅲ	-89252.875	46092.672	104.141	1.4	1.2	0.8	1.7	
120	N03670	細石刃核	Ob1	F9-3	Ⅲ	-89206.185	46094.176	104.960	1.1	0.9	0.7	0.7	
121	N04059	細石刃核	Ch2	C9-4	Ⅳ	-89206.021	46065.592	104.759	2.1	4.2	2.2	17.9	
122	N03016	細石刃核	Ch1	E9-2	Ⅲ	-89202.642	46084.606	105.037	1.7	1.6	1.4	3.4	
123	N04065	細石刃核	Ch2	C9-4	Ⅴ	-89208.026	46068.694	104.790	1.8	2.1	1.5	6.1	
124	N04317	剥石	Sa	C9-4	Ⅴ	-89206.010	46069.117	104.649	10.5	4.0	3.4	201.4	
125	N04145	剥石	Sa	F10-1	Ⅵ	-89210.202	46093.559	104.399	14.1	3.4	3.6	248.9	
126	N04286	剥石	Sa	C9-4	Ⅴ	-89207.140	46067.385	104.614	8.3	5.2	5.0	269.9	
127	N04150	剥石	Sa	F10-4	Ⅴ	-89216.691	46095.641	104.305	7.3	3.0	2.9	87.9	
128	N01002	剥石	Sa	N25-1	Ⅴ	-89362.111	46170.176	101.336	9.6	4.7	3.4	211.4	
129	N04596	剥石	Sa	C9-2	Ⅵ	-89204.921	46065.610	104.587	10.4	7.1	2.3	244.7	
130	N04235	剥石	Sa	C9-2	Ⅴ	-89202.407	46065.370	104.624	7.8	5.1	2.1	97.2	
131	N04395	剥石	Sa	C9-2	Ⅴ	-89203.007	46065.700	104.566	2.1	2.4	0.8	3.7	
132	N04587	剥石	Sa	C9-1	Ⅵ	-89203.466	46064.880	104.583	6.0	4.8	2.4	73.1	
133	N01030	剥石	Oz	K21-3	Ⅴ	-89327.121	46142.399	101.863	10.5	7.8	4.6	568.2	
134	N04274	磨石	Oz	C9-4	Ⅴ	-89207.782	46065.832	104.590	10.9	10.0	62.0	1015.8	
217	N0108	石錐	Ob1	M22-3	Ⅲ	-89336.944	46163.183	102.178	1.0	1.0	0.2	0.1	
218	N04914	石錐	Ob1	E12-2	Ⅲ	-89232.330	46089.699	104.455	1.0	1.1	0.2	0.2	
219	N0942	石錐	Ch2	I16-2	Ⅲ	-89273.164	46128.373	103.359	1.2	1.0	0.2	0.3	
220	N0930	石錐	Ob1	I15-3	Ⅲ	-89269.417	46121.866	103.421	1.4	1.1	0.3	0.3	
221	N01	石錐	Ch2	M23-1	Ⅲ	-89340.334	46163.095	102.100	1.2	1.2	0.5	0.5	
222	N0107	石錐	Ch2	N25-3	Ⅲ	-89366.057	46172.131	101.842	1.1	1.6	0.4	0.7	
223	N03305	石錐	Ch2	F13-1	Ⅳ	-89244.591	46090.339	104.189	1.7	1.5	0.2	0.7	
224	N0101	石錐	Ch2	O25-4	Ⅲ	-89366.840	46184.836	101.743	1.9	1.7	0.3	0.6	
225	N0200	石錐	Ch2	N26-2	Ⅲ	-89375.341	46177.393	101.873	1.9	1.9	0.5	1.5	
226	N02227	石錐	Ryu	D8-3	Ⅲ	-89195.783	46071.291	105.076	1.9	1.9	0.4	1.2	
227	N01780	石錐	H2	L29-2	Ⅳ	-89401.067	46158.804	100.337	2.2	2.0	0.6	1.7	尖部磨製　灰色

第11表　中ノ迫第2遺跡石器観察表（4）

報告書番号	注記No.及び接合No.	器種	石材	出土地点	層	X 座 標	Y 座 標	Z 座 標	長さ	幅	厚さ	重量	備 考
228	NO2821	石鏃	Ch1	E7-3	Ⅲ	-89185.888	46083.915	105.088	2.1	2.0	0.5	1.8	
229	NO3838	石鏃	Ch2	F13-4	Ⅲ	-89247.787	46095.280	104.203	2.2	1.9	0.7	2.9	
230	NO272	石鏃	Ch2	I17-4	Ⅲ	-89288.738	46128.485	103.195	1.8	1.7	0.2	0.5	
231	NO2237	石鏃	Ch2	D9-1	Ⅲ	-89201.857	46072.196	104.960	1.7	1.6	0.4	0.6	
232	NO1156	石鏃	Ch2	L28-1	Ⅲ	-89394.359	46151.589	100.395	1.5	1.7	0.3	0.4	
233	NO1907	石鏃	Ob3	C9-2	Ⅲ	-89201.167	46065.310	104.992	2.2	1.8	0.4	1.0	
234	表採	石鏃	Ch3	B区Ⅲ~Ⅳ	–	–	–	–	2.2	1.9	0.3	1.0	
235	NO3287	石鏃	Ch1	E13-2	Ⅲ	-89242.420	46089.817	104.341	2.4	1.5	0.3	1.0	
236	NO273	石鏃	Ob1	J17-4	Ⅲ	-89285.634	46135.381	103.206	1.9	2.0	0.4	0.7	
237	NO2436	石鏃	Ob1	D11-2	Ⅲ	-89220.857	46075.604	104.662	1.4	1.1	0.3	0.3	
238	NO532	石鏃	Ob1	K23-3	Ⅲ	-89345.647	46142.290	101.751	1.4	1.2	0.3	0.3	
239	NO557	石鏃	Ch1	M26-4	Ⅲ	-89378.647	46167.231	101.752	1.5	1.4	0.2	0.3	
240	NO266	石鏃	H2	I20-4	Ⅲ	-89318.732	46128.346	102.625	1.6	1.2	0.2	0.3	灰色
241	NO559	石鏃	Ch2	N26-3	Ⅲ	-89376.066	46175.397	101.712	1.8	1.3	0.5	1.2	
242	NO2148	石鏃	Ch1	E8-3	Ⅲ	-89195.190	46081.822	105.097	1.9	1.7	0.3	0.5	
243	NO4726	石鏃	Ob1	F12-1	Ⅲ	-89232.260	46093.737	104.497	1.8	1.5	0.2	0.5	
244	NO269	石鏃	Ch2	J18-3	Ⅲ	-89295.456	46135.250	103.024	2.1	1.4	0.3	0.7	
245	NO402	石鏃	H2	N26-1	Ⅲ	-89371.872	46173.816	101.843	2.0	1.8	0.6	2.1	黒褐色
246	NO187	石鏃	Ch2	O26-1	Ⅳ	-89371.317	46180.301	101.736	2.1	1.6	0.6	1.3	
247	カクシー括	石鏃	Ch3	D10	–	–	–	–	2.1	1.5	0.4	1.2	
248	NO3721	石鏃	H2	D8-1	Ⅳ	-89194.448	46071.609	105.126	2.3	1.6	0.3	0.8	黒褐色
249	NO3280	石鏃	H2	E11-3	Ⅳ	-89229.258	46080.471	104.417	2.3	1.4	0.3	0.7	白色
250	NO3283	石鏃	H2	G11-1	Ⅲ	-89223.371	46100.054	104.548	2.3	1.5	0.4	1.2	黄色
251	NO3284	石鏃	H2	G11-3	Ⅲ	-89226.222	46100.556	104.588	2.3	1.5	0.3	1.2	黄色
252	NO4733	石鏃	Ryu	H12-1	Ⅲ	-89233.511	46111.752	104.396	2.4	1.7	0.4	1.1	
253	NO186	石鏃	Ch2	O26-1	Ⅳ	-89371.062	46180.666	101.742	2.4	2.0	0.4	1.3	
254	NO142	石鏃	Oz	M23-4	Ⅲ	-89345.263	46169.787	101.973	2.6	2.1	0.4	1.6	
255	NO2812	石鏃	H2	D7-1	Ⅲ	-89181.623	46070.302	105.255	2.6	1.9	0.3	1.3	局部磨製?
256	NO410	石鏃	Ob1	L22-3	Ⅲ	-89339.727	46151.175	102.086	1.8	1.5	0.3	0.4	
257	NO1129	石鏃	Ob3	P31-4	Ⅲ	-89429.779	46196.547	100.149	2.1	1.7	0.3	0.6	
258	表採	石鏃	Ob3	B区Ⅲ	–	–	–	–	1.8	1.4	0.3	0.5	
259	NO3795	石鏃	Ch2	F13-4	Ⅲ	-89248.333	46098.768	104.239	2.2	1.6	0.4	0.9	
260	一括	石鏃	Ch1	D区Ⅲ~Ⅳ	–	–	–	–	2.6	1.3	0.4	0.8	
261	NO268	石鏃	Ob3	J19-2	Ⅲ	-89302.312	46135.998	102.985	2.3	1.9	0.3	1.0	
262	NO2509	石鏃	Ch2	E11-3	Ⅲ	-89228.921	46083.576	104.539	1.9	1.8	0.5	1.5	
263	NO3255	石鏃	Ch2	B8-2	Ⅳ	-89192.214	46059.948	104.927	2.8	1.6	0.3	1.2	
264	NO3740	石鏃	Ch2	D11-1	Ⅲ	-89224.120	46072.702	104.484	2.2	1.6	0.3	0.7	
265	NO3029	石鏃	Ch2	D10-1	Ⅲ	-89211.164	46070.596	104.870	2.2	2.3	0.4	1.5	
266	NO2393	石鏃	H2	D11-2	Ⅲ	-89221.575	46079.456	104.683	2.5	1.8	0.4	1.2	暗褐色
267	NO3013	石鏃	Ch2	C6-2	Ⅲ	-89173.786	46069.017	105.324	2.7	1.7	0.3	0.9	
268	NO1718	石鏃	Ch2	F10-2	Ⅲ	-89212.465	46095.937	104.809	2.5	2.1	0.4	1.5	

第12表　中ノ迫第2遺跡石器観察表（5）

報告書番号	注記No.及び接合No.	器種	石材	出土地点	層	X 座 標	Y 座 標	Z 座 標	長さ	幅	厚さ	重量	備 考
269	N03074	石鏃	Ch1	D7-3	Ⅲ	-89189.737	46070.844	105.217	2.7	1.7	0.3	1.1	
270	N03177	石鏃	Ch1	C9-1	Ⅳ	-89200.369	46060.901	104.888	2.8	2.4	0.4	1.4	
271	N0504	石鏃	Ch1	M27-1	Ⅲ	-89382.445	46164.317	101.537	2.9	2.1	0.3	1.5	
272	ガラス	石鏃	Ch3	E 10-1	－	－	－	－	2.9	1.8	0.4	1.4	
273	N0267	石鏃	Ob3	J19-4	Ⅲ	-89309.435	46135.905	102.815	3.3	2.2	0.4	2.0	
274	N0552	石鏃	Ob3	H18-3	Ⅲ	-89299.023	46112.228	102.861	3.4	2.0	0.5	1.7	
275	N0383	石鏃	Ryu	I20-4	Ⅲ	-89316.976	46128.040	102.607	3.4	1.9	0.4	1.4	
276	N0511	石鏃	Ch1	N26-2	Ⅲ	-89371.336	46176.787	101.821	1.2	1.6	0.2	0.3	
277	N02323	石鏃	Ch1	D8-4	Ⅲ	-89196.632	46077.056	105.104	1.4	1.2	0.4	0.1	
278	N02977	石鏃	H2	F13-1	Ⅲ	-89243.881	46092.363	104.247	1.5	1.3	0.3	0.4	灰色
279	N03315	石鏃	Ch2	F13-4	Ⅲ	-89245.838	46098.718	104.299	1.7	1.6	0.4	0.6	
280	N01821	石鏃	Ch1	E9-2	Ⅲ	-89204.601	46087.034	104.995	1.8	1.7	0.3	0.4	
281	N04943	石鏃	Ch2	E12-2	Ⅳ	-89250.659	46088.936	104.100	1.9	1.9	0.3	0.9	
282	N03965	石鏃	Ch4	G11-4	Ⅲ	-89228.068	46108.409	104.470	2.2	1.1	0.3	0.7	
283	N0292	石鏃	Sn	I18-4	Ⅲ	-89296.930	46125.349	102.813	2.6	1.4	0.3	1.3	
284	N0361	石鏃	Ryu	H14-1	Ⅲ	-89251.123	46114.907	103.920	2.8	1.6	0.4	1.5	
285	N03791	石鏃	Ob3	G13-1	Ⅲ	-89243.082	46103.398	104.365	2.5	1.6	0.4	0.7	
286	N01909	石鏃	H2	C8-4	Ⅲ	-89198.110	46067.408	105.121	2.2	1.8	0.4	1.0	灰色
287	N04518	石鏃	H2	C9-1	Ⅴ	-89203.595	46063.308	104.575	2.3	1.6	0.4	1.3	灰色
288	N04056	石鏃	Ch1	C9-4	Ⅳ	-89207.471	46066.512	104.833	2.3	2.1	0.8	3.6	
289	N02235	石鏃	Ch1	D9-1	Ⅲ	-89201.786	46072.841	104.983	2.1	1.9	0.7	2.3	
290	N03792	石鏃	Ch2	G13-3	Ⅲ	-89246.473	46100.592	104.234	2.9	2.4	0.6	3.9	
291	N02811	石鏃	Ch2	D7-1	Ⅳ	-89181.094	46070.190	105.236	3.9	2.7	0.6	7.3	
292	N0849	石鏃	Ch2	M22-3	Ⅲ	-89337.221	46161.506	102.080	1.5	0.9	0.4	0.4	一部のみ
293	N01807	石鏃	Ch2	E9-2	Ⅲ	-89203.678	46087.922	105.033	1.2	0.8	0.3	0.3	一部のみ
294	N02491	石鏃	H2	D11-1	Ⅲ	-89224.916	46074.238	104.543	1.4	0.9	0.3	0.3	一部のみ　灰色
295	N04740	石鏃	Ob1	G11-4	Ⅳ	-89226.218	46106.562	104.336	1.1	0.9	0.3	0.2	一部のみ
296	N03495	石鏃	Ch2	G11-4	Ⅲ	-89225.998	46105.670	104.481	1.5	0.9	0.3	0.4	一部のみ
297	N03658	石鏃	Ryu	D8-4	Ⅳ	-89197.589	46078.224	105.093	1.6	1.2	0.3	0.4	一部のみ
298	N03789	石鏃	Sh	G12-3	Ⅲ	-89239.975	46103.536	104.299	1.7	1.4	0.4	0.7	周部磨製
299	N072	石鏃(未製品)	Ch1	N25-3	Ⅲ	-89367.005	46172.193	101.888	1.4	1.1	0.4	0.4	
300	N087	石鏃(未製品)	Ch2	N25-2	Ⅲ	-89362.419	46176.511	101.900	2.3	1.9	1.1	3.4	
301	N02152	石鏃(未製品)	H2	D8-4	Ⅲ	-89196.806	46078.813	105.080	3.4	2.3	1.0	6.4	灰色
302	N01846	石鏃(未製品)	H2	D9-4	Ⅲ	-89205.017	46077.472	104.954	2.6	2.1	0.8	3.5	黒褐色
303	N02499	石鏃(未製品)	Ch2	D11-4	Ⅲ	-89228.773	46078.450	104.546	2.6	2.1	1.0	4.2	
304	N039	石鏃(未製品)	Ch1	L23-2	Ⅲ	-89341.712	46156.261	102.133	4.0	3.2	0.9	8.3	
305	N02195	石鏃(未製品)	H2	D8-1	Ⅲ	-89191.837	46074.756	105.130	2.7	2.4	0.6	3.0	灰色
306	N03395	石鏃(未製品)	Ch2	C7-2	Ⅲ	-89183.297	46068.240	105.102	3.1	2.4	1.0	5.9	
307	N04490	石鏃(未製品)	H2	C9-1	Ⅳ	-89203.695	46063.343	104.695	3.2	2.1	0.7	4.2	灰色
308	N01417	石斧	H1	U36-3	Ⅲ	-89478.762	46242.668	98.902	11.4	5.0	1.9	133.9	打製 基部に抉りを設けている
309	N01040	石斧	H1	P30-4	Ⅳ	-89417.183	46195.504	100.494	10.1	5.0	2.6	141.3	打製

第13表　中ノ迫第2遺跡石器観察表（6）

報告書番号	注記No. 2.0.7 接合No.	器種	石材	出土地点	層	X 座 標	Y 座 標	Z 座 標	長さ	幅	厚さ	重量	備 考
310	N03576	石斧	H2	C9-4	Ⅳ	-89206.508	46068.915	104.932	6.8	4.1	1.8	56.0	打製　灰色
311	N01021	石斧	H1	M23-1	Ⅲ	-89340.935	46161.420	102.025	17.3	8.7	3.3	505.0	打製　SI2から出土
312	N02199	石斧	H2	D8-1	Ⅲ	-89194.757	46073.752	105.119	11.6	7.5	3.8	412.9	打製　灰色
313	N0227	石斧	H2	O26-1	Ⅲ	-89370.702	46180.598	101.753	11.2	7.5	2.6	241.9	打製　灰色
314	N01509	石斧	H2	G12-3	Ⅲ	-89235.390	46101.314	104.387	7.7	4.1	1.6	71.1	磨製　黄色
315	N02211	石斧	H1	D8-1	Ⅲ	-89193.895	46070.554	105.094	13.3	4.5	2.1	182.0	刃部磨製
316	N02249	石錘	Ch1	D9-1	Ⅳ	-89203.168	46070.653	104.937	4.0	3.4	1.1	10.6	
317	N02289	石錘	Ch2	C8-4	Ⅲ	-89198.643	46066.616	105.049	2.2	1.9	0.8	2.8	
318	N03820	石錘	Ryu	D7-2	Ⅳ	-89180.854	46077.561	105.185	3.2	1.0	0.7	2.3	
319	N0242	石錘	Ob1	L24-1	Ⅲ	-89354.466	46150.466	101.728	2.4	1.0	0.6	1.3	
320	N02252	石剣	H2	C9-1	Ⅲ	-89202.021	46064.987	104.998	4.3	2.4	0.9	9.3	縦長　黄色
321	N04081	石剣	H2	D9-1	Ⅴ	-89204.481	46072.308	104.672	4.2	3.6	1.0	9.5	縦長　灰色
322	N01233	石剣	Ryu	M30-2	Ⅲ	-89412.947	46169.054	100.355	4.6	2.7	1.1	10.5	縦長
323	N0118	石剣	Ob1	L24-2	Ⅲ	-89351.777	46155.352	101.977	2.6	2.9	0.6	1.9	横長
324	N097	石核	Ch2	O25-3	Ⅲ	-89369.621	46180.937	101.825	1.6	2.7	1.8	7.1	
325	N01937	石核	Ryu	D8-3	Ⅲ	-89198.113	46072.489	105.133	2.9	3.9	1.2	13.4	
326	接合89	敲石	－	－	－	－	－	－	12.8	6.1	4.0	443.7	赤化部分あり
－	N01213	－	Sa	M30-2	Ⅲ	-89410.375	46165.473	100.307	－	－	－	－	
－	N01782	－	Sa	M29-1	Ⅳ	-89401.217	46160.652	100.458	－	－	－	－	
327	N01171	敲石	Sa	T34-3	Ⅳ	-89458.421	46231.385	99.593	5.8	6.2	4.6	205.5	
328	N01774	敲石	Sa	L28-4	Ⅲ	-89397.758	46157.174	100.469	8.4	6.3	3.2	242.6	
329	N02207	敲石	Sa	D8-1	Ⅲ	-89191.125	46072.955	105.123	4.8	4.4	3.5	87.7	
330	N03778	敲石	H2	E9-2	Ⅳ	-89201.074	46085.818	104.675	2.8	2.2	0.9	3.5	
331	N01148	敲石	Sh	M29-4	Ⅲ	-89409.223	46168.073	100.405	9.8	3.6	2.0	108.2	
332	N03693	敲石	Oz	C9-1	Ⅲ	-89204.476	46063.685	104.974	8.2	7.9	5.0	448.2	
333	N01052	磨石	Sa	U36-4	Ⅳ	-89478.871	46246.530	99.229	14.1	10.0	3.1	639.6	
334	N01425	磨石	Oz	G12-1	Ⅲ	-89231.526	46102.022	104.439	11.7	9.5	4.5	749.8	
335	N01212	磨石	Oz	M30-1	Ⅲ	-89411.553	46163.359	100.206	8.6	5.0	3.6	214.4	
336	N02999	磨石	Oz	G12-3	Ⅲ	-89238.017	46103.444	104.263	9.5	8.8	6.3	797.5	
337	N03692	磨石	Oz	C9-1	Ⅳ	-89203.056	46064.374	105.009	8.9	7.5	5.0	468.3	
338	N02993	磨石	Oz	E10-1	Ⅲ	-89237.586	46080.712	104.132	8.1	4.3	4.5	205.7	
339	N01794	砥石	Oz	N30-3	Ⅳ	-89417.424	46172.700	100.237	11.2	10.0	1.7	373.3	
340	N01141	砥石	Oz	N31-1	Ⅲ	-89422.121	46174.050	100.130	10.3	9.4	3.3	538.7	
341	接合91	砥石	－	－	－	－	－	－	12.1	8.0	2.7	387.7	
－	N01219	－	Oz	N30-3	Ⅳ	-89415.923	46171.581	100.297	－	－	－	－	
－	N01221	－	Oz	N30-1	Ⅲ	-89414.174	46172.020	100.411	－	－	－	－	
－	N01224	－	Oz	N30-1	Ⅲ	-89415.026	46172.486	100.389	－	－	－	－	
342	N01144	砥石	H2	N30-3	Ⅲ	-89419.576	46173.883	100.166	8.6	8.6	2.5	267.5	
343	N03001	台石	Oz	G12-2	Ⅲ	-89231.731	46105.555	104.414	24.3	20.1	9.0	7000.0	
344	N04856	台石	Oz	C10-4	Ⅲ	-89215.209	46069.001	104.717	26.6	23.3	5.0	4200.0	
345	N04857	台石	Oz	D10-2	Ⅳ	-89215.342	46071.153	104.744	28.0	20.2	5.8	3800.0	

第14表　中ノ迫第2遺跡石器観察表（7）

報告書番号	注記No.及び接合No.	器種	石材	出土地点	層	X 座 標	Y 座 標	Z 座 標	長さ	幅	厚さ	重量	備 考
接合資料7	接合90	－	－	－	－	－	－	－	12.1	9.7	1.6	200.1	
353	SA1-1	砥石	Sh	SA1-1	Ⅱ	－	－	－	12.1	7.1	1.5	171.6	接合資料7 擦り切り跡あり
354	SA1-4	砥石	Sh	SA1-4	Ⅱ	－	－	－	5.8	4.3	1.3	28.5	接合資料7 擦り切り跡あり
355	SA1-2	石皿丁	H1	SA1	Ⅱ	－	－	－	3.8	6.6	0.7	22.7	短辺に抉りあり
356	SA1-3	敲石	Oz	SA1-3	Ⅱ	－	－	－	9.1	6.4	4.8	328.8	
357	一括	磨石	Oz	SA1-1	Ⅱ	－	－	－	11.0	9.4	5.6	877.1	
358	(1-6)	台石	Oz	SA1	Ⅱ	－	－	－	21.2	12.2	4.0	1500.0	
384	一括	石皿丁	H2	SA2-2	Ⅱ	－	－	－	3.6	6.2	0.6	19.0	短辺に抉りあり 灰色

第15表　中ノ迫第2遺跡石器観察表（8）

報告書番号	種別	器種	部位	出土地点 区	層	グリッド	遺構	法量(cm) 口径	底径	器高	調整 外面	内面	土器分類	色調 外面	内面	胎土	備考
135	縄文土器	口縁部	AⅡ	AⅡ	F13-1	－	－	－	粗子目押型文	粗子目押型文	IA	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	4mm以下の赤褐色粒 2mm以下の黒色角形光沢粒、灰白色粒	口縁部に刻み目	
136	縄文土器	口縁部	AⅡ	AⅡ	G12-2	－	－	－	粗子目押型文	粗子目押型文	IA	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	3mm以下の赤褐色粒 2mm以下の灰白色粒 1.5mm以下の黒色角形光沢粒	口縁部に刻み目 補修孔あり	
137	縄文土器	口縁部	BⅡ	AⅡ	J21-2	－	－	－	粗子目押型文	粗子目押型文	IA	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	2mm以下の黒色角形光沢粒、灰白色粒	口縁部に刻み目	
138	縄文土器	胴部	AⅡ	AⅡ	F13-1	－	－	－	粗子目押型文	ナデ	IA	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	4mm以下の黒区褐色粒 2mm以下の黒色角形光沢粒 1.5mm以下の褐区色、灰白色粒		
139	縄文土器	胴部	AⅡ	AⅡ	F13-2	－	－	－	粗子目押型文	粗子目押型文	IA	にぶい橙色	灰黄褐色	5mm以下の黒区色粒 2mm以下の黒色角形光沢粒 1mm以下の赤褐色、灰白色粒		
140	縄文土器	胴部	AⅡ	AⅡ	F13-3	－	－	－	粗子目押型文	粗子目押型文	IA	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	2mm以下の黒色角形光沢粒、灰白色粒 1mm以下の赤褐色粒		
141	縄文土器	胴部	AⅡ	AⅡ	E12-4	－	－	－	粗子目押型文	粗子目押型文	IA	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	2mm以下の赤褐色粒 1.5mm以下の白色粒 微細な黒色光沢粒		
142	縄文土器	胴部	BⅡ	AⅡ	H13-3	－	－	－	粗子目押型文	粗子目押型文	IA	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	4mm以下の黒色粒 2mm以下の黒色角形光沢粒 1.5mm以下の赤褐色粒 1mm以下の灰白色粒		
143	縄文土器	胴部	AⅡ AⅢ	E13-4 F12-3	－	－	－	－	粗子目押型文	粗子目押型文	IA	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	3mm以下の黒色角形光沢粒 2mm以下の灰白色粒 1mm以下の褐色粒		
144	縄文土器	口縁部	AⅡ	D11-1	－	－	－	－	山形押型文	山形押型文	IIIa	褐色	褐色	1mm以下のにぶい褐色粒 微細な透明光沢粒	内面口縁部付近にも山形押型文	
145	縄文土器	胴部	AⅡ	AⅡ	S16 E12-1	－	－	－	山形押型文	ナデ	IIIa	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	1.5mm以下の乳白色粒 微細な透明光沢粒、灰白色粒	補修孔あり	
146	縄文土器	胴部	AⅡ	AⅡ	D11-1,2	－	－	－	山形押型文	ナデ	IIIa	暗褐色	褐色	2mm以下の黒褐色粒 1mm以下の褐区色粒 微細な透明光沢粒		
147	縄文土器	胴部	AⅡ	AⅡ	E11-2	－	－	－	山形押型文	ナデ	IIIa	褐色	暗褐色	3mm以下の褐褐区色粒 2mm白色粒 2mm以下の褐褐色粒 微細な透明光沢粒		
148	縄文土器	胴部	AⅡ AⅢ	D11-2 E9-2 F12-3	－	－	－	－	山形押型文	ナデ	IIIa	にぶい赤褐色	赤褐色	2mm以下のにぶい褐色粒 1mm以下の褐褐色粒 微細な透明光沢粒		
149	縄文土器	胴部	AⅡ	AⅡ	E12-2,4	－	－	－	山形押型文	ナデ	IIIa	明赤褐色	にぶい赤褐色	2mm以下のにぶい赤褐色粒 0.5mm以下のにぶい橙色粒 微細な透明光沢粒		
150	縄文土器	胴部	AⅢ	E12-4	－	－	－	－	山形押型文	ナデ	IIIa	褐色	褐色	2mm以下の黒褐色粒 1mm以下の灰白色、褐色粒 微細な透明光沢粒	内面一部に山形押型文	
151	縄文土器	胴部	AⅢ	C10-4	－	－	－	－	山形押型文	ナデ	IIIa	明赤褐色	にぶい褐色	1mm以下の灰白色粒 微細な透明光沢粒		
152	縄文土器	口縁部	AⅡ	AⅡ	E11-4	－	－	－	山形押型文	ナデ	IIIa	褐色	褐色	1.5mm以下のにぶい橙色粒 1mm以下の褐区色粒 微細な透明光沢粒		
153	縄文土器	胴部	AⅡ AⅢ	D11-2	－	－	－	－	山形押型文	ナデ	IIIa	褐色	褐色	3mm以下のにぶい黄橙色粒 2mm以下の褐区色粒 微細な黒色光沢粒		
154	縄文土器	口縁部	BⅡ	M24-2	－	－	－	－	山形押型文	山形押型文	IIIb	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	3mm以下の灰白色粒 2.5mm以下の灰色粒		
155	縄文土器	口縁部	BⅡ	N25-4	－	－	－	－	山形押型文	山形押型文	IIIb	灰黄褐色	灰黄褐色	5mm以下の褐区色粒 微細な透明光沢粒、黒色光沢粒		
156	縄文土器	口縁部	BⅡ	M23-4	－	－	－	－	山形押型文	山形押型文	IIIb	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	2mm以下の灰白色粒 1.5mm以下の灰色粒		
157	縄文土器	口縁部	BⅡ	L23-4	－	－	－	－	山形押型文	ナデ	IIIb	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	3mm以下の褐区色粒 2.5mm以下の灰白色粒 1.5mm以下のにぶい褐色粒 微細な透明光沢粒	内面口縁部付近にも山形押型文	

第16表　中ノ迫第2遺跡土器観察表（1）

報告書番号	種別	器種	部位	出土地点 区・郡	出土地点 グリッド・遺構	法量(cm) 口径	法量(cm) 底径	法量(cm) 器高	調整 外面	調整 内面	土師分類	色調 外面	色調 内面	胎土	備考
158	縄文土器	胴部	BB	K21-1	－	－	－	山形押型文	ナデ	ナデ	IIIb	にぶい橙色	にぶい橙色	2.5mm以下の石白色、淡橙色粒 2mm以下の赤褐色粒	
159	縄文土器	胴部	BB	L23-4	－	－	－	山形押型文	ナデ	ナデ	IIIb	にぶい褐色	にぶい褐色	3mm以下の赤褐色粒 2.5mm以下の灰黄褐色粒 2mm以下の石白色粒	
160	縄文土器	口縁部	BB	L23-4	－	－	－	山形押型文	ナデ	IIIb	にぶい橙色	にぶい黄褐色	5mm以下の石白色粒 1mm以下の赤褐色粒	内面口縁部付近にも山形押型文
161	縄文土器	胴部	BB	L23-4	－	－	－	山形押型文	ナデ	IIIb	にぶい橙色	にぶい橙色	4mm以下の石白色粒 1.5mm以下のにぶい赤褐色粒	内面一部に山形押型文
162	縄文土器	胴部	BB	L23-4	－	－	－	山形押型文	ナデ	IIIb	にぶい橙色	にぶい橙色	4mm以下の黒褐色粒 2mm以下のにぶい黄褐色粒 1.5mm以下の石白色粒	
163	縄文土器	胴部	AB	C7-4	－	－	－	楕円押型文	ナデ	ナデ	IIIa	黄褐色 赤褐色	赤褐色	3mm以下の石白色粒 2mm以下の黒石色粒 微細な透明光沢粒、褐色粒	ベルト状施文
164	縄文土器	胴部	AB	F14-1	－	－	－	楕円押型文	ナデ	ナデ	IIIa	暗褐色	にぶい赤褐色	微細な橙色、明褐反色、透明粒	
165	縄文土器	口縁部	AV	F14-1	－	－	－	楕円押型文	ナデ	ナデ	IIIa	暗褐色	にぶい赤褐色	微細な透明光沢粒、明褐反色、 にぶい橙色粒	
166	縄文土器	胴部	AB	E12-2	－	－	－	楕円押型文	ナデ	ナデ	IIIa	にぶい黄褐色 明赤褐色	明赤褐色	4.5mm以下の石白色粒 4mm以下のにぶい黄橙色粒、 微細な光沢粒、浅黄橙色、褐反色粒	
167	縄文土器	口縁部	AB	F13-2 H12-3	－	－	－	楕円押型文	ナデ	ナデ	IIIa	橙色	橙色	3mm以下の橙色粒 1mm以下の褐石色粒 微細な光沢粒	内面口縁部付近にも楕円押型文
168	縄文土器	胴部	AV	D11-4	－	－	－	楕円押型文	横方向のナデ	ナデ	IIIa	暗褐色	赤褐色	3mm以下の橙色粒 微細な透明光沢粒、明赤褐色粒	
169	縄文土器	胴部	AB	C10-2	－	－	－	楕円押型文	ナデ	ナデ	IIIa	橙色	赤褐色	2mm以下の明赤褐色粒 微細な光沢粒	
170	縄文土器	胴部	AB	C7-4	－	－	－	楕円押型文	ナデ	ナデ	IIIa	橙色	橙色	2mm以下の黒反色、明黄褐色、褐色粒 微細な光沢粒	
171	縄文土器	胴部	AB AV	C7-2 C8-4	－	－	－	楕円押型文	横方向のナデ	ナデ	IIIa	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	1mm以下の淡黄色、暗褐色、乳白色粒	無文帯あり
172	縄文土器	胴部	AB AV	C9-2 E9-7	－	－	－	楕円押型文	ナデ	ナデ	IIIa	橙色	明赤褐色	3mm以下の橙色粒 2mm以下の褐反色粒	
173	縄文土器	胴部	AB	D11-4	－	－	－	楕円押型文	ナデ	ナデ	IIIa	にぶい赤褐色	明赤褐色	1mm以下の乳白色、明褐色粒 光石反色粒	内面一部に楕円押型文
174	縄文土器	胴部	BB	I15-1	－	－	－	楕円押型文	ナデ	ナデ	IIIb	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	2mm以下の褐反色粒 1mm以下の反白色粒 微細な透明光沢粒	
175	縄文土器	胴部	BB	I15-3	－	－	－	楕円押型文	ナデ	ナデ	IIIb	にぶい赤褐色	暗色	4mm以下の暗褐色粒 3mm以下の黒褐色粒 2mm以下の浅黄橙色粒 微細な透明の光沢粒	
176	縄文土器	胴部	BB	I15-1	－	－	－	楕円押型文	ナデ	ナデ	IIIb	暗色	暗色	6mm以下の赤褐色粒 微細な浅黄橙色、黒褐色、光沢粒	
177	縄文土器	底部	BB	I15-1	－	－	－	楕円押型文	調整している	ナデ	IIIb	暗色	明赤褐色	4mm以下の反白色粒 2mm以下の浅黄橙色、明褐反色粒 微細な光沢粒、橙色、褐反色粒	
178	縄文土器	口縁部	CB CN	U36-1, 2	－	－	－	斜除条痕文	ナデ	ナデ	SA	浅黄色	浅黄色	1.5mm以下のにぶい赤褐色粒 1mm以下の反白粒 微細な透明光沢粒	
179	縄文土器	口縁部	CV	U36-1	－	－	－	斜除条痕文	ナデ	ナデ	SA	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	2mm以下の反白色、にぶい黄褐色粒	
180	縄文土器	口縁部	CV	T35-3	－	－	－	斜除条痕文	横方向のナデ	ナデ	SA	にぶい黄橙色	浅黄橙色	3mm以下の反白色、浅黄橙色、褐反色粒、 微細な光沢粒	
181	縄文土器	口縁部	CV	S33-3	－	－	－	斜除条痕文	ナデ	ナデ	SA	にぶい黄橙色	浅黄橙色	1mm以下の浅黄橙色、反白色粒 微細な黒色光沢粒	
182	縄文土器	口縁部	DV	N31-4	－	－	－	斜除条痕文	ナデ	ナデ	SA	にぶい橙色	にぶい黄橙色	3mm以下の浅黄橙色粒 2mm以下の反白色粒 微細な透明光沢粒	縫合孔あり
183	縄文土器	胴部	DB	I15-3 H16-1	－	－	－	斜除条痕文	ナデ	ナデ	SA	にぶい黄橙色	にぶい赤褐色	1mm以下の乳白粒	
184	縄文土器	口縁部	CV	U36-4	－	－	－	斜除条痕文	ナデ	ナデ	SA	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	1.5mm以下の褐反色、反黄褐色粒 微細な透明光沢粒	縫合孔あり
185	縄文土器	口縁部	CB	S35-2	－	－	－	斜除条痕文	ナデ	ナデ	SA	浅黄色	浅黄色	1mm以下の反白粒 微細な黒色光沢粒	
186	縄文土器	口縁部	DB	M29-1	－	－	－	斜除条痕文	ナデ	ナデ	SA	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	3mm以下の浅黄橙色粒	
187	縄文土器	口縁部	CV	P31-1	－	－	－	斜除条痕文	調整している	ナデ	SA	にぶい黄橙色	明黄褐色	3mm以下の反白色、褐反色粒 微細な光沢粒	
188	縄文土器	口縁部	DV	N30-3	－	－	－	斜除条痕文	ナデ	ナデ	SA	橙色	にぶい黄橙色	微細な透明光沢粒、反白、褐反、 浅黄橙粒	
189	縄文土器	口縁部	CV	S33-3	－	－	－	斜除条痕文	ナデ	ナデ	SA	にぶい黄橙色	にぶい褐色	1mm以下の反白粒 微細な透明光沢粒	

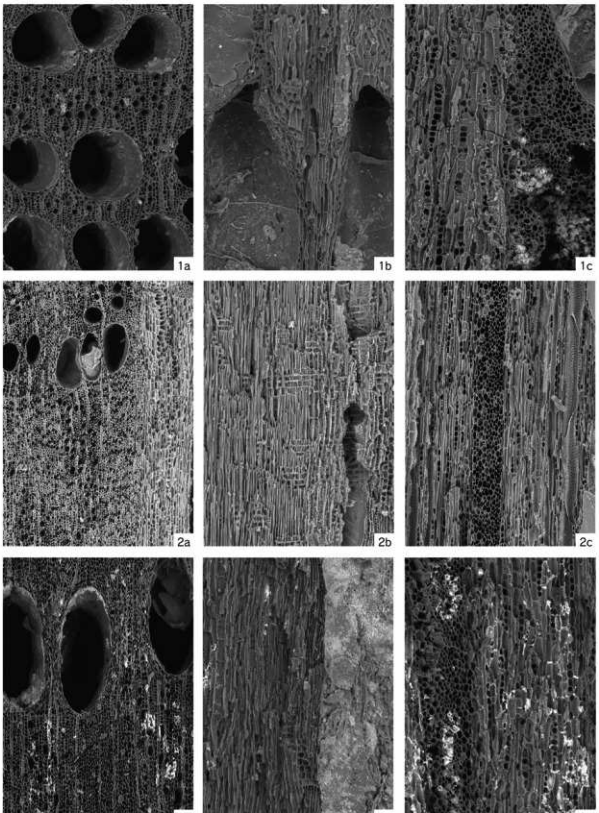
第17表　中ノ迫第2遺跡土器観察表（2）

報告書番号	種別	器種	部位	出土地点 区・郡	出土地点 グリッド・遺構	法量(cm) 口径	法量(cm) 器高	法量(cm) 底径	調整 外面	調整 内面	土器分類	色調 外面	色調 内面	胎土	備考
190	縄文土器		口縁部	CB	S34-3	－	－	－	貝殻条痕文	ナデ	3A	にぶい橙色	にぶい橙色	2mm以下の灰白色、黒褐色粒	
191	縄文土器		口縁部	AB A/V	C9-1 D8-1,2	－	－	－	貝殻条痕文	ナデ	3A	明黄褐色	にぶい黄橙色	3mm以下のにぶい橙色、灰白色粒 微細な透明光沢粒	
192	縄文土器		口縁部	A/V	C8-1	－	－	－	貝殻条痕文	ナデ	3A	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	5mm以下の灰白色粒 2mm以下の黒色黄色光沢粒 微細な透明光沢粒	
193	縄文土器		胴部	AB	G11-3	－	－	－	貝殻条痕文	ナデ	3A	にぶい黄橙色	橙色	3mm以下の赤褐色粒 2mm以下の灰白色粒 微細な光沢粒、雲母粒	
194	縄文土器		口縁部～胴部	AB A/V	C8-1 C9-1	－	－	－	貝殻条痕文	ナデ	3A	にぶい赤褐色	橙色 にぶい黄橙色	2.5mm以下の灰白色粒 1.5mm以下の白黄橙色粒	
195	縄文土器		胴部	AB A/V	C8-1 E8-1	－	－	－	貝殻条痕文	ナデ	3A	明褐色	にぶい黄橙色	1mm以下の黒色光沢粒、乳白色粒	
196	縄文土器		胴部	AB A/V	C8-1,4	－	－	－	貝殻条痕文	ナデ	3A	浅黄色	にぶい黄橙色	4mm以下の灰白色、灰黄色粒 微細な透明光沢粒	
197	縄文土器		口縁部	BB	H14-1	－	－	－	貝殻条痕文	ナデ	3B	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	3mm以下のにぶい橙色粒 2mm以下の透明粒、黒色光沢粒 微細な明橙色粒	
198	縄文土器	深鉢	口縁部～底部	AB	G11-3,4 G12-2	26.8	12.5	26.0	貝殻刺突文	横方向のナデ	Ⅱ	にぶい赤褐色	橙色	4mm以下のにぶい橙色粒 1mm以下の黒色光沢粒、灰白色粒 微細な透明光沢粒	繊維孔あり
199	縄文土器		胴部	AB	G12-2	－	－	－	貝殻刺突文	ナデ	Ⅱ	灰褐色	橙色	2.5mm以下の赤褐色粒 1mm以下の灰白色粒 微細な透明光沢粒	外面一部にスス付着
200	縄文土器		胴部	AB	G12-2	－	－	－	貝殻刺突文	斜方向のナデ	Ⅱ	黒褐色	橙色	1.5mm以下の黒色光沢粒 微細な透明光沢粒	
201	縄文土器		胴部	A/V	C9-4	－	－	－	貝殻刺突文	ナデ	Ⅱ	にぶい橙色	にぶい橙色	2mm以下の浅黄橙色、金色、 にぶい橙色粒	繊維孔あり
202	縄文土器	深鉢	胴部	AB A/V	C9-4 D9-1,2,4	－	－	－	貝殻刺突文	ナデ	Ⅱ	橙色	にぶい黄褐色	5mm以下のにぶい橙色粒 3mm以下の灰白色粒 微細な透明光沢粒	
203	縄文土器		胴部	A/V	C9-4	－	－	－	撚糸文	ナデ	7/A	浅黄色	浅黄色	4mm以下の灰白色粒 2mm以下の黒色黄色光沢粒、灰白色粒	
204	縄文土器		胴部	BB	O25-1	－	－	－	撚糸文	ナデ	7/B	灰黄褐色	橙色	4.5mm以下の赤褐色粒 2mm以下の黒色光沢粒、褐灰色、浅黄橙色粒	
205	縄文土器		胴部	BB		－	－	－	撚糸文	ナデ	7/B	にぶい橙色	にぶい橙色	5mm以下の浅黄色粒 2mm以下の黒褐色粒	
206	縄文土器		胴部	AB A/V	SI29 E10-4	－	－	－	撚糸文	横方向のナデ	7/B	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	1mm以下の乳白色、赤褐色粒	繊維孔あり
207	縄文土器		胴部	DB	S48	－	－	－	撚糸文	ナデ	7/B	橙色	橙色	3mm以下のにぶい橙色粒 2mm以下の灰白色粒 1.5mm以下の黒色黄色光沢粒	
208	縄文土器		胴部	BB	M23-4	－	－	－	撚糸文	ナデ	7/B	褐色	褐色	2mm以下の浅黄橙色粒 1mm以下の黒色光沢粒 微細な褐灰色粒	
209	縄文土器		口縁部	A	D10撹乱	－	－	－	撚糸文	ナデ	7/B	褐色	褐色	3mm以下のにぶい橙色粒 微細な透明光沢粒	
210	縄文土器		胴部	AB	E8-2	－	－	－	撚糸文	ナデ	7/B	褐色	褐色	6.5mm以下の褐色粒 3mm以下の褐灰色粒 2mm以下の浅黄橙色粒 微細な光沢粒	
211	縄文土器		胴部	BV	M24-2	－	－	－	撚糸文	ナデ	7/C	にぶい橙色	にぶい橙色	2mm以下の乳白色粒 1.5mm以下の灰白色粒 微細な黒色光沢粒	
212	縄文土器		底部	BB	H16-2	－	5.0	－	風化している	ナデ	V	浅黄橙色	浅黄色	1.5mm以下の浅黄橙色、灰白色粒 1mm以下の黒褐色粒	
213	縄文土器		底部	AB	C7-2	－	－	－	ナデ	ナデ	V	にぶい褐色	にぶい黄橙色	1.5mm以下の赤褐色、半透明ガラス質粒 1mm以下のにぶい黄橙色粒 微細な透明光沢粒	
214	縄文土器		胴部	BB	N25-3	－	－	－	結び文	ナデ	V	にぶい黄橙色	黄褐色	2mm以下の黒褐色粒 1.5mm以下の浅黄橙色粒 微細な灰白色粒	粘土紐を貼り付けて表形の模様を付けている
215	縄文土器			DB	L27-3	－	－	－			V	橙色	橙色	4mm以下の灰白色粒、灰黄色粒 0.5mm以下の黒色光沢粒 微細な黒褐色粒	耳の部分か？
216	弥生土器		口縁部	CB	S34-4	－	－	－	ナデ	ナデ	V	にぶい黄橙色	褐色	5mm以下の灰白色粒 0.5mm以下の灰白色粒	外面一部にスス付着
346	弥生土器	鉢	完形	AB	SA1-1	11.0	3.2	6.7	ナデ	横方向のナデ		橙色	にぶい褐色	1mm以下の黒色粒 1mm以下の灰白色粒が少し	底部に編組痕が見られる
347	弥生土器		頸部付近	AB	SA1-2	－	－	－	ナデ	ナデ		にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	1.5mm以下の黒色光沢粒 0.5mm以下の灰白色粒 微細な透明光沢粒	頸部に封目突帯
348	弥生土器		頸部付近	AB	SA1-4	－	－	－	ナデ	ナデ		にぶい黄橙色	黒褐色	3mm以下の灰白色粒 2mm以下の黒色光沢粒 微細な透明光沢粒	頸部に封目突帯
349	弥生土器	壺	口縁部	AB	SA1-1	－	－	－	横方向のナデ	ナデ		にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	2.5mm以下の黒色粒 1mm以下の黒色光沢粒、灰白色粒 微細な黒褐色粒	外面一部にスス付着
350	弥生土器	壺	胴部～底部	AB	SA1-3,4	－	－	－	縦方向のナデ	工具によるナデ		浅黄色	浅黄色	3mm以下の灰白色粒 1.5mm以下の灰白色粒	実底

第18表　中ノ迫第2遺跡土器観察表（3）

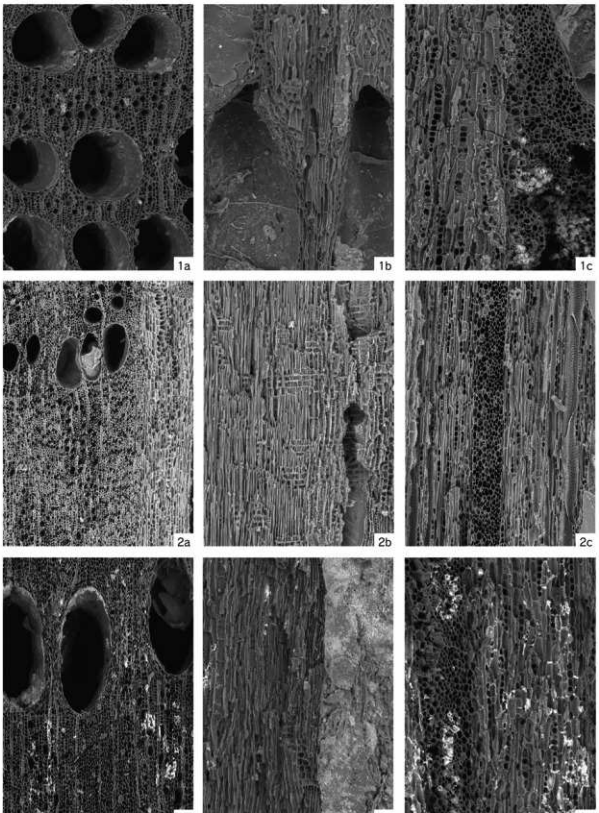
報告書番号	種別	器種	部位	出土地点区・郭	グリッド・遺構	法量(cm)口径	頸径	器高	調整外面	内面	土師	色調外面	内面	胎土	備考
351	弥生土器		底部	A3	SA1-3	－	－	－	ナデ	ナデ		浅黄色	浅黄色	1mm以下の乳白色粒が少し	小さな脚台
352	弥生土器		底部	A3	SA1-1	－	1.6	－	ナデ	ナデ		にぶい橙色	にぶい橙色	1mm以下の灰白色粒 1mm以下の赤褐色粒を少し含む	
359	弥生土器	壺	口縁部～底部	A3	SA2-1,4	24.0	5.1	32.9	横方向のナデ	ナデ		にぶい橙色	明黄褐色	2mm以下の浅黄色、乳白色粒が多い	外面スス付着
360	弥生土器	壺	口縁部～底部	A3	SA2-2	18.2	4.2	27.4	ナデ	ハケ目		明褐色	にぶい黄橙色	3mm以下の褐灰色、灰白色、褐色粒	外面一部にスス付着
361	弥生土器	壺	胴部～底部	A3	SA2-1,2,3,4	－	5.0	－	縦方向のハケ目	ハケ目の後ナデ		浅黄色	浅黄色	4mm以下の赤褐色粒 2mm以下の褐色粒が少し	内外共に僅かにスス付着
362	弥生土器	壺	口縁部～底部	A3	SA2-1,2	－	4.7	27.0	ハケ目	風化している		浅黄橙色	にぶい黄橙色	4mm以下の灰白色粒 3mm以下のにぶい赤褐色粒 微細な透明光沢粒	外面スス付着
363	弥生土器	壺	口縁部～底部	A3	SA2-1,2,3,4	18.2	－	－	ハケ目	斜方向のハケ目		にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	5mm以下の黄灰色粒 3mm以下の褐色粒	外面スス付着
364	弥生土器	壺	口縁部～胴部	A3	SA2-1,2,3,4	28.4	－	－	斜方向のハケ目	斜方向のハケ目		橙色 にぶい黄橙色	橙色 明褐橙色	2mm以下の乳白色、白色透明ガラス質、褐灰色粒が多い	口周部にハケ目 365と接合
365	弥生土器	壺	胴部～底部	A3	SA2-1,2,3,4	－	11.1	－	ハケ目	ハケ目		にぶい橙色	にぶい橙色	2.5mm以下の灰白色粒 2mm以下のにぶい黄橙色粒 微細な透明光沢粒	外面一部にススが付着 364と接合
366	弥生土器	壺	口縁部	A3	SA2-2,2 床上	18.4	－	－	縦方向のハケ目	斜方向のハケ目		にぶい赤橙色	橙色	1mm以下の黄色光沢粒、乳白色粒が少し	外面一部にススが付着
367	弥生土器	壺	口縁部～胴部	A3	SA2-2,4	－	－	－	斜方向のナデ	横方向のナデ		にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	1mm以下の黄色光沢粒、灰色、乳白色粒が多い	
368	弥生土器		胴部～底部	A3	SA2-2,4	－	5.2	－	ハケ目	ナデ		にぶい黄橙色	黄灰色	4mm以下の褐色、褐灰色粒	脚台付き 裏面に工具痕あり
369	弥生土器		胴部～底部	A3	SA2-4	－	4.1	－	ハケ目	風化している		にぶい黄橙色	黄褐色	6mm以下のにぶい黄橙色粒 4mm以下の褐灰色粒	脚台付き 外面一部にススが付着
370	弥生土器		胴部～底部	A3	SA2-1,4	－	5.1	－	ハケ目	ハケ目		にぶい赤橙色	にぶい橙色 黄灰色	2.5mm以下のにぶい赤褐色粒 1mm以下の乳白粒	脚台付き
371	弥生土器		底部	A3	SA2-3	－	3.5	－	縦方向のナデ	ナデ		にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	1mm以下の赤褐色、灰白色粒が少し	脚台付き
372	弥生土器		底部	A3	SA2-1	－	3.0	－	縦方向のナデ	縦方向のハケ目		にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	1.5mm以下のにぶい橙色粒 1mm以下のにぶい黄橙色粒が僅か	平底
373	弥生土器	壺	口縁部～底部	A3	SA2-4	15.9	3.2	12.1	縦方向のハケ目	横方向のハケ目		にぶい橙色	にぶい黄橙色	2mm以下の褐橙色粒 1mm以下の黄色粒 1mm以下の灰色粒が少し	外面スス付着
374	弥生土器	甕	口縁部～底部	A3	SA2-1,2	11.9	4.3	4.2	横方向のハケ目	ナデ		にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	1mm以下の黄色光沢粒、乳白粒	脚押圧丸の跡多数
375	弥生土器		底部	A3	SA2-1	－	－	－	工具によるナデ	ナデ		橙色	橙色	1mm以下の灰白色、灰色粒	尖底 手づくね
376	弥生土器	壺	口縁部～底部	A3	SA2-4	22.6	－	－	ナデが施られるが、摩滅のためはっきりしない	ナデ		浅黄橙色	にぶい橙色	6mm以下のにぶい橙色粒 5mm以下の褐灰色粒 4mm以下の灰白色粒	複合口縁、櫛描波状文 頸部に刺突帯
377	弥生土器	壺	口縁部～底部	A3	SA2-1,2,4	19.2	－	－	縦方向のハケ目	ハケ目の後ナデ		橙色	にぶい浅黄橙色 灰色	2mm以下の浅黄橙色、黒色粒が多い	複合口縁、櫛描波状文 頸部に刺突帯
378	弥生土器	壺	口縁部	A3	SA2-3	－	－	－	ナデ	ナデ		にぶい黄橙色	にぶい黄色	2mm以下の乳白粒 1.5mm以下の灰白色粒 微細な透明光沢粒	複合口縁 櫛描波状文
379	弥生土器	壺	口縁部	A3	SA2-1	15.2	－	－	ナデ	ナデ		橙色	浅黄橙色	1.5mm以下の灰白色粒 微細な透明光沢粒	内外共に一部にススが付着
380	弥生土器	壺	口縁部～頸部	A3	SA2-2,3	10.0	－	－	ナデ	ナデ		にぶい橙色	にぶい橙色	4mm以下の赤褐色粒 1mm以下の灰白粒	外面一部にススが付着
381	弥生土器		口縁部	A3	SA2-1	33.8	－	－	風化している	風化している		にぶい橙色	橙色	3mm以下の灰白色、黄灰色、明褐色粒	高杯もしくは器台の口縁部か
382	弥生土器		口縁部	A3	SA2-4	29.2	－	－	風化している	ハケ目		にぶい黄橙色	浅黄橙色	3mm以下の灰白色、褐色粒	高杯もしくは器台の口縁部か
383	弥生土器	高杯	杯部	A3	SA2-4	－	－	－	ミガキ	ナデ		橙色	明褐色	2mm以下の明褐灰色、褐灰色粒	
385	弥生土器	壺	口縁部～胴部	A3	B7-4撹乱	19.2	－	－	ハケ目が施られるが、摩滅のためはっきりしない	ハケ目が施られるが、摩滅のためはっきりしない		にぶい黄橙色	橙色	3mm以下の褐灰色粒が多い	外面スス付着
386	弥生土器	壺	口縁部～胴部	A3	B7-4撹乱	－	－	－	ハケ目が施られるが、摩滅のためはっきりしない	横方向のナデ		にぶい黄橙色	橙色	3mm以下のにぶい橙色、灰色、赤褐色粒が多い	外面スス付着
387	弥生土器		口縁部	A3	C7-3	－	－	－	ナデ	ナデ		浅黄橙色	にぶい黄橙色	3.5mm以下のにぶい橙色粒 2mm以下の灰白粒 1.5mm以下の褐橙色粒	外面一部にススが付着
388	弥生土器	壺	胴部	A3	C7-3	－	－	－	ハケ目	ハケ目		浅黄橙色	黄灰色	3mm以下の褐色粒 2mm以下の褐灰色粒	刻み目突帯あり
389	弥生土器		胴部	B3	SC1	－	－	－	ナデ	ナデ		にぶい黄橙色	灰色	1.5mm以下の灰白色粒 微細な黄灰色、透明光沢粒	持部不明土坑出土

第19表　中ノ迫第2遺跡土器観察表（4）



1．コナラ属コナラ亜属コナラ節（SI-7：炭化材2）
2．コナラ属コナラ亜属コナラ節（SI-38：炭化材）
3．コナラ属コナラ亜属コナラ節（SA1-4：炭化物一括）
a：木口，b：柾目，c：板目

200μm:a
200μm:b.c



1．コナラ属コナラ亜属コナラ節（SI-7：炭化材2）
2．コナラ属コナラ亜属コナラ節（SI-38：炭化材）
3．コナラ属コナラ亜属コナラ節（SA1-4：炭化物一括）
a：木口，b：柾目，c：板目

200μm:a
200μm:b.c

図版2

後期旧石器時代Ⅱ期 礫群 SI1

後期旧石器時代Ⅱ期 礫群 SI2

後期旧石器時代Ⅱ期 礫群 SI3

後期旧石器時代Ⅱ期 礫群 SI4

後期旧石器時代Ⅱ期 礫群 SI5

後期旧石器時代Ⅱ期 礫群 SI6

後期旧石器時代Ⅱ期 礫群 SI7

後期旧石器時代Ⅱ期 礫群 SI8

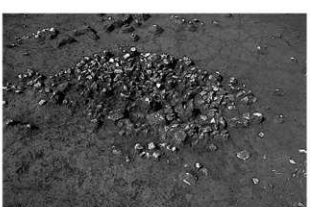
縄文時代早期集石遺構 Ⅰ類 SI7

縄文時代早期集石遺構 Ⅰ類 SI12

縄文時代早期集石遺構 Ⅰ類 SI7 配石

縄文時代早期集石遺構 Ⅰ類 SI12 配石

縄文時代早期集石遺構 Ⅰ類 SI32



縄文時代早期集石遺構 Ⅰ類 SI38

縄文時代早期集石遺構 Ⅰ類 SI32 配石

縄文時代早期集石遺構 Ⅰ類 SI38 配石

縄文時代早期集石遺構 Ⅱ類 SI2

縄文時代早期集石遺構 Ⅱ類 SI3

縄文時代早期集石遺構 Ⅱ類 SI5

縄文時代早期集石遺構 Ⅱ類 SI8

縄文時代早期集石遺構 Ⅱ類 SI9

縄文時代早期集石遺構 Ⅱ類 SI10

縄文時代早期集石遺構 Ⅱ類 SI13

縄文時代早期集石遺構 Ⅱ類 SI14

縄文時代早期集石遺構 Ⅱ類 SI18

縄文時代早期集石遺構 Ⅱ類 SI23

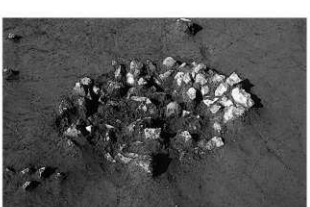
縄文時代早期集石遺構 Ⅱ類 SI25・Ⅲ類 SI24

縄文時代早期集石遺構 Ⅱ類 SI26

縄文時代早期集石遺構 Ⅱ類 SI27

縄文時代早期集石遺構 Ⅱ類 SI29

縄文時代早期集石遺構 Ⅱ類 SI31


縄文時代早期集石遺構 Ⅱ類 SI33

縄文時代早期集石遺構 Ⅱ類 SI37

縄文時代早期集石遺構 Ⅲ類 SI1

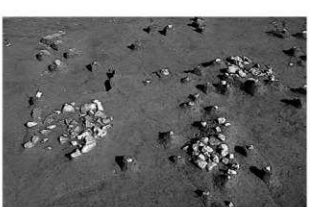
縄文時代早期集石遺構 Ⅲ類 SI4

縄文時代早期集石遺構 Ⅲ類 SI15

縄文時代早期集石遺構 Ⅲ類 SI16

縄文時代早期集石遺構 Ⅲ類 SI17

縄文時代早期集石遺構 Ⅲ類 SI19



SI16・17・19 検出状況

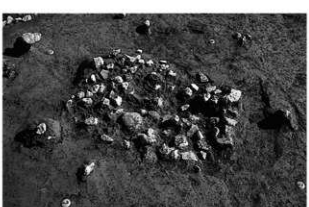
縄文時代早期集石遺構 Ⅲ類 SI20

縄文時代早期集石遺構 Ⅲ類 SI21

縄文時代早期集石遺構 Ⅲ類 SI22

SI21・22 検出状況

縄文時代早期集石遺構 Ⅲ類 SI28



縄文時代早期集石遺構 Ⅲ類 SI30

縄文時代早期集石遺構 Ⅲ類 SI34

縄文時代早期集石遺構 Ⅲ類 SI35

縄文時代早期集石遺構 Ⅲ類 SI36

縄文時代早期炉穴 SP1

縄文時代早期土坑 SC1

縄文時代早期 SI12・38 周辺散礫

G11 グリッド（Ⅲ層）遺物検出

A区（Ⅲ層）作業風景

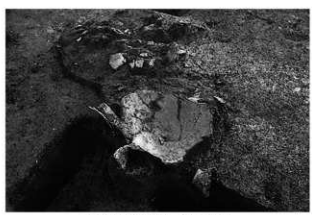
弥生時代竪穴住居跡 SA1

弥生時代竪穴住居跡 SA1

弥生時代 SA1 床面検出

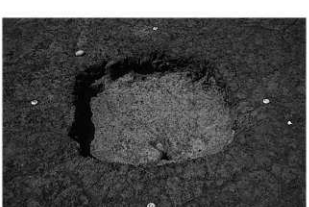
弥生時代竪穴住居跡 SA2

弥生時代 SA2 遺物検出


弥生時代 SA2 遺物検出

弥生時代 SA2 床面検出

弥生時代 SA2 掘削状況


時期不明土坑 SC1

時期不明遺構 SZ1